



くまもと県北病院

KUMAMOTO KENHOKU HOSPITAL



2023 年度

くまもと県北病院年報

【 2023 年 4 月～ 2024 年 3 月 】

【理事長挨拶】



くまもと県北病院 理事長 山下 康行

地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します

くまもと県北病院は2021年3月1日に開院し、早3年が経ちました。コロナ禍の中での開院でしたが、新型コロナ感染症も通常の感染症としての取り扱いとなり、日本全国で海外からの観光客も増加し、文字通りコロナと共に存するポストコロナの時代となりました。当院もポストコロナの体制での運用を開始しております。当院は30余の診療科、病床402床を有する県北の基幹病院であります。病床の内訳は一般病床312床、回復期リハビリテーション病床45床、地域包括ケア病棟45床で、高度医療から救急医療、地域医療に力を入れております。熊本大学病院の地域医療総合診療実践学寄付講座の玉名教育拠点も設置された教育病院であります。

開院後、連携の先生方の紹介に加えて、救急に特に力を入れ、県北で最も多い救急患者を受け入れてきました。また小児の24時間の診療体制を維持しており、多くの子供たちが受診しております。一方、最先端の診療機器も導入し、泌尿器領域のロボット手術や多くの癌の手術も行い、症例数も順調に増加しております。また2023年度は外来予約センターの立ち上げなど患者サービス面でも充実をはかっております。災害医療の一環として、先日は能登半島にDMAT隊を派遣いたしました。今後は人口減少の中、高度な急性期医療と合わせて、高齢化社会に即応した亜急性期医療、検診を中心とした予防医療にも力を入れていきたいと考えております。

2024年4月より救急科が新設され、救急医療を充一層充実させ、皆様のご期待に応えたいと思います。また消化器外科・外科におきましてはスタッフが1名増員されました。全体として2023年度において16名（内7名研修医）の医師が医局人事による移動などにより退職、15名（内5名研修医）が入職し、常勤医総数80名の県下でも有数の医師数を維持しております。

今後も、救急医療、がん診療、災害医療、予防医療、小児の24時間診療体制など病院の基幹診療も継続し、地域の皆様に利用しやすい病院として職員一同、県北の医療を力強く支えていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

【病院長挨拶】



くまもと県北病院 病院長 田宮 貞宏

平素より大変お世話になっております。くまもと県北病院の年報をお届けします。
本年報をご覧いただき、日頃のご支援がどのように実績に反映しているか、また、期待通りにいって
いない部分が何なのかをご確認いただき、さらなるご指導をいただけると幸いです。

地域包括ケアシステムの重要性がますます高まっております。当院もその一翼を担い、地域の皆様に
必要とされる医療を提供していくことを使命と考えております。そのためには地域のセーフティネット
を強化し、医療・福祉・介護の連携を深化させることができると認識しております。

病院としては診療の質を向上させるために様々な取り組みを行っております。その一環として年報を
通じて病院のデータを公表し、透明性のある取り組みを行い、皆様のご意見を取り入れ、共に診療の質
の向上に努めて参ります。また、連携の改善に向けて、より多くのステークホルダーの皆様との協議を
重ね、地域全体での医療・福祉・介護の質と安全性の向上を目指し、住民の皆様の安心に寄与していき
たいと思います。

病院理念

【基本理念】

私たちは地域の皆様に安心と信頼を提供する県北の中核病院を目指します

【基本方針】

<私たちの約束>

1. 患者中心の安全で質の高い医療を提供します
2. 大学と連携して高度医療を推進します
3. 地域の医療機関と連携して地域医療や福祉に貢献します
4. 急性期医療と地域医療の両方を実践する教育病院を目指します
5. 救急・災害拠点病院としての機能を推進します
6. 健診機能の充実をはかり、皆様の健康増進をはかります



目 次 (No.1)

はじめに

理事長挨拶	1
病院長挨拶	2
病院理念	3
目次(No.1)	4
目次(No.2)	5

病院の概要

病院概要	6
組織図	7
沿革	8
施設基準一覧(No.1)～(No.6)	10
職員数	16

活動報告

総合診療科	17
呼吸器内科	18
血液内科	20
腫瘍内科	22
脳神経内科	24
循環器内科	25
糖尿病・内分泌内科	28
腎臓内科	29
消化器内科	30
小児科	32
消化器外科	33
呼吸器外科	35
乳腺外科	37
泌尿器科	38
整形外科	40
脳神経外科	42
皮膚科	43
眼科	44
耳鼻咽喉科	46

目 次 (No.2)

歯科口腔外科	48
婦人科	50
麻酔科	51
放射線科	52
病理診断科	53
緩和ケア内科・外科	54
救急科	56
外来化学療法室	57
事務部	58
健康管理センター	60
医療福祉連携部	62
看護部	64
薬剤部	68
放射線科	70
臨床検査科	72
臨床工学科	74
リハビリテーション技術科	75
栄養管理科	76
医療安全管理部	78
感染対策室	79
初期臨床研修医報告	80
市民公開講座	85

各種統計

1日平均外来患者数と新規患者数推移/外来診療額と外来単価	89
入院診療額と入院単価(病棟機能別)	90
1日平均入院患者数と新規入院患者数推移(病棟機能別)	93
平均在院日数(一般病棟のみ)/救急センター患者数	94
救急車台数/救急センター患者来院方法	95
紹介率、逆紹介率	96
診療科別紹介率、逆紹介率	97
手術件数、診療科別手術件数	98
病床稼働率	99
院内がん登録件数	100
新規患者性別・年齢別登録数	101
新規患者地域別登録数/新規患者診療科別登録数	102
退院患者 ICD 分類別疾患統計	103

病院概要

名称 : 地方独立行政法人くまもと県北病院

所在地 : 〒865-0005 熊本県玉名市玉名 550 番地 TEL 0968-73-5000

URL : <https://kumakenhoku-hp.jp>

理事長 : 山下 康行

病院長 : 田宮 貞宏

病床数 : 一般病床 402 床

(一般 284 床・HCU 18 床・小児 10 床・回復期リハビリテーション病棟 45 床・地域包括ケア病棟 45 床)

診療科目 : 総合診療科 呼吸器内科 血液内科 感染症内科 腫瘍内科 脳神経内科 循環器内科
糖尿病・内分泌内科 腎臓内科 消化器内科 小児科 外科 消化器外科 呼吸器外科
乳腺外科 泌尿器科 整形外科 脳神経外科 皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科 歯科口腔外科
婦人科 麻酔科 緩和ケア内科 放射線科 精神科 病理診断科 アレルギー科 膠原病・リウマチ科
リハビリテーション科 救急科

(2024 年 3 月 31 日現在)

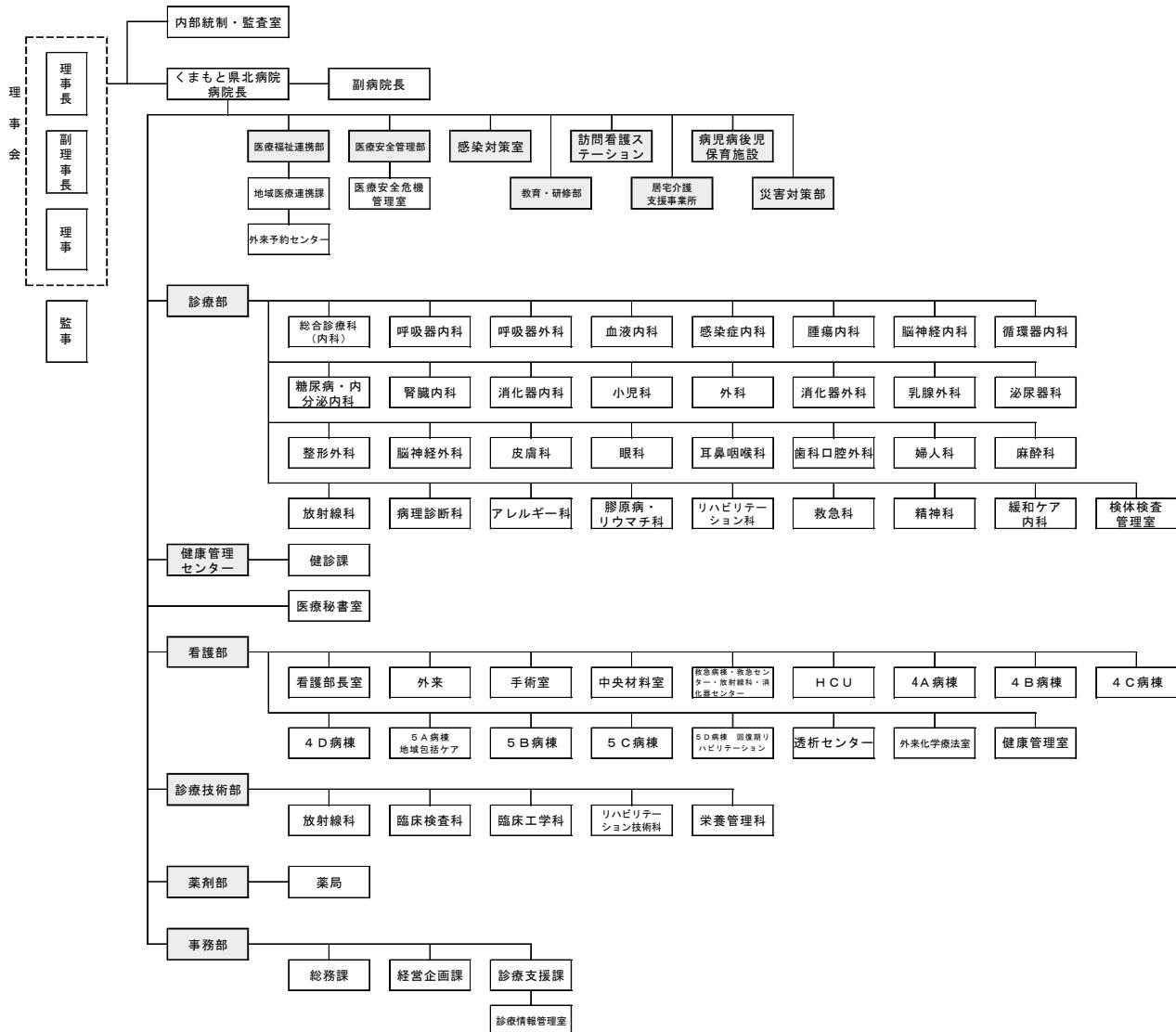
延床面積 : 34,122.20m²

敷地面積 : 47,025.97m²

関連施設 : 健康管理センター・訪問看護ステーション・指定居宅介護支援事業所・
病児病後児保育(ひだまりキッズ)・院内保育所(はぴすく)

◆地方独立行政法人くまもと県北病院組織図

(2024年3月31日)



沿革

公立玉名中央病院

年	月	事 項
昭和 29 年	11 月	玉名済春病院 開設(伝染 45 床)
昭和 34 年	10 月	結核病床新設(25 床)
昭和 38 年	12 月	一般病床新設(20 床)
昭和 51 年	5 月	玉名農村検診センター開設
昭和 56 年	4 月	公立玉名中央病院に名称変更し新築開院(一般 187 床、結核 23 床、伝染 20 床)
昭和 59 年	8 月	伝染病床廃止
平成 4 年	4 月	増築し増床(一般 331 床、結核 20 床)
平成 19 年	3 月	結核病床廃止
平成 19 年	10 月	病床数変更(一般 302 床)
平成 22 年	6 月	回復期リハビリテーション病棟開設(40 床)(一般病床 262 床に減)
平成 23 年	10 月	病児病後児保育施設「ひだまりキッズ」開設
平成 27 年	4 月	熊本大学医学部付属病院地域医療実践教育玉名拠点開設
平成 29 年	10 月	地方独立行政法人くまもと県北病院機構開設
平成 30 年	4 月	公立玉名中央病院と玉名都市医師会立玉名地域保健医療センターの経営統合
令和 3 年	3 月	くまもと県北病院開院(一般 402 床)

玉名地域保健医療センター

年	月	事 項
昭和 60 年	5 月	玉名地域保健医療センター開院
平成 3 年	7 月	北病棟増設(療養病棟)(一般 100 床、療養 50 床)
平成 26 年	4 月	病床変更(一般 53 床、地域包括ケア 47 床、療養 50 床)
平成 30 年	4 月	公立玉名中央病院と玉名都市医師会立玉名地域保健医療センターの経営統合
令和 3 年	3 月	くまもと県北病院開院(一般 402 床)

くまもと県北病院

年	月	事 項
平成 31 年	4 月	くまもと県北病院 着工
令和 2 年	10 月	くまもと県北病院 竣工
令和 3 年	3 月	くまもと県北病院開院(一般 402 床)
令和 3 年	4 月	熊本県指定がん拠点連携拠点病院 指定 救急ワークステーション設置(高規格救急車 1 台と救急救命士 2 名常駐)
令和 4 年	4 月	HCU(ハイケアユニット)開設(18 床)
令和 5 年	2 月	手術支援ロボット導入



施設基準一覧(No.1)

基本診療科			
分類	点数表コード	名称	算定開始日
初・再診料	歯科 A000・2	地域歯科診療支援病院歯科初診料	令和4年8月1日
初・再診料	歯科 A000・注9	歯科外来診療環境体制加算2	令和4年8月1日
入院基本料	A100	急性期一般入院料1	令和4年10月1日
特定入院料	A301-2	ハイケアユニット入院医療管理料1	令和4年4月1日
特定入院料	A307	小児入院医療管理料4(養育支援体制加算)	令和4年7月1日
特定入院料	A308	回復期リハビリテーション病棟入院料1	令和4年7月1日
特定入院料	A308-3	地域包括ケア病棟入院料2 (看護職員配置加算) (看護補助体制充実加算)	令和5年5月1日
入院基本料等加算	A205	救急医療管理加算	令和3年3月1日
入院基本料等加算	A207	診療録管理体制加算1	令和4年4月1日
入院基本料等加算	A207-2	医師事務作業補助体制加算1(15:1)	令和6年3月1日
入院基本料等加算	A207-3	急性期看護補助体制加算25対1 (看護補助者5割以上)(夜間看護体制加算)(看護補助体制充実加算) 夜間100対1急性期看護補助体制加算	令和6年2月1日 令和5年6月1日
入院基本料等加算	A219	療養環境加算	令和3年3月1日
入院基本料等加算	A221	重症者等療養環境特別加算	令和4年12月1日
入院基本料等加算	A224	無菌治療室管理加算1	令和3年6月1日
入院基本料等加算	A234	医療安全対策加算1 (医療安全対策地域連携加算)	令和3年3月1日
入院基本料等加算	A234-2	感染対策向上加算1 (指導強化加算)	令和4年4月1日
入院基本料等加算	A234-3	患者サポート体制充実加算	令和3年3月1日
入院基本料等加算	A236	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	令和3年3月1日

施設基準一覧(No.2)

基本診療科			
分類	点数表コード	名称	算定開始日
入院基本料等加算	A242	呼吸ケアチーム加算	令和3年3月1日
入院基本料等加算	A242-2	術後疼痛管理チーム加算	令和4年11月1日
入院基本料等加算	A243	後発医薬品使用体制加算1	令和4年4月1日
入院基本料等加算	A245	データ提出加算イ	令和3年3月1日
入院基本料等加算	A246	入退院支援加算1 (入院時支援加算)	令和4年10月1日
入院基本料等加算	A247	認知症ケア加算1	令和3年3月1日
入院基本料等加算	A247-2	せん妄ハイリスク患者ケア加算	令和3年3月1日
入院基本料等加算	A252	地域医療体制確保加算	令和4年10月1日
入院基本料等加算	A500	看護職員処遇改善評価料51	令和4年10月1日
特掲診療料			
医学管理料等	B001-9・注2	外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	令和3年7月1日
医学管理料等	B001-20	糖尿病合併症管理料	令和3年3月1日
医学管理料等	B001-22	がん性疼痛緩和指導管理料	令和3年3月1日
医学管理料等	B001-23	がん患者指導管理料イ	令和4年10月1日
医学管理料等	B001-23	がん患者指導管理料ロ	令和3年3月1日
医学管理料等	B001-23	がん患者指導管理料ハ	令和3年3月1日
医学管理料等	B001-27	糖尿病透析予防指導管理料	令和3年3月1日
医学管理料等	B001-34	二次性骨折予防継続管理料1	令和4年12月1日
医学管理料等	B001-34	二次性骨折予防継続管理料2	令和4年12月1日
医学管理料等	B001-34	二次性骨折予防継続管理料3	令和4年12月1日
医学管理料等	B001-2-5	院内トリアージ実施料	令和3年3月1日

施設基準一覧(No.3)

特掲診療科			
分類	点数表コード	名称	算定開始日
医学管理料等	B001-2-6	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算1	令和3年3月1日
医学管理料等	B001-2-12	外来腫瘍化学療法診療料1	令和4年10月1日
医学管理料等	B001-2-12・注6	連携充実加算	令和4年4月1日
医学管理料等	B002	開放型病院共同指導料	令和3年3月1日
医学管理料等	B005-6	がん治療連携計画策定料	令和4年7月1日
医学管理料等	B005-8	肝炎インターフェロン治療計画料	令和3年3月1日
医学管理料等	B008	薬剤管理指導料	令和3年3月1日
医学管理料等	B011-4	医療機器安全管理料1	令和3年3月1日
歯科・医学管理料等	歯科 B004-6-2	歯科治療時医療管理料1	令和3年4月1日
在宅患者診療・指導料	C005	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	令和3年3月1日
在宅医療	C012	在宅療養後方支援病院	令和3年4月1日
在宅医療	C152-2	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	令和3年3月1日
在宅医療	C152-2	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	令和3年3月1日
検査	D006-18	BRCA1/2 遺伝子検査 (腫瘍細胞を検体とするもの) (血液を検体とするもの)	令和4年4月1日
検査	D010-8	先天性代謝異常症検査	令和3年5月1日
検査	D026・注4	検体検査管理加算(I)	令和3年3月1日
検査	D026・注4	検体検査管理加算(IV)	令和3年3月1日
検査	D211-3/4	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	令和3年6月1日

施設基準一覧(No.4)

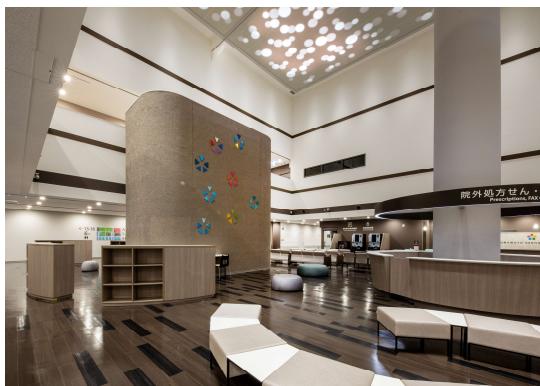
特掲診療科			
分類	点数表コード	名称	算定開始日
検査	D239-3	神経学的検査	令和3年3月1日
検査	D291-2	小児食物アレルギー負荷検査	令和3年3月1日
検査	D291-3	内服・点滴誘発試験	令和3年6月1日
歯科・検査	歯科 D013	精密触覚機能検査	令和3年5月1日
画像診断	E 通則 4/5	画像診断管理加算 2	令和3年3月1日
画像診断	E200/202	CT撮影及びMRI撮影 (64列以上のマルチスライス CT)	令和3年3月1日
画像診断	E200/202	CT撮影及びMRI撮影 (3テスラ以上)	令和3年3月1日
画像診断	E200/202	CT撮影及びMRI撮影 (1.5テスラ以上 3テスラ未満)	令和3年3月1日
画像診断	E200/202	冠動脈 CT撮影加算	令和3年3月1日
画像診断	E200/202	心臓 MRI撮影加算	令和3年3月1日
画像診断	E200/202	小児鎮静下 MRI撮影加算	令和3年3月1日
投薬	F400・注 6	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	令和3年3月1日
注射	G 通則 6	外来化学療法加算 1	令和3年3月1日
注射	G 通則 6	連携充実加算	令和3年3月1日
注射	G020	無菌製剤処理料	令和3年3月1日
リハビリテーション	H000	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	令和3年3月1日
リハビリテーション	H001	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	令和3年3月1日
リハビリテーション	H002	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	令和3年3月1日
リハビリテーション	H003	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	令和3年3月1日
リハビリテーション	H007-2	がん患者リハビリテーション料	令和3年3月1日

施設基準一覧(No.5)

特掲診療科			
分類	点数表コード	名称	算定開始日
歯科・リハビリテーション	歯科 H001-3	歯科口腔リハビリテーション料 2	令和3年4月1日
処置	J038	人工腎臓 (慢性維持透析を行った場合 1)	令和3年3月1日
処置	J038	導入期加算 1	令和3年3月1日
処置	J038	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	令和3年3月1日
処置	J038	下肢抹消動脈疾患指導管理加算	令和3年3月1日
歯科・処置	歯科 I021	手術用顕微鏡加算	令和3年6月1日
歯科・処置	歯科 I029-3	口腔粘膜処置	令和3年4月1日
歯冠修復及び欠損補綴	歯科 M015-2	CAD/CAM 冠及び CAD/CAM インレー	令和3年4月1日
手術	K046/K081	緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	令和5年7月1日
手術	K597/597-2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	令和3年3月1日
手術	K600	大動脈バルーンパンピング法(IABP 法)	令和3年3月1日
手術	K773-5/6	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	令和5年2月1日
手術	K800-3/4	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	令和3年3月1日
手術	K803-2/K803-3	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍術及び腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍術	令和5年8月1日
手術	K823-5	人工尿道括約筋植込・置換術	令和3年5月1日
手術	K823-7/K828-3/K835-1	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫術(鼠径部切開によるもの)	令和4年4月1日
手術	K843-4	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	令和5年6月1日
手術	K 通則 5/6	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	令和3年3月1日
手術	K920-2	輸血管理料Ⅱ	令和3年3月1日

施設基準一覧(No.6)

特掲診療科			
分類	点数表コード	名称	算定開始日
手術	K920-2	輸血適正使用加算	令和3年3月1日
手術	K939-3	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	令和6年1月1日
手術	K939-5	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	令和3年3月1日
歯科・手術	歯科 J063-5	歯周組織再生誘導手術	令和3年4月1日
歯科・手術	歯科 J019	広範囲顎骨支持型装置埋込手術	令和3年4月1日
歯科・手術	歯科 J004-3	歯根端切除手術の注3	令和3年6月1日
手術	K939-7	レーザー機器加算	令和3年4月1日
麻酔	L009	麻酔管理料(I)	令和3年3月1日
病理診断	N006・注4	病理診断管理加算1	令和3年3月1日
病理診断	N006・注5	悪性腫瘍病理標本加算	令和5年11月1日
歯冠修復及び欠損補綴	歯科 M000-2	クラウン・ブリッジ維持管理料	令和3年4月1日
入院時食事療養		入院時食事療養/生活療養(I)	令和3年3月1日
その他		酸素の購入単価	令和4年4月1日



職員数

(令和6年3月31日)

職種	正職員	有期雇用職員	再雇用職員	合計
医師	57	7	3	67
研修医		12		12
看護師	335	51	14	400
看護助手	1	35	4	40
薬剤師	17	1		18
理学療法士	25		1	26
作業療法士	11			11
言語聴覚士	4			4
放射線技師	19	1		20
臨床検査技師	23	11	2	36
臨床工学技士	14			14
歯科衛生士	3	1		4
視能訓練士	1			1
管理栄養士	6	1		7
保育士		2		2
事務員	44	57	3	104
社会福祉士	11			11
介護福祉士	7			7
医師事務作業補助者		32		32
クラーク		8		8
医局秘書		2		2
警備		1		1
労務		3		3
総計	578	225	27	830

総合診療科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:5名 非常勤医:2名

総合診療科では以下のような患者さんの診療を担当します。

- 様々な疾患を抱えていて、何科にかかったら良いか分からない。
- 原因が分からないが、発熱を認める。
- 普段特定の科にかかりつけだが、全身における健康状態が心配である。

診断がつかない状態の患者さんについて、総合的に問診や診察、検査を駆使して診断することを一手に担っています。診断がついた際は、必要に応じて専門領域の医師に引き継ぐこともあります。専門医の特殊な治療や検査が必要ないと判断した場合は、引き続き治療まで当科で担当します。

まずは、良くわからない時の「よろず相談所」として、ご利用ください。随時、外来受診・入院治療のご相談をお受けします。

「地域住民に最も近い医師」、それが総合診療医です。

当科は継続的に地域に貢献できる総合医育成の為の教育拠点として、熊本大学病院の院外教育拠点としての機能も兼ねています。診療において、研修医や医学部学生が陪席することがありますので、予めご了承下さい。尚、ご都合により陪席を遠慮頂きたい場合は、その旨前もって外来担当の看護師までお伝えください。

ご理解とご協力の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

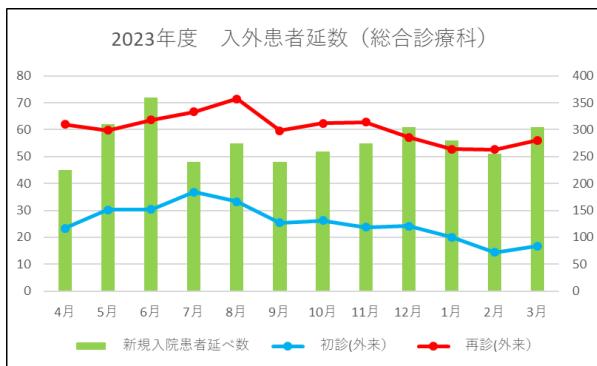
《主な疾患と治療法》

感染症、悪性腫瘍、膠原病を中心とした熱性疾患に対し、診断から治療（抗菌薬、ステロイド薬などの薬物治療等）まで、時に領域別専門医の協力も得ながら、診療を実施しています。また、重症の感染症患者さんの臓器横断的治療も実施し、急性期治療にも積極的に取り組んでいます。

一方で、研修医・医学生教育にも取り組んでおり、地域での人材育成や、多職種連携にも積極的に介入しています。退院後の生活・介護環境調整も大切な診療業務の一環とし、地域完結型の医療を目指しています。

2 実績

2023年度の入外患者数



総合診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	45	62	72	48	55	48	52	55	61	56	51	61	666
初診(外来)	117	151	152	184	166	127	131	119	121	100	72	84	1,524
再診(外来)	310	299	318	333	357	298	312	314	286	264	263	280	3,634

2023年度の入院患者疾患別件数

総合診療科	件数
誤嚥性肺炎	55
細菌性肺炎	26
全身性廃用症候群	25
うっ血性心不全	23
急性腎盂腎炎	22
COVID-19	20
全身性横紋筋融解症	18
心臓急死	18
敗血症性ショック	17
尿路感染症	12

呼吸器内科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医: 7名

呼吸器内科では肺炎などの感染症や気管支喘息、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、間質性肺炎、気胸など呼吸器疾患全般の診療を行っています。また肺癌の治療にも力を入れており抗がん剤や分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などでの治療を行っています。

検査では肺機能検査や喀痰検査、呼気一酸化窒素(FeNO)、ポリソムノグラフィー、気管支鏡による経気管支肺生検や気管支肺胞洗浄なども行っています。呼吸器外科と連携し、外科的肺生検も行っています。

多数の人工呼吸器や非侵襲的人工呼吸器を備え、重症呼吸不全の管理も行います。

玉名郡市、荒尾市、山鹿市医師会との病診連携にも力を入れ、多くの患者さんをご紹介いただいています。

《主な疾患と治療法》

●肺炎

細菌やウィルスなどが肺に感染し炎症を起こす疾患です。市中肺炎や院内肺炎、誤嚥性肺炎など病態に応じて抗生素治療などを行います。

●気管支喘息

気管支喘息は気道の慢性炎症を主病態とし、発作性の喘鳴や呼吸苦を呈します。治療は気道の炎症を抑える吸入ステロイドを中心とし、気管支拡張薬や抗アレルギー薬などを使用します。

●慢性閉塞性肺疾患(COPD)

慢性閉塞性肺疾患はタバコの煙を主な原因とし、気道が狭くなる(閉塞性障害)疾患です。治療はまず禁煙していただき、抗コリン薬や β 刺激薬などの気管支拡張剤で治療します。

●睡眠時無呼吸症候群

睡眠時にいびきや無呼吸を呈し、日中の過度の眠気を引き起します。また高血圧や不整脈などの心血管系の合併症も引き起します。治療は主にCPAP(持続陽圧呼吸療法)を行います。

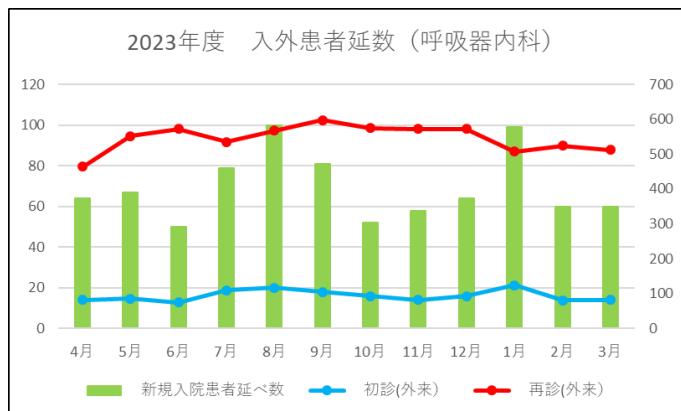
●肺癌

肺癌は気管支や肺胞から発生する癌で、日本人の死因1位です。血痰や呼吸苦などの症状がみられる場合もありますが、無症状でも検診で発見されることも多いです。肺癌のタイプや遺伝子異常の有無、病期(ステージ)に応じて手術、放射線治療、抗がん剤治療、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などで治療します。

その他間質性肺炎、胸部異常陰影など。

2 実績

2023年度の入外患者数



呼吸器内科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	64	67	50	79	100	81	52	58	64	99	60	60	834
初診(外来)	82	85	75	109	117	105	93	82	93	124	80	82	1,127
再診(外来)	464	552	573	535	568	598	575	573	572	507	524	512	6,553

2023年度の入院患者疾患別件数

呼吸器内科	件数
誤嚥性肺炎	182
COVID-19	144
細菌性肺炎	120
上葉肺癌	59
下葉肺癌	41
特発性間質性肺炎	36
気管支喘息発作	16
睡眠時無呼吸症候群	15
慢性閉塞性肺疾患の急性増悪	12
続発性気胸	10

血液内科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:2名 非常勤医:3名

血液内科は、貧血、止血・凝固異常、血液悪性腫瘍といった血液疾患の診断と治療にあたる診療科です。当科は、前身の公立玉名中央病院で2017年4月に新設されました。新病院に移転して2023年4月現在、常勤医2名、非常勤医2名で診療を行っています。

貧血、出血症状、あるいはリンパ節腫脹などの症状に対して、血液検査や各種画像検査を行い、必要に応じて骨髄検査などの組織検査を追加して診断確定を図ります。さまざまな血液悪性腫瘍に対しては、抗がん剤による内科的治療を行っています。新病院では無菌室2床を設置し、より高度な医療提供が可能となりました。難治性疾患に対しては、熊本県内の基幹病院と連携しながら治療を進めています。

《主な疾患と治療法》

●急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、成人T細胞白血病

複数の抗がん剤を組み合わせた多剤併用療法が基本になります。悪性リンパ腫や多発性骨髄腫では、入院での治療導入後、可能な限り外来での治療に移行します。高齢や併存症などのために強い抗がん剤治療を受けることが難しい方にも、症状緩和を目的とした抗がん剤治療を行っています。

●骨髄異形成症候群

貧血などの症状が進行した際は、免疫抑制療法やサイトカイン療法を行うことがあります。また抗がん剤治療を選択する場合もあります。血球減少に応じて、輸血を行います。

●慢性骨髓性白血病

チロシンキナーゼ阻害剤により優れた長期成績が確認され、第一選択薬となっています。主に外来での治療となります。

●慢性リンパ性白血病

多くは経過が緩やかであり早期では経過観察を行います。病状が進行した際は抗がん剤治療を選択します。

●真性多血症、本態性血小板血症

リスクに応じて血栓症予防や細胞減少療法を行います。

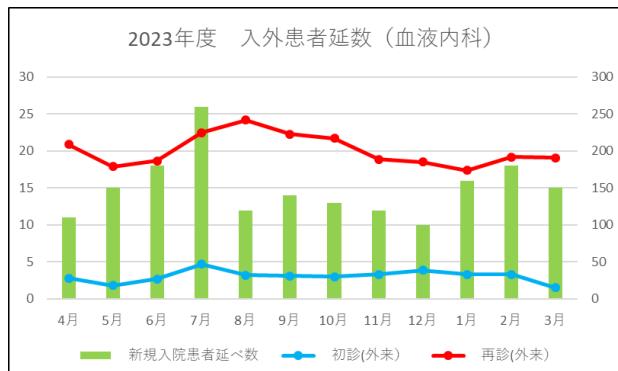
●再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病

厚生労働省研究班の診療の参考ガイドに則り、免疫抑制療法やステロイド治療などを選択します。

造血幹細胞移植療法の適応がある際には、移植施設である熊本大学病院、熊本医療センターと連携しながら治療を進めます。

2 実績

2023年度の入外患者数



血液内科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	11	15	18	26	12	14	13	12	10	16	18	15	180
初診(外来)	28	18	27	47	32	31	30	33	39	33	33	15	366
再診(外来)	209	179	187	225	242	223	217	189	185	174	192	191	2,413

2023 年度の入院患者疾患別件数

血液内科	件数
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	46
多発性骨髓腫	22
急性骨髓性白血病	18
血管免疫芽球性T細胞リンパ腫	8
低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫	7
特発性再生不良性貧血	6
特発性血小板減少性紫斑病	5
骨髓異形成関連変化を伴う急性骨髓性白血病	5
骨髓異形成症候群	2
成人T細胞白血病リンパ腫・リンパ腫型	2

腫瘍内科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:1名

現在、国民の2人に1人が「がん」を経験し、3人に1人が「がん」で命を落とす状態で、「がん」は国民病的な存在となっています。がん治療は、手術療法、抗がん剤治療、分子標的治療、免疫療法、放射線治療、緩和療法に分かれますが、その中で内科治療の占める割合は大きく、手術をした患者さんでも内科治療を受けられる方もいらっしゃいます。

がんの内科治療は様々な副作用を伴い、抗がん剤の取り扱いに慣れた医師が行わないと、重大な副作用を発症し治療効果もあがりません。

当科での対象疾患は、肺癌、悪性胸膜中皮腫、等の胸部悪性腫瘍です。肺癌については、呼吸器内科・外科と連携しており、手術可能な症例は呼吸器外科へ紹介し当院で手術します。

肺癌の内科治療はこの5年間でみても格段進歩しており、成績も向上しています。癌細胞の遺伝子情報を調べる事で分子標的治療の適応の有無をチェックして、各患者さん毎にテーラーメイドの治療を提供できます。また、ノーベル医学賞で有名となった免疫療法(PD-1抗体、PD-L1抗体、CTLA-4抗体)は、抗がん剤単独治療と比し効果も上がっており、その副作用については、抗がん剤ほど発現頻度は高くありませんが、抗がん剤とは違った、免疫療法特有の副作用が起こります。治療においては使い慣れた医師でないと対応が遅れる場合があります。

【外来化学療法室】

外来で抗がん剤治療を行うに際し、当院は広くて明るく眺めも良い立派な外来化学療法室を完備しており、アメニティーについても配慮し快適な環境で抗がん剤治療を提供できます。がん化学療法認定看護師を含め抗がん剤治療に熟練した看護師が常勤しており、気になる事、心配事も気軽に相談して頂けるようにしております。



《主な疾患と治療法》

●肺癌

抗がん剤治療、分子標的治療、免疫療法、抗がん剤治療+免疫療法、放射線治療、抗がん剤治療+放射線治療と多く、ガイドラインに沿った、個々の患者さんに多様のテーラーメイドの治療を提供できるように心がけます。

●悪性胸膜中皮腫

抗がん剤治療、免疫療法。

2 実績

《2023年 診療実績》

抗がん剤治療件数

- ・外来 … 721 件
- ・入院 … 179 件

分子標的治療薬

- ・上皮成長因子受容体阻害剤(EGFR-TKI)…9 件
- ・ALK 融合遺伝子阻害剤(ALK-TKI) …2 件

免疫療法(単独)

- ・ニボルマブ … 22 件
- ・ペンブロリズマブ … 8 件
- ・アテゾリズマブ …11 件
- ・デュルバルマブ…7 件

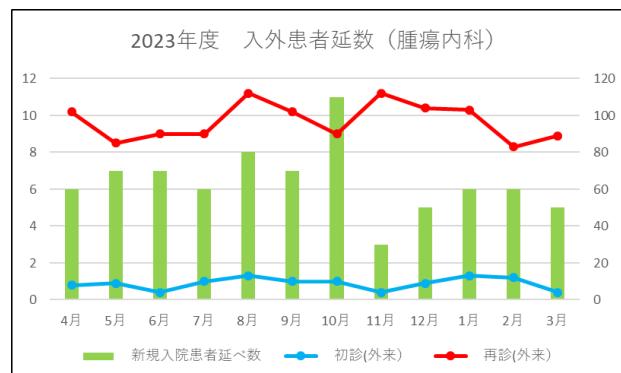
抗がん剤治療+免疫療法

- ・抗がん剤+ペンブロリズマブ … 176 件
- ・抗がん剤+デュルバルマブ…32 件

免疫療法+免疫療法

- ・ニボルマブ+イピリムマブ…0 件

2023 年度の入外患者数



2023 年度の入院患者疾患別件数

腫瘍内科	件数
上葉肺腺癌	25
下葉肺腺癌	20
誤嚥性肺炎	8
細菌性肺炎	8
慢性閉塞性肺疾患の急性増悪	3
急性薬物誘発性間質性肺障害	2
右中葉肺癌	2
特発性間質性肺炎	1
悪性胸膜中皮腫	1
石綿肺	1

脳神経内科

1 基本情報

《スタッフ》

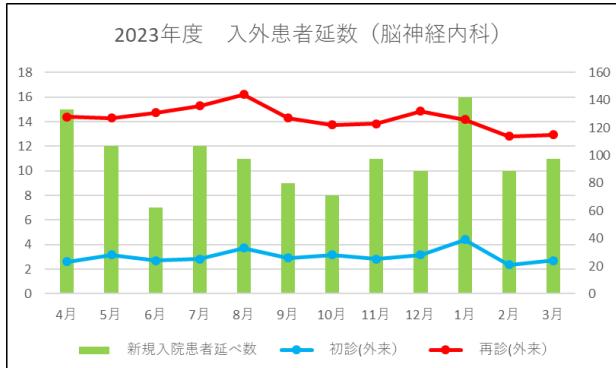
常勤医:1名 非常勤医:1名

脳神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉などの脳神経系疾患に対応する診療科です。具体的には脳血管障害(主として脳梗塞等)、髄膜炎・脳炎、てんかん、ギラン・バレー症候群などの救急疾患やパーキンソン病、脊髄小脳変性症、認知症などの神経変性疾患、多発性硬化症、重症筋無力症などの神経免疫疾患、筋炎・筋ジストロフィーなどの筋肉疾患、頭痛(片頭痛・群発頭痛等)、めまい、顔面神経麻痺、顔面けいれん、手足のふるえ・しびれなど日常的にしばしば起こりうる疾患に対して診断と薬物治療、リハビリを積極的に行っています。当院で行っている検査は頭部 CT、MRI、核医学検査(SPECT 等)などの画像検査や脳波検査、末梢神経伝導速度検査、超音波検査(頸動脈エコー等)などです。

地域への貢献を果たすため、日々診療体制を整備してまいります。

2 実績

2023 年度の入外患者数



2023 年度の入院患者疾患別件数

脳神経内科	件数
アテローム血栓性脳梗塞	35
ラクナ梗塞	20
心原性脳塞栓症	20
内耳性めまい	6
特発性末梢性顔面神経麻痺	6
症候性てんかん	4
パーキンソン病	4
熱中症	3
良性発作性頭位めまい症	3
脳幹部アテローム血栓性脳梗塞	3

循環器内科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:3名 非常勤医:1名

循環器内科が扱う疾患は心筋梗塞、狭心症、不整脈、心不全、肺塞栓、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症など、多岐にわたります。特に急性心筋梗塞や、心不全、肺塞栓、致死性不整脈などは1分、1秒でも早い治療を要することが多いので、24時間365日緊急で対応できる体制を整えています。

冠動脈バイパス術や急性大動脈解離など外科的な処置が必要な場合は、熊本大学病院を始めとする熊本市内の病院と連携を密にとりつつ、早急な対応、転院を行います。術後、自宅退院が不安な患者さんに対しては、再度当院に転院の上、心臓リハビリテーションを行い、自宅退院、社会復帰に向けて、様々なサポートを行っていきます。

熊本県北界隈の方々が安心して生活できるサポートを全力で行わせて頂きます。

《主な疾患と治療法》

●心筋梗塞、狭心症

急性心筋梗塞など、緊急で血行再建が必要な症例に対しては、24時間365日、緊急で心臓カテーテル検査、治療を行います。“Door to Balloon time: DTBT(患者さんが搬入されて、再灌流が得られるまでの時間)”は90分以内が推奨されていますが、当院ではほぼ90分以内を達成しています。

急性心筋梗塞で入院後は、理学療法士や作業療法士による心臓リハビリテーションを行い、また栄養指導や服薬指導、生活指導なども行っていきます。

狭心症が疑われる患者さんは、外来で心エコー、運動負荷心電図、心筋シンチグラフィー、冠動脈

CTなどで評価し、心臓カテーテル検査が必要と判断した場合には入院の上対応させて頂きます。冠攣縮性狭心症が疑われる患者さんも、心臓カテーテル検査で冠攣縮誘発試験を行い、診断を確定させます。

●心不全

点滴や内服等で加療しつつ、必要であれば心臓カテーテル検査で評価します。心筋症が疑われる症例に対しては、心筋生検まで行うことがあります。心不全で入院後は、自宅・施設退院を目指し、心臓リハビリテーションを行っていきます。再発予防のための栄養指導や生活指導、服薬指導なども行います。

●不整脈

内服での加療や、カルディオバージョン、永久ペースメーカー植え込み術などが必要な場合は当院で対応させて頂きます。アブレーション(カテーテル心筋焼灼術)や植え込み型除細動器(ICD)、心臓再同期療法(CRT)などが必要と判断した場合には、熊本市内の病院などに紹介させて頂きます。

●弁膜症

内服や点滴での加療で対応可能な症例に関しては入院等で対応ていきます。弁置換・形成術や、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)、僧帽弁閉鎖不全症に対するMitraClipなどが妥当と判断した場合には、熊本市内などの病院に紹介させて頂きます。

●閉塞性動脈硬化症

有症候性の下肢動脈狭窄・閉塞の患者さんに対しては、禁煙指導、運動療法、内服加療を行います。経皮的血管形成術(PTA)の適応と判断した場合は、入院の上行います。

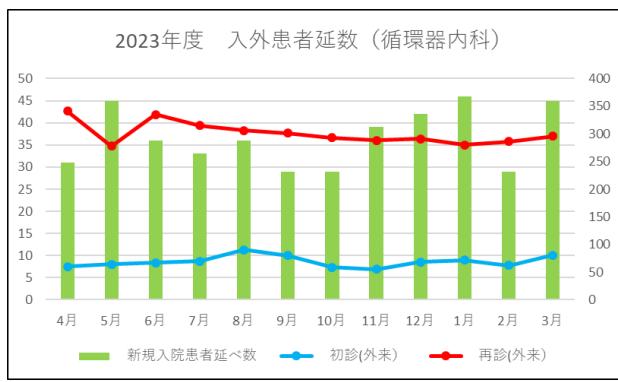
●急性大動脈解離

上行大動脈に解離がある場合(Stanford A)は緊急手術が必要になることが多いので、緊急で心臓血管外科のある施設に搬送します。下行大動脈の解離(Stanford B)は薬物療法になることが多いので当院に入院の上加療していきますが、臓器虚血を合併しているときなどは、心臓血管外科のある施設に搬送することもあります。手術後に自宅退院が不安な場合には当院で自宅退院に向けて心臓リハビリテーションを行います。

その他様々な疾患に対応させて頂きますので、何かお困りのことがございましたらお気軽にご相談ください。

2 実績

2023 年度の入外患者数



2023 年度の入院患者疾患別件数

循環器内科	件数
うつ血性心不全	110
急性下壁心筋梗塞	30
急性前壁心筋梗塞	26
労作性狭心症	24
陳旧性心筋梗塞	20
心アミロイドーシス	15
急性後壁心筋梗塞	13
洞不全症候群	9
心臓電子器具の機械的合併症	9
急性大動脈解離	9

2023 年度手術件数(上位 10 術式)

術式	件数
経皮的冠動脈ステント留置術(その他)	38
経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞)	35
ペースメーカー移植術(経静脈電極)	21
経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症)	15
ペースメーカー交換術	9
四肢の血管拡張術・血栓除去術	3
経皮的冠動脈形成術(不安定狭心症)	3
経皮的冠動脈形成術(その他のもの)	3
体外ペースメーリング術	2
経皮的冠動脈形成術(急性心筋梗塞)	2

3 アピールポイント

急性心筋梗塞の患者さんに対しては、経皮的冠動脈形成術(PCI)を行うことで飛躍的に生命予後が改善します。そこで重要なのは、いかに早く再灌流を得るかという事であり、患者さんが来院されて再灌流を得るまでの時間(DTBT)を短縮することが我々医療従事者に求められています。日本循環器学会から出されている急性冠症候群ガイドライン(2018 年改訂版)では「発症 12 時間以内の患者に対し、できるかぎり迅速に primary PCI(ステント留置を含む)を行う」が推奨クラス I、エビデンスレベル A とされています。また診療報酬点数では、心原性ショックを呈さない発症 12 時間以内の急性心筋梗塞の患者さんに対しては「来院からバルーンカテーテルによる責任病変の再開通までの時間(DTBT)が 90 分以内であること」が急性心筋梗塞として算定できる絶対条件となっています。

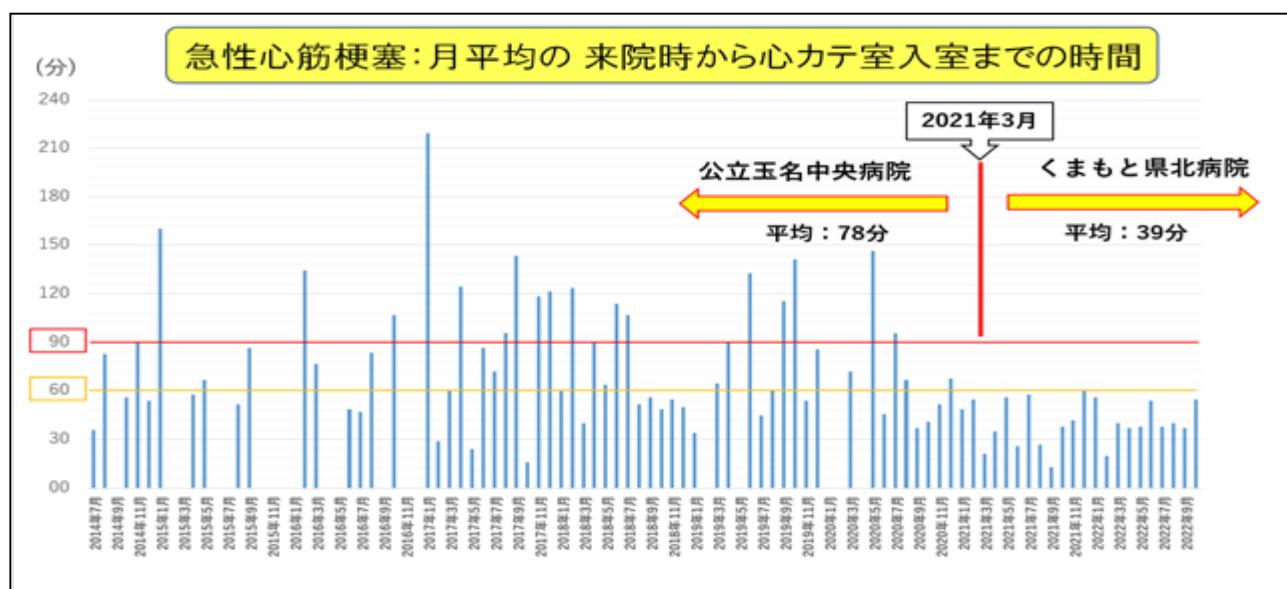
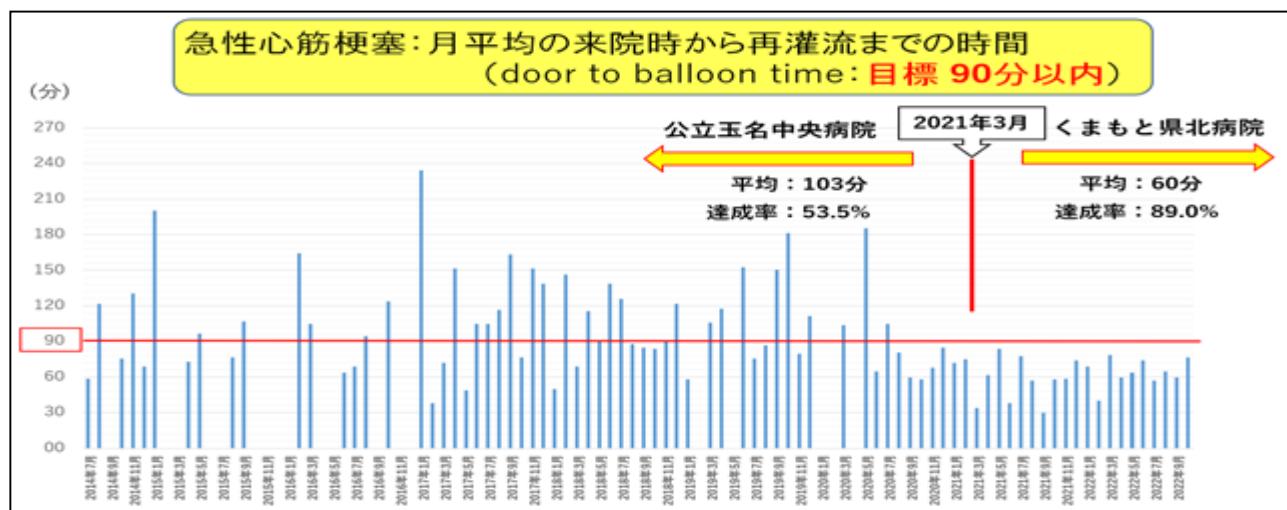
日本心臓血管データベースである JCD-KiCS registry に 2008~13 年で登録された患者のうち、発症 12 時間以内に PCI を行った 2,283 例を解析したところ、DTBT の中央値は 90 分、DTBT 90 分以内の達成率は 53.7%でした。

当院では 2020 年 4 月から、24 時間 365 日断らずに急を要する循環器疾患の患者さんを受け入れるようにしております、そのため多くの急性心筋梗塞の患者さんが搬送されます。いかにして DTBT を短縮させるか、様々な方法を試みました。

- 循環器内科医は常に病院まで20分以内で到着できるところで待機します。
- くまもと県北病院が新設されてから(2021年3月～)、昼夜問わず、カテークル担当の看護師は救急センター担当として常時勤務します。
- 時間外に急性心筋梗塞が疑わしい患者がいる旨を救急担当医から循環器内科医が報告を受けた時点で、カテークル検査の準備を行いつつ、臨床工学技士、生理検査技師を呼びます。
- 時間外に心臓カテーテル担当の生理検査技師が到着するまでの間、当直中の検査技師が心電図装着などの業務を行います。

5. 救急センターから心臓カテーテル室の導線が、くまもと県北病院になってエレベーター1本となりました。

以上のような努力が実り、2014年7月～2021年2月の公立玉名中央病院時代は、平均DTBT 103分、DTBT 90分以内達成率 53.5%であったのが、2021年3月以降のくまもと県北病院ではそれぞれ 60分、89.0%と大幅に改善しています。その要因の多くは患者さんの搬入から心臓カテーテル室入室までの迅速さであり、2021年2月までは平均 78分であったのが、くまもと県北病院になってからは 39分と半分の時間となっています。



糖尿病・内分泌内科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:2名 非常勤医:2名

糖尿病・内分泌内科は、近年増加する様々な生活習慣病(糖尿病、高血圧、脂質異常症等)やホルモン疾患(バセドウ病、原発性アルドステロン症等)の診療を行っています。

糖尿病に関しては医師、糖尿病療養指導士の資格を持った看護師、管理栄養士、検査技師等でチーム医療を行っており、地域のかかりつけの先生とも連携しています。合併症検査を行い、他科(循環器内科、腎臓内科、眼科等)と連携し、治療にあたります。糖尿病は正しい知識に基づいて個々にあった食事、運動療法を行うことが重要です。教育入院、透析予防指導、糖尿病教室、患者会(しょうぶ会)等を通して糖尿病についての理解、知識の普及に努めています。

内分泌疾患については血液検査、負荷試験、画像検査などを施行し診断、治療を行います。(甲状腺腫瘍除く)

《主な疾患と治療法》

【疾患】

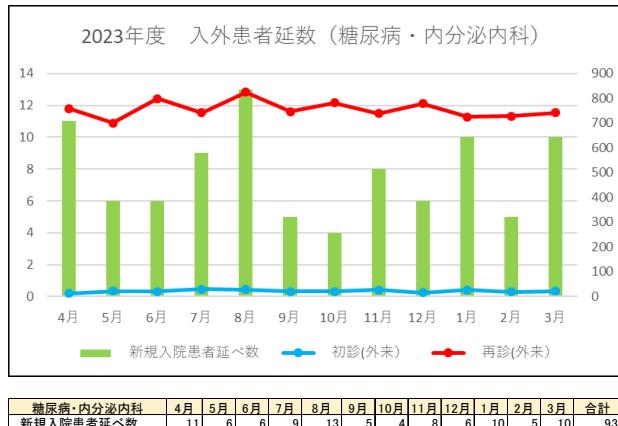
- 糖尿病(1型、2型)
- 脂質異常症
- 高血圧
- 高尿酸血症
- バセドウ病
- 甲状腺炎
- クッシング症候群
- 原発性アルドステロン症など

【検査・治療法】

- CGM(持続グルコースモニタリング)
- CSII(持続皮下インスリン注入療法)
- SAP(センサー付きインスリンポンプ療法)
- インスリン療法
間歇スキャン式持続グルコースモニタリングシステム

2 実績

2023年度の入外患者数



2023年度の入院患者疾患別件数

糖尿病・内分泌内科	件数
2型糖尿病・腎合併症あり	15
2型糖尿病・糖尿病性合併症なし	11
2型糖尿病・多発糖尿病性合併症あり	8
2型糖尿病性ケトアシドーシス	6
2型糖尿病・糖尿病性合併症あり	6
1型糖尿病性ケトアシドーシス	4
細菌性肺炎	4
誤嚥性肺炎	4
2型糖尿病・神経学的合併症あり	3
2型糖尿病性低血糖性昏睡	2

腎臓内科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:2名 非常勤医:1名

検尿異常から慢性腎臓病の管理、末期腎不全に至った場合の透析導入及び維持透析まで様々な病期、状態の患者さんを診察しています。

蛋白尿や血尿を指摘された方に対しては、状態をよくお聞きし、必要に応じて腎生検による組織診断を行い、治療を行っています。検尿異常や腎機能障害が3ヶ月以上続いている、いわゆる慢性腎臓病の患者さんに対しては、現在の状態を把握し、医師、看護師、栄養士から、状態に合わせた薬物療法、食事療法、生活指導などを行っています。

腎不全が進行し、代替療法としての透析が必要になった場合はご本人やご家族とよく相談し、血液透析あるいは腹膜透析を導入しており、外来維持透析も行っています。また、腎移植をご希望される方には移植実施施設へ紹介いたします。

透析患者さんの合併症による入院治療も、他科と連携を取りながら行っています。またシャントトラブルに対するPTA(経皮的血管形成術)や新規ブラッドアクセス作成も行っています。また、各種の血液浄化療法(持続緩除式血液濾過法・血液吸着・血漿吸着など)を施行しています。

《主な疾患と治療法》

- 検尿異常(血尿、蛋白尿など)、腎機能低下の精査
- 原発性糸球体腎炎
- 糖尿病性腎症
- 腎硬化症
- 悪性腫瘍や膠原病などほかの疾患に合併した腎機能障害
- 慢性腎臓病の急性増悪

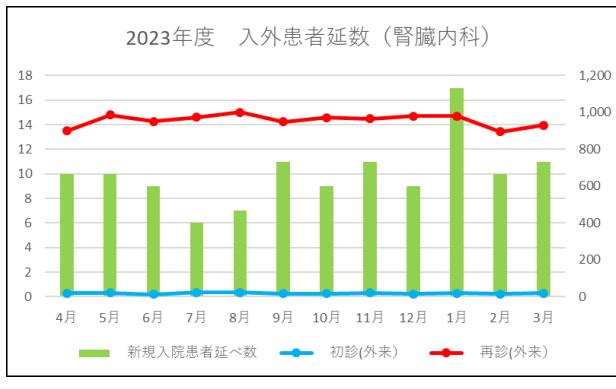
●急性腎障害

●透析療法導入

●血液吸着療法

2 実績

2023年度の入外患者数



腎臓内科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	10	10	9	6	7	11	9	11	9	17	10	11	120
初診(外来)	19	21	12	24	23	16	17	20	15	18	15	19	219
再診(外来)	899	986	950	973	1,001	948	971	966	979	979	895	931	11,478

2023年度の入院患者疾患別件数

腎臓内科	件数
末期腎不全	59
IgA腎症	13
うつ血性心不全	6
急性腎前性腎不全	4
慢性腎臓病ステージG4	4
細菌性肺炎	4
良性発作性頭位めまい症	3
誤嚥性肺炎	3
心臓急死	3
透析シャント閉塞	2

2023年度の血液浄化業務実績件数

血液浄化業務実施件数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
血液浄化療法 (HD/Online-HDF/I-HDF)	9,323件	10,329件	10,790件
血液吸着療法 PMX	1件	3件	0件
血球成分(顆粒球・単球)除去療法 GCAP	0件	0件	1件
腹水濾過濃縮再静注法 CART	4件	3件	0件
経皮的血管形成術助PTA	44件	53件	49件
Covid-19出張透析・個室管理	26件	126件	88件

消化器内科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:6名 非常勤医:2名

消化器内科では食道、胃、小腸、大腸、肝胆脾領域といった消化器領域全般の診療にあたります。消化管出血・腸閉塞・急性胆のう炎・総胆管結石性胆管炎・急性脾炎・急性肝炎など緊急を要する疾患でも24時間対応します。

また早期の食道癌・胃癌・大腸癌については積極的に内視鏡治療を行っています。また進行がんについては最新のガイドラインに基づき、抗がん剤治療を多数行っています。

また胆道癌や脾癌による閉塞性黄疸に対する金属ステント留置術、消化管悪性狭窄に対する金属ステント留置術も行っています。

その他、難治性疾患などは熊本大学病院など高次医療機関とも連携して診療にあたっています。

《主な疾患と治療法》

● C型肝炎

C型肝炎については従来のインターフェロンによる治療に代わり、2014年から副作用の少ない内服の抗ウイルス薬が治療の主体となっており、95%以上の割合でウイルス排除が可能となっています。当院でも100例以上の治療導入経験があり、良好な治療成績を得ています。

● B型肝炎

B型肝炎に対しては、エンテカビル・テノホビルなどの核酸アナログ製剤を中心に肝炎の鎮静化を図ります。また若い方に対してはインターフェロンの適応も慎重に検討して導入を行います。

● 急性胆のう炎 総胆管結石

急性胆のう炎に対しては耐術能がある方は可能な限り外科での腹腔鏡下手術をお願いします。

それ以外の方については経皮的胆のうドレナージなど内科的治療を行います。総胆管結石性胆管炎は早期の胆道ドレナージが必要であり、多数例の内視鏡的胆道ドレナージを行っています。

● 消化管出血

出血性胃潰瘍、十二指腸潰瘍についてはクリッピング止血や薬剤局注による止血術を行います。食道静脈瘤については主に内視鏡的結紮術による止血を行います。また大腸からの出血に対しても可能な限り内視鏡的止血術を行っています。

● 炎症性腸疾患

潰瘍性大腸炎・クローン病については従来の薬物療法に加え、難治例に対しては生物学的製剤を使用し、寛解維持を図ります。また重症例などについては熊本大学病院など高次医療施設とも連携します。

● 消化管悪性腫瘍

胃ポリープ、大腸ポリープについては内視鏡的粘膜切除術を多数例行っています。また早期の食道癌、胃癌、大腸癌については積極的に内視鏡的粘膜下層剥離術を行っています。進行胃癌、大腸癌については全身状態を見ながら可能な限り、抗がん剤治療を導入します。

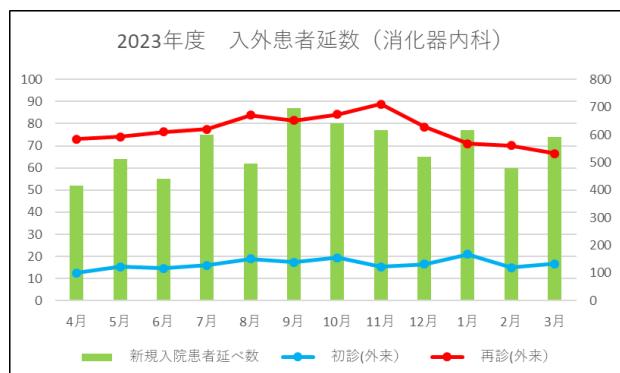
● 肝胆脾の悪性腫瘍

肝癌についてはカテーテルによる肝動脈化学塞栓療法が可能となりました。その他、最新のエビデンスに基づき、多数の分子標的薬を中心とした抗癌剤治療が可能です。

胆道癌、脾癌については手術困難な場合は抗がん剤治療を導入しています。またこれらのがんでは閉塞性黄疸を起こすことがあります、内視鏡的に金属ステント留置などで胆道ドレナージを行っています。

2 実績

2023 年度の入院患者疾患別件数



消化器内科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	52	64	55	75	62	87	80	77	65	71	60	74	828
初診(外来)	100	122	117	128	151	139	156	123	132	168	120	134	1,590
再診(外来)	584	592	610	620	671	651	674	711	628	568	561	532	7,402

2023 年度の疾患別件数

消化器内科	件数
大腸憩室	69
総胆管結石	59
大腸ポリープ	45
総胆管結石性胆管炎	35
急性虚血性腸炎	24
脾頭部癌	22
胆石性胆のう炎	22
急性胆管炎	19
胆のう癌	18
直腸癌	17

2023 年度の手術件数(上位 10 術式)

術式	件数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	224
内視鏡的胆道ステント留置術	157
内視鏡的消化管止血術	57
内視鏡的胆道結石除去術(その他)	23
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	19
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm以上)	18
小腸結腸内視鏡的止血術	17
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術)	12
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	10
内視鏡的胆道結石除去術(胆道碎石術を伴う)	9

2023 年度 内視鏡件数

2023 年度実績	件数
上部消化管内視鏡	5,081
下部消化管内視鏡	1,149
ERCP	181
食道、胃、大腸	38

小児科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:5名

県北の中核病院として、入院治療を含めた小児科疾患全般に対応しています。地域のニーズに答えるべく、4人の小児科医オンコール体制による24時間小児救急医療にも対応しています。対象は新生児～乳幼児～学童、中学生まで、また低出生体重児や先天性心疾患等、基礎疾患のある患児のフォローも行います。対象疾患は肺炎や気管支炎、喘息等の呼吸器疾患、川崎病を含めた循環器疾患、感染性胃腸炎等の消化器疾患、成長障害を含む内分泌疾患、けいれん・てんかん等の神経疾患、紫斑病等の血液疾患、他腎疾患、食物アレルギー(食物負荷試験を含む)等、幅広く対応しています。

また基礎疾患のある患児の乳幼児健診、予防接種等も行います。

ご不明な点につきましてはお電話にてお気軽にご相談ください。

※1 選定療養費の対象となりますので、初診時は可能な限り紹介状をお持ちください。

※2 疾患によっては、熊本大学病院・熊本赤十字病院等高次病院と連携し、紹介・転院となる場合があります。

あらかじめご了承ください。

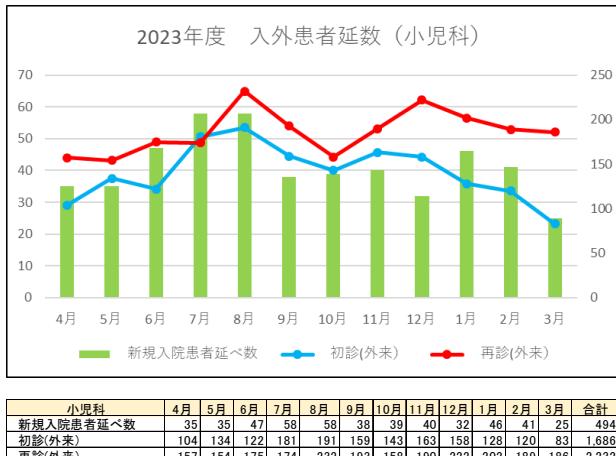
《主な疾患と治療法》

- クループ症候群、気管支炎、細気管支炎、肺炎、喘息等の呼吸器疾患
- インフルエンザ、RS ウィルス、ロタウィルス、アデノウィルス(咽頭結膜熱・流行性角結膜炎)エンテロウィルス(ヘルパンギーナ・手足口病)等の各種ウィルス性疾患

- 突発性発疹、水痘、流行性耳下腺炎、伝染性紅斑等比較的小児特有の感染症
- 川崎病、先天性心疾患、起立性調節障害等の循環器疾患
- ウィルス性胃腸炎、細菌性腸炎、腸重積、周期性嘔吐症等の消化器疾患
- 髄膜炎、けいれん、てんかん等の神経疾患
- 甲状腺機能異常、低身長等の内分泌疾患
- 貧血、血小板減少性紫斑病、血管性紫斑病等の血液疾患
- 尿路感染症、ネフローゼ症候群、水腎症、膀胱尿管逆流症、夜尿症等の腎疾患
- 罂粟麻痺、アナフィラキシー、食物アレルギー等のアレルギー疾患

2 実績

2023年度の入外患者数



2023年度の入院患者疾患別件数

小児科	件数
食物アレルギー	34
インフルエンザ	30
細菌性肺炎	26
急性気管支炎	25
COVID-19	23
急性上気道炎	22
RSウイルス細気管支炎	20
熱性痙攣	18
気管支喘息発作	16
川崎病	16

消化器外科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:3名

熊本大学消化器外科医局出身の3名で診断、手術、化学療法などの診療を行っております。全員が日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、がん治療認定医機構がん治療認定医です。そのうち1名は日本外科学会指導医、2名は日本消化器外科学会指導医を取得しています。

当科が担当する疾患は、鼠径ヘルニア、胆囊結石症(胆石症)、胃癌、大腸癌など予定手術で行う症例はもちろん、消化管穿孔(腸や胃に穴があくこと)などによる汎発性腹膜炎や絞扼性腸閉塞(血流障害を伴う腸閉塞)などの緊急手術が必要な症例、急性虫垂炎(いわゆる盲腸)や急性胆のう炎、癒着性腸閉塞などの準緊急手術症例など食道癌を除いたほぼすべての消化器外科疾患に対応しています。

また、当科では腹腔鏡下手術も積極的に行っています。現在、約半数の手術が腹腔鏡下手術となっております。当科で施行可能な主な腹腔鏡下手術を以下に示します。

《主な疾患と治療法》

- | | |
|-------------|--------------|
| ●食道裂孔ヘルニア手術 | ●直腸切除術・切断術 |
| ●胆囊摘出術 | ●腸管癒着症手術 |
| ●虫垂切除術 | ●腹壁瘢痕ヘルニア手術 |
| ●胃切除術 | ●鼠径ヘルニア手術 |
| ●胃全摘術 | ●閉鎖孔ヘルニア手術など |
| ●結腸切除術 | |

全ての症例で腹腔鏡下手術が可能なわけではありませんが、傷が小さく、低侵襲で、術後の回復が早いと言われている、身体に優しい手術法だと考えて

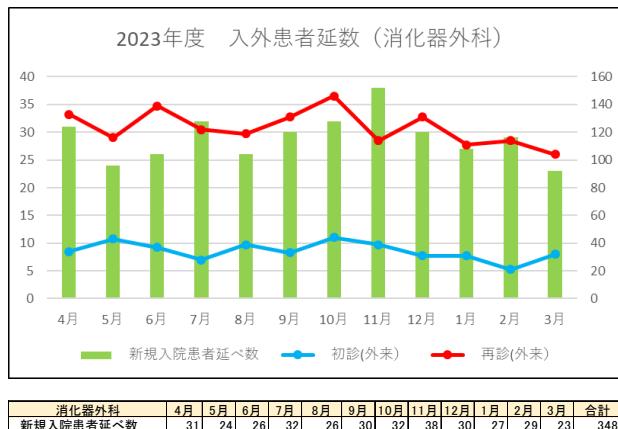
おります。ただし、疾患、病状によっては有効性が得られるかはつきりしていないものもありますので、疑問やご不安がございましたらお気軽にご相談ください。

当科では各種ガイドライン(その疾患の標準的な治療法を記したもの)に準じて診療を行っております。消化器内科や放射線診断科と合同カンファレンスを定期的に行い、消化器科チームとして手術、治療を安全かつ確実に行うように努めております。当院は総合病院ですので、呼吸器、循環器、肝臓、腎臓などに基礎疾患をお持ちの患者さんに対しても、複数科共同で治療を行っており、患者さんの病状及び全身状態などを見極め、最良な方法を検討した上で、専門医として手術、治療を提供しております。

2021年3月の当院開院から、手術症例は徐々に増加し、2023年は300例を超えるました。玉名、有明地域の皆さまのご期待に添えるよう、日々精進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

2 実績

2023年度の入外患者数



消化器外科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	31	24	26	32	26	30	32	38	30	27	29	23	348
初診(外来)	34	43	37	28	39	33	44	39	31	31	31	32	412
再診(外来)	133	116	139	122	119	131	146	114	131	111	114	104	1,480

2023 年度の入院患者疾患別件数

消化器外科	件数
片側単径ヘルニア	74
胆石性胆のう炎	23
術後癒着性イレウス	21
急性虫垂炎	16
慢性胆のう炎	14
絞扼性イレウス	11
胃体部癌	10
直腸癌	10
虫垂周囲膿瘍	10
上行結腸癌	7

2023 年度の手術別件数(上位 10 術式)

術式	件数
ヘルニア手術5.鼠径ヘルニア	68
腹腔鏡下胆囊摘出術	68
腹腔鏡下虫垂切除術(周囲膿瘍なし)	18
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	14
腸管癒着症手術	12
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	11
胃全摘術2.悪性腫瘍手術	8
急性汎発性腹膜炎手術	7
人工肛門造設術	7
リンパ節摘出術1.長径3cm未満	6

呼吸器外科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:1名

当科では、呼吸器内科及び同時に新設された腫瘍内科との連携により、科学的根拠のある医療を充分な適応検討の上で安全・確実に遂行することで、患者さんが安心して質の高い医療を受けて頂けるよう心がけています。

手術では、手術用ビデオカメラを使用して侵襲の少ない小さな手術創で行う胸腔鏡下手術(VATS)を導入し、各種呼吸器疾患に広く応用しています。現在は2~4cmの傷2か所で行う2ポート下手術を行っておりますが、今後はさらなる低侵襲手術を目指し、単孔式手術(4~5cmの傷1か所で肺癌や気胸手術を行う)も導入する予定です。進行肺癌に対しては術前化学療法を含めた集学的治療にも対応しています。

また、虚血性心疾患や肺気腫、糖尿病など種々の併存症を有する患者さんに対しては、総合病院たる当院の利点を生かし、関係各科との連携で安全に手術ができるように治療介入を行い、安全性の担保に努めています。

退院後も地域開業医の先生方と連携しながら経過観察を行います。また気胸や交通外傷など、急な病変にも隨時対応いたしますので、遠慮なくご連絡ください。

健康診断で胸部に異常陰影を指摘され専門の医療機関の受診を勧められた方や、既に他院で治療を勧められている方のセカンドオピニオンのご相談も受け付けています。

県北地域で最先端の呼吸器外科手術を提供できるよう努力していく所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

《主な疾患と治療法》

●肺の腫瘍

肺癌、転移性肺腫瘍、肺内悪性リンパ腫、過誤腫、硬化性血管腫など

●肺の炎症性疾患

肺真菌症、肺抗酸菌感染症(結核腫など)、気管支拡張症、肺膿瘍など

●肺の囊胞性疾患

気胸、気腫性肺囊胞、巨大肺囊胞症など

●胸膜の病気

膿胸、悪性胸膜中皮腫など

●縦隔の病気

縦隔腫瘍(胸腺腫、胚細胞腫瘍、神経原性腫瘍、気管支囊胞など)、縦隔炎、重症筋無力症など

●肋骨、横隔膜の病気

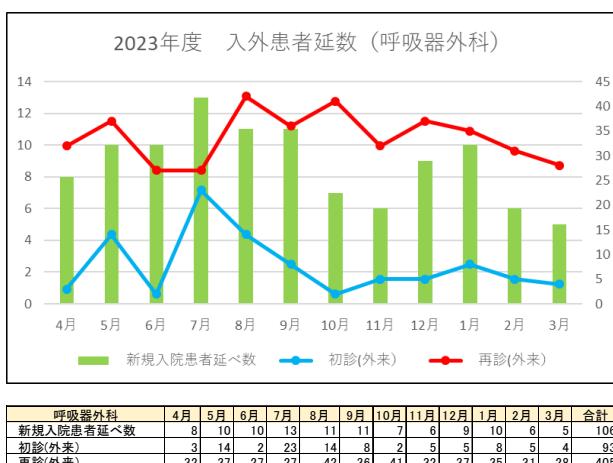
●外傷 多発肋骨骨折、血胸、肺・気管支損傷など

●その他 肺動静脈瘻、肺分画症 など

以上のように、胸部の心臓・大血管・食道を除くあらゆる胸部疾患が対象となります。

2 実績

2023年度の入外患者数



2023 年度の入院患者疾患別件数

呼吸器外科	件数
下葉肺腺癌	20
上葉肺腺癌	16
膿胸	13
自然気胸	7
肺良性腫瘍	4
続発性気胸	4
転移性肺腫瘍	3
右中葉肺腺癌	3
肺上皮内癌	2
悪性胸膜中皮腫	2

2023 年度の手術別件数(上位 10 術式)

術式	件数
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除)	23
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)	20
胸腔鏡下釀膿胸膜又は胸膜肺膜切除	19
胸腔鏡下肺切除術(肺囊胞手術(楔	17
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡	6
胸腔鏡下試験切除術	5
胸腔鏡下肺切除術(部分切除)	4
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡	3
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(部分切除)	2
肋骨切除術2.その他の肋骨	1

乳腺外科

1 基本情報

《スタッフ》

非常勤医:1名(週1日)

乳癌をはじめとする乳腺疾患の診断と治療を担当しています。また、内分泌臓器である甲状腺・副甲状腺の外科治療についても担当しています。(＊内分泌機能異常など腫瘍性病変以外はまずは内科へご相談下さい。)

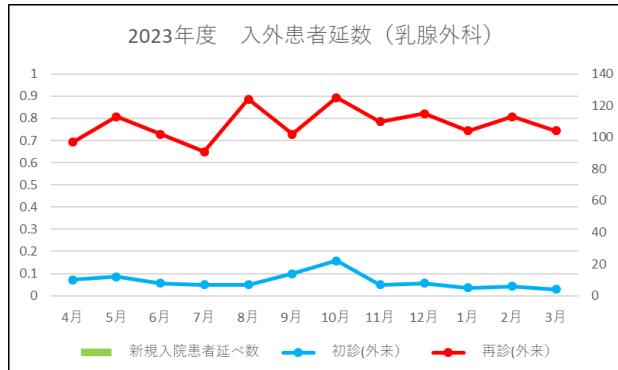
特に乳癌では、マンモグラフィ・超音波検査・MRIによる画像診断や、細胞診・針生検を用いて診断を行い、その結果をもとに患者さんと話し合い、治療方針を決定しています。

外科的治療は、関連施設(熊本大学病院など)と連携し、ご希望の病院へ紹介させていただきます。薬物療法(内分泌療法・化学療法・分子標的治療)は当院で行っています。

進行・再発乳癌の方には、治療効果と予測される副作用を考慮して、十分な話し合いのもとに治療を選択しています。また、がんによる痛みなどの症状に対して「緩和ケア」を同時に行います。

2 実績

2023年度の入外患者数



2023年度院内コンサル件数

コンサル元診療科	件数
糖尿病・内分泌内科	16
外科	5
整形外科	5
消化器内科	4
呼吸器内科	3
総合診療科	2
歯科口腔外科	1
腎臓内科	1
泌尿器科	1
皮膚科	1
総計	39

泌尿器科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:4名

泌尿器科は主に尿を生成する腎臓と尿の通り道である尿管、膀胱、尿道、及び男性生殖器(陰茎、精巣、前立腺)などを専門に診る科です。

近年、PSA検診の普及により前立腺癌の患者が、高齢化や生活習慣病などの影響により排尿障害や尿路結石患者が増加しています。当院では2023年2月より熊本県北エリアで初の、前立腺や膀胱癌に対するロボット支援手術を始めました。また尿路結石レーザーを用いた経尿道的内視鏡碎石術(県内有数の施行数)や腎腫瘍に対する腹腔鏡による手術など内視鏡・腹腔鏡を用いた低侵襲な手術を多数行っており、各地域より受診いただけた患者さんに高度医療を提供することに加え、高齢化社会における地域医療の必要性に重点を置いて各職種と連携して生活の質の向上に努めています。なるべく県北地域で完遂できるように治療を行うことを基本としますが、放射線治療、高度な薬物療法などについては、熊本大学病院や近隣地域と連携して治療にあたることもあります。

近年、健康寿命が意識されるようになっています。生活の質を高めるため、頻尿や尿失禁、排尿に関する症状などもお気軽にご相談ください。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

《主な疾患と治療法》

●前立腺癌

前立腺生検による診断と、治療として手術療法(ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術、精巣摘出術)、ホルモン療法、化学療法などを行っています。放射線治療に関しては近隣医療機関と連携して実施しています。

●腎細胞癌

大きな腫瘍には根治的腎摘除術、小さな腫瘍には腎部分切除術を行い、積極的に腹腔鏡手術を行っています。進行した患者さんには化学療法(分子標的薬治療、免疫チェックポイント阻害剤)など実施しています。

●膀胱癌

経尿道的手術、ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術+尿路変更術(回腸導管造設、新膀胱造設)、化学療法(抗がん剤、免疫チェックポイント阻害剤)など診断・治療を一貫して行っています。

●腎孟・尿管癌

尿管検査・生検、腹腔鏡下腎尿管全摘除術、化学療法(抗がん剤、免疫チェックポイント阻害剤)など診断・治療を一貫して行います。

●精巣腫瘍

高位精巣摘出術、後腹膜リンパ節郭清、抗がん剤治療など集学的に治療を行います。放射線治療が必要な場合は近隣医療機関と連携して行います。

●副腎腫瘍

ホルモン活性のある腫瘍・悪性腫瘍に関しては腹腔鏡手術を行います。

●前立腺肥大症

薬物治療で改善が困難な場合は経尿道的手術を行い、排尿症状の改善を図ります。低侵襲な手術（経尿道的前立腺吊上げ術、水蒸気治療、尿道ステント）などを選択することもあります。

●尿路結石

腎・膀胱・尿管、尿道に形成された自然にでることが期待できない結石に対しては内視鏡治療を行っています。主に膀胱碎石術、経尿道的腎尿管結石碎石術、経皮的腎尿管結石碎石術を行います。

●尿路感染症

腎孟腎炎、精巣/精巣上体炎、膀胱炎、前立腺炎など尿路における感染症に対して治療を行います。必要に応じて適切なドレナージ処置(尿管ステント留置・腎瘻造設・膀胱瘻造設など)を緊急で行います。病態に応じて排尿障害の有無や閉塞などを評価して、再燃をできる限り抑える治療を心掛けています。

●外傷疾患

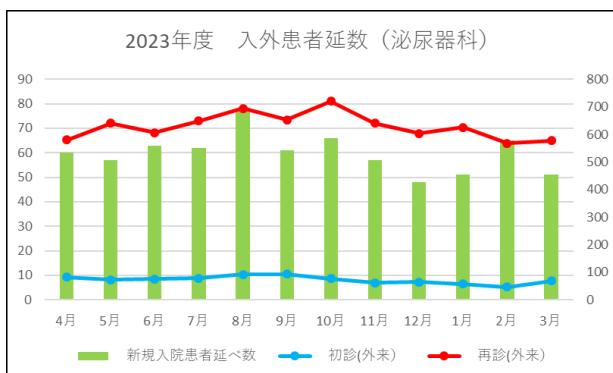
腎、尿管、膀胱、尿道、精巣外傷に対して緊急対応、手術を行います。外傷に関しては持続出血などがあり血管塞栓術などを要する場合は施行可能施設へ依頼します。

●その他の疾患

排尿障害を伴う包茎、精巣/精索捻転、神經因性膀胱、尿管膀胱逆流症、腎孟尿管狭窄症、間質性膀胱炎(水圧拡張術)、ED など

2 実績

2023 年度の入外患者数



泌尿器科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	60	57	63	62	77	61	66	57	48	51	65	51	718
初診(外来)	63	73	75	78	92	93	77	62	65	58	47	68	871
再診(外来)	580	640	606	649	694	653	720	641	604	625	567	577	7,556

2023 年度の入院患者疾患別件数

泌尿器科	件数
前立腺癌	162
尿管結石症	56
膀胱側壁部膀胱癌	49
急性腎孟腎炎	37
感染性結石性腎孟腎炎	36
前立腺肥大症	36
膀胱後壁部膀胱癌	32
尿管癌	21
腎細胞癌	17
膀胱良性腫瘍	16

2023 年度手術件数(上位 10 術式)

術式	件数
膀胱悪性腫瘍手術6.経尿道的手術	124
経尿道的尿路結石除去術(ftul)	67
膀胱結石摘出術1.経尿道的手術	26
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(機器)	25
腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	21
経尿道的前立腺手術(電解質溶液利)	14
経尿道的前立腺吊上術	12
尿道狭窄内視鏡手術	6
膀胱悪性腫瘍手術4.全摘(回腸又は)	6
包茎手術(環状切除術)	5

整形外科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:7名 非常勤医:1名

手外科専門医、関節専門医、関節リウマチ専門医などの専門外来を設けて、各種外傷や変性疾患及び神経疾患等、様々な整形外科疾患の診断・治療を行っています。X線撮影を始めとして、3D-CT(三次元 CT)、MRI(磁気共鳴画像診断装置)、神経伝導速度検査、超音波検査(エコー)、骨密度検査(DXA法)、血液検査などを用いて多種多様な疾患を精査・評価し、迅速な診断と適切な治療を行っています。当院の救急センターは地域の2次救急病院として24時間体制で救急患者を受け入れており、他科の医師と協力して緊急手術にも対応できる体制を整えています。

また、整形外科疾患の治療においてリハビリテーションは大変重要な役割を担いますが、広大で設備の充実したリハビリテーションセンターと家庭復帰を目標に集中的なリハビリテーションを受けることができる回復期病棟を有し、経験豊富な多数のリハビリスタッフと共に、必要十分で満足できる機能回復を目指しています。当科は県北の整形外科拠点病院として、皆さんに安心して治療を受けていただけるよう日々研鑽を積んでいます。

《主な疾患と治療法》

● 大腿骨近位部骨折

骨接合術、人工骨頭置換術、人工股関節置換術など

● その他の各種骨折

骨接合術、創外固定術、人工骨移植術など

● 手外科疾患(骨折、腱損傷、関節変形、神経疾患)

骨接合術、神経剥離術、切断指の再接着術、関節形成術、腱縫合・腱再建術など

● 関節手術

人工股関節置換術、人工膝関節置換術、関節鏡手術など

● 各種外傷

靭帯再建術、肩腱板修復術、アキレス腱縫合術など

● 関節リウマチ

精査及び診断、抗リウマチ薬や生物学的製剤での治療

● 骨粗鬆症

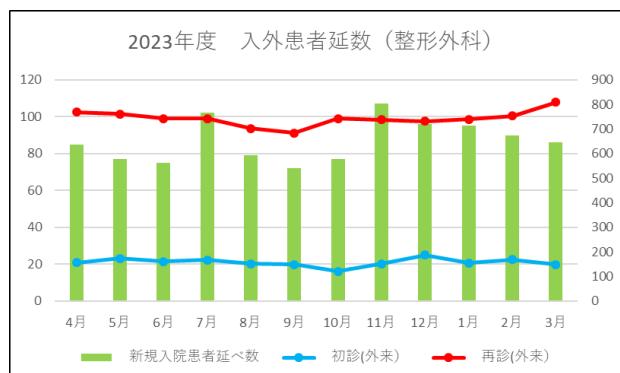
骨密度検査(DXA法)や採血での診断評価、各種の治療

2 実績

年間整形外科新規患者数 : 1,886 名

年間整形外科手術件数 : 912 件

2023 年度の入外患者数



整形外科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	85	77	75	102	79	72	77	107	96	95	90	86	1,041
初診(外来)	156	173	161	167	151	148	120	151	187	155	169	148	1,886
再診(外来)	768	761	742	743	702	683	743	737	732	739	753	809	8,912

2023 年度の入院患者疾患別件数

整形外科	件数
大腿骨頸部骨折	114
大腿骨転子部骨折	112
腰椎椎体骨折	62
橈骨遠位端関節内骨折	62
胸椎椎体骨折	27
鎖骨骨折	27
腰椎及び骨盤多発骨折	26
腰部脊柱管狭窄症	25
上腕骨近位端骨折	21
膝蓋骨骨折	21

2023 年度手術件数(上位 10 術式)

術式	件数
骨折観血的手術1.大腿	162
人工骨頭挿入術1.股	79
手根管開放手術	49
骨折観血的手術2.前腕	44
骨内異物(挿入物)除去術2.前腕	37
人工関節置換術1.膝	33
腱鞘切開(関節鏡下含指)	31
人工関節置換術1.股	25
骨折観血的手術1.上腕	23
骨内異物(挿入物)除去術2.下腿	20

脳神経外科

1 基本情報

《スタッフ》

非常勤医:1名(月1日)

脳神経外科は、脳の病気のうち、外科手術やカテーテルによる血管内手術が必要になるような、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、顔面痙攣、三叉神経痛、小児奇形などの疾患を中心に、脳や神経の疾患などについて幅広く診断・治療を行っている診療科です。それ以外にも、難治性てんかんや、振戦・パーキンソン病治療の副作用に対する外科的治療なども担当しております。

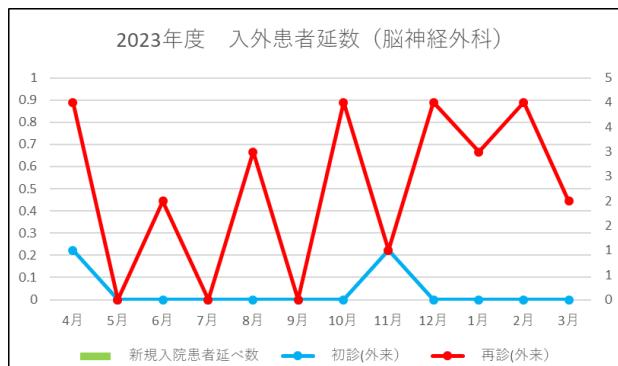
脳の外科ではありますが、手術だけではなく、診断や薬剤投与などによる治療も、記載したような病気に対して行っております。病状に応じて脳神経内科をはじめ、関連の診療科の先生方と連携を行いつつ治療を行います。また、必要に応じて、熊本大学病院など、より高度な医療に対応した施設にもご紹介いたします。

《主な疾患と治療法》

- 脳血管障害(脳動脈瘤・くも膜下出血・脳出血・脳梗塞・脳動静脈奇形など)
薬物治療、開頭手術、血管内治療、リハビリテーションなど
- 脳腫瘍(良性腫瘍・悪性腫瘍)
薬物治療、開頭手術、放射線治療、化学療法など
- 頭部外傷
薬物治療、穿頭術、開頭手術など
- てんかん
薬物治療、開頭手術など
- 顔面けいれん・三叉神経痛
薬物治療、開頭手術など
- 小児奇形
整復手術など

2 実績

2023年度の入外患者数



脳神経外科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
初診(外来)	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
再診(外来)	4	0	2	0	3	0	4	1	4	3	4	2	27

皮膚科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:2名 非常勤医:1名

皮膚科では虫刺されや水虫、じんましんなどの日常的な疾患から、水疱症や皮膚悪性腫瘍など入院や手術が必要な疾患まで、年齢層も赤ちゃんから高齢の方まで幅広く診療を行っています。

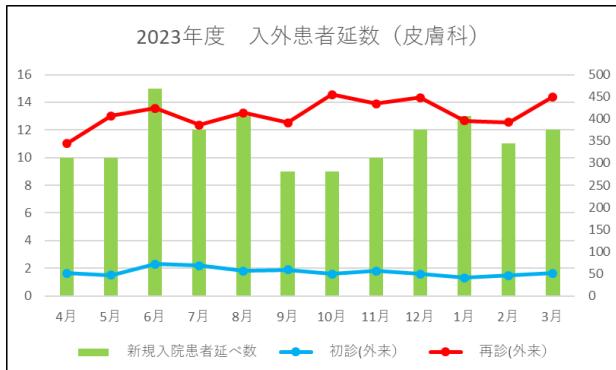
2017年より常勤勤務となり、2人体制、水曜日は手術日のため大学病院の非常勤医師が1人体制で診療を行っています。

当科では、新たにエキシマランプを導入し、円形脱毛症、掌蹠膿疱症、尋常性白斑などの治療を行っています。また円形脱毛症に対する局所免疫療法(SADBE)を開始しました。

県北地区の地域医療を担い、玉名市、荒尾市の開業の先生方や荒尾市民病院、山鹿中央病院と連携を深めて、高度医療が必要な患者さんには熊本大学病院へスムーズに紹介できる体制を維持しています。紹介状がなくても受診できますが、選定療養費が別途必要になりますので、ぜひ紹介状をご持参いただけますようお願いします。皮膚疾患でお悩みの方はお気軽に受診してください。

2 実績

2023年度の入外患者数



皮膚科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	10	10	15	12	13	9	9	10	12	13	11	12	136
初診(外来)	51	47	72	68	56	59	49	56	49	41	46	51	645
再診(外来)	344	407	424	386	414	391	455	434	448	396	392	450	4,941

2023年度の入院患者疾患別件数

皮膚科	件数
蜂窓織炎	18
顔面皮膚癌	15
粉瘤	14
体幹の脂肪腫	5
頭部皮膚癌	4
心臓急死	4
頭部・顔面の脂肪腫	4
下肢の第3度熱傷	3
マムシ咬傷	3
汎発性脱毛症	3

2023年度の手術件数(上位10術式)

術式	件数
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部_長径2cm未満)	52
創傷処理(筋肉、臓器に達しない_長径5cm未満)	51
皮膚切開術(長径10cm未満)	41
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外_長径3cm未満)	39
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	34
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部_長径2cm以上4cm未満)	14
皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術(25cm2未満)	12
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外_長径3cm以上6cm未満)	11
創傷処理(筋肉、臓器に達しない_長径5cm以上10cm未満)	9
頬悪性腫瘍手術	8

眼科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:1名(2024年1月31日退職)

非常勤医:1名

くまもと県北病院の設立に伴い、診療部門に眼科が新設され、2021年4月より外来診療を開始しました。

白内障や緑内障などの一般的な眼科疾患に加え、入院設備を生かし、ぶどう膜炎や感染症、視神経疾患など継続的な点滴治療が必要な疾患にも対応します。また入院での白内障手術を希望される方や全身麻酔での手術にも対応が可能です。総合病院としての特性から糖尿病網膜症、循環器や神経疾患や皮膚疾患に付随する眼疾患、また斜視や弱視等の小児眼科疾患など、他科と連携した診療も行えます。現在は医師1人、看護師数人、視能訓練士1人の最小単位で外来診療にあたっており人的医療資源は限られていますが、可能な限り眼科救急疾患や急患にも対応しています。

※2024年2月～休診

《主な疾患と治療法》

●白内障

水晶体が濁り、見えづらさや眩しさなどの症状を生じます。年齢とともに進行することがほとんどですが、体质や全身疾患、服薬などの影響で早期に出現することもあります。視力低下が進行したり、強い自覚症状がある場合には手術で治療します。

●緑内障

40歳以上の20人に1人の割合で発症するとされています。初期には自覚がないことが多く、健診での診断や定期的な眼科診察が必要です。最初は点眼で治療を行い、十分な効果が得られない場合には手術が必要になります。

●加齢黄斑変性

網膜や脈絡膜に生じた異常な血管(新生血管)が原因で、眼底に出血や浮腫を生じ、視力低下や変視をいたします。依然、根治は難しい疾患ですが眼内への薬剤注射やレーザーなどによって進行を抑制することができます。

●中心性漿液性網脈絡膜症

脈絡膜血管から血液成分が漏れる疾患で、視力低下や視野中心の色彩感度が低下します。定量はレーザーや光線力学療養を行います。

●糖尿病網膜症

血糖コントロールが長期に亘って不良となることで、網膜などの小血管が損傷され、不可逆的な機能障害を生じます。定期的な診察を行いながら、経過に応じてレーザーや眼内への薬剤注射、硝子体手術などを行います。

●黄斑前膜

正常な網膜の内側に異常な膜が張り、網膜を引っ張ることで視力低下や変視症を生じます。経過に応じて手術による治療が必要となります。

●黄斑円孔

黄斑と呼ばれる視力に深く関わる部分に穴(円孔)が開くことで中心部の視力低下や変視症を引き起こします。自然治癒は稀であり、手術による治療が必要です。

2 実績

2023 年度の入外患者数



眼科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	7	9	5	10	9	9	10	13	12	14	0	0	98
初診(外来)	5	5	7	8	8	5	4	14	6	3	1	0	66
再診(外来)	150	135	154	153	148	157	150	147	164	148	82	84	1,672

2023 年度の入院患者疾患別件数

眼科	件数
核性白内障	41
加齢性白内障	36
間欠性外斜視	6
成熟白内障	5
眼瞼内反症	3
翼状片	2
2型糖尿病性白内障	1
眼瞼皮膚弛緩症	1
術後虹彩後癒着	1
内斜視	1

2023 年度の手術件数(上位 10 術式)

術式	件数
水晶体再建術(眼内レンズを挿入_他	122
網膜光凝固術(その他特殊_一連	9
斜視手術(後転法)	8
後発白内障手術	6
涙点プラグ挿入術、涙点閉鎖術	5
眼瞼内反症手術(縫合法)	4
硝子体切除術	4
結膜結石除去術(多数_1眼瞼ごと	4
網膜光凝固術(通常_一連	4
角膜・強膜異物除去術	2

耳鼻咽喉科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:1名

くまもと県北病院設立に伴い、熊本大学病院の医師による週1回の外来診療を行っておりましたが、2022年10月より常勤となり外来診療は月水金の週3回となりました。耳鼻咽喉科の一般診療に加え、飲み込み(嚥下)の検査評価や、頭頸部(咽頭や喉頭、甲状腺、唾液腺)の腫瘍について検査を行っています。頭頸部悪性腫瘍については、当院で速やかに詳細な検査を行い、スムーズに治療が開始できるよう熊本大学病院などと密に連携を取っています。

また、重傷な顔面神経麻痺や突発性難聴、扁桃周囲膿瘍など入院加療が必要な病態についても、当院で対応できるようになりました。

当院で実施できる全身麻酔下手術も増えてきております。医師1人体制のため、大きな手術が必要な病態の場合は適切な医療機関へ紹介いたします。

《主な疾患と治療法》

● 慢性副鼻腔炎(蓄膿症)

レントゲンやCTにて病態を評価し、内服薬による治療を開始します。治療効果が乏しい場合は手術加療を検討します。

● 中耳炎

化膿性中耳炎や滲出性中耳炎など、病態を評価し、抗菌薬や鼓膜切開など必要な対応法を判断します。

● 咽石症

エコーやCTにて咽石の位置や大きさを評価し、咽石摘出の方法を検討します。

● 扁桃炎

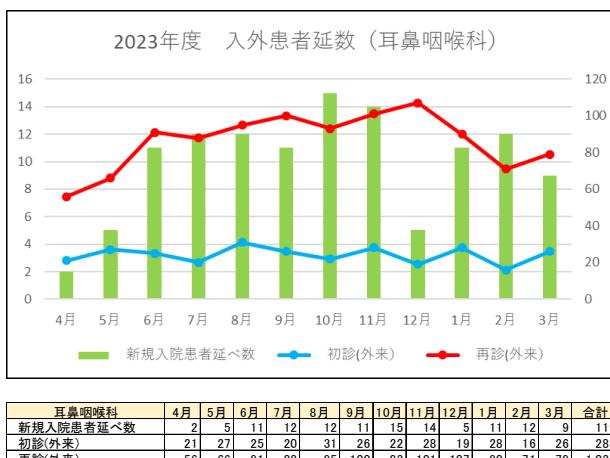
経口摂取が可能な病態であれば外来加療が基本です。開口障害や強い嚥下時痛にて経口摂取が困難な症例や、扁桃周囲炎や扁桃周囲膿瘍へ進行した症例では入院加療が必要になります。また緊急手術が必要なこともあります。

● 頭頸部癌

エコー、MRI、CT、生検といった検査で病態を評価し、適切な治療を検討します。当院で実施できない治療については、近隣医療機関と連携して実施します。

2 実績

2023年度の入外患者数



2023年度の入院患者疾患別件数

耳鼻咽喉科	件数
慢性扁桃炎	29
アデノイド肥大を伴う扁桃肥大	14
睡眠時無呼吸症候群	10
扁桃周囲膿瘍	6
扁桃肥大	6
良性発作性頭位めまい症	4
鼻出血症	2
喉頭蓋のう胞	2
突発性難聴	2
中咽頭側壁癌	2

2023年度の手術件数(上位10術式)

術式	件数
口蓋扁桃手術(摘出)	92
アデノイド切除術	12
鼓膜切開術	9
咽後膿瘍切開術	5
喉頭腫瘍摘出術(直達鏡によるもの)	5
リンパ節摘出術(長径3cm以上)	4
鼻腔粘膜焼灼術	4
扁桃周囲膿瘍切開術	3
鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術	3
頸瘻摘出術	2

歯科口腔外科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:2名

口腔外科は、口腔(こうくう:口のなか)、顎(がく:あご)、顔面ならびにその隣接組織に現れる先天性及び後天性の疾患を扱う診療科です。対象となる疾患として最も多いのが智歯(親知らず)の抜歯です。ご紹介いただいた当日に手術を行うことも可能ですが、状況によりますのでご予約の際にご希望をお伝えください。またその他にも、歯の破折・脱臼、顎の骨折などの外傷や、顎骨囊胞、良性・悪性腫瘍、顎関節症、口腔粘膜疾患、唾液腺疾患などの診療を行っています。一般の歯科治療に関しては行っておりません。かかりつけの歯科医院よりご紹介いただいた患者さんの口腔外科疾患の治療をかかりつけと連携をとりながら行っています。

また、障害のある患者さんや、歯科治療恐怖症の患者さんに対する全身麻酔下での歯科治療もかかりつけ歯科医院の先生と連携しながら行っています。当院は開放型病床を有しており、連携協力医の登録をしていただくと当院へご紹介いただいた患者さんの共同診療を行うことも可能となり、全身麻酔下での歯科治療を協力医の先生にしていただき、周術期の全身管理は当科で行うことも可能です。

県北地域では初めての有床口腔外科専門の診療科として2021年4月に開設となり、熊本大学病院歯科口腔外科から所属の歯科医師2名が診療を行っております。今まで熊本市内の病院まで受診していただく必要がありましたが、多くの場合は当科で対応が可能です。また当科で対応できない症例に関しましては熊本大学病院歯科口腔外科と密に連携をとって対応します。

地域の口腔外科二次医療機関として皆さんのお役に立てるよう、開かれた口腔外科を目指して、

スタッフ一同で頑張ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

《主な疾患と治療法》

●智歯(親知らず)

顎の骨内に埋没している智歯(親知らず)の抜歯を局所麻酔下、全身麻酔下で安全に行います。

●外傷

顎骨・顔面骨の骨折や、歯の脱臼・破折、口腔内外や顔面の外傷に対しての治療を行います。

●炎症

顎口腔領域の感染症に対して、抗菌薬の投与や外科的な消炎術を行います。

●囊胞性疾患

顎口腔領域の囊胞性疾患に対して摘出術、開窓療法を行います。

●顎関節症

顎関節の痛み、雜音、開口障害等の症状に対して理学療法、保存療法、外科療法を行います。

●唾液腺疾患

唾石、ラヌーラ、粘液囊胞、シェーグレン症候群などに対しての診断・治療を行います。

●口腔粘膜疾患

扁平苔癬、白板症、紅板症、ウイルス性の粘膜病変、口腔カンジダ症に対する診断、治療を行います。

●良性・悪性腫瘍

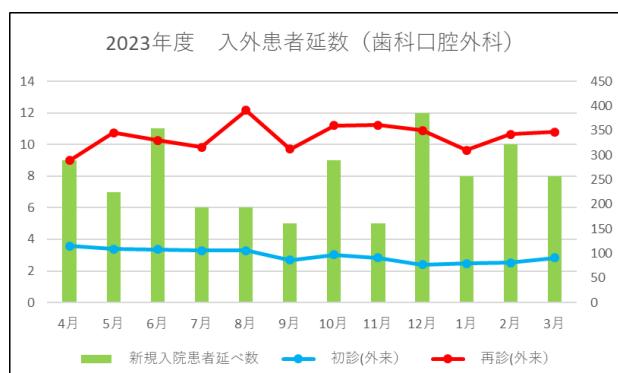
顎口腔領域に発生する良性腫瘍、悪性腫瘍に対する治療を行います。病状に応じて熊本大学病院歯科口腔外科と連携して治療を行います。

●障害者の全身麻酔下歯科治療

通常の歯科治療を行うことができない患者さんに對し、全身麻酔下で歯科治療を行います。

2 実績

2023 年度の入外患者数



歯科口腔外科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	9	7	11	6	6	5	9	5	12	8	10	8	96
初診(外来)	115	109	108	106	106	86	97	91	77	79	81	91	1,146
再診(外来)	289	345	330	316	391	312	360	361	350	310	342	347	4,053

2023 年度の全身麻酔下手術件数(上位 10 術式)

術式	件数
抜歯(埋伏歯)	17
抜歯手術(1歯につき)5.埋伏歯	8
抜歯(臼歯)	7
舌悪性腫瘍手術1(切除)	6
頸骨腫瘍摘出術(3cm未満)	4
抜歯(前歯)	4
術後性上顎囊胞摘出術(上顎)	2
頬、口唇、舌小帯形成術	2
抜歯手術(1歯につき)4.難抜歯	1
腐骨除去手術(片側1/3以上)	1

2023 年度入院の疾患別件数

歯科口腔外科	件数
Per	8
上顎正中過剰埋伏歯	6
8- 水平埋伏智歯	4
右側舌癌 頸部リンパ節転移 癌性疼痛	2
右側舌扁平上皮癌	2
下顎水平埋伏智歯	2
下顎水平埋伏智歯 Perico 歯科治療恐怖症	2
骨性完全埋伏智歯	2
左側下顎エナメル上皮腫	2
左側舌白斑症	2

婦人科

1 基本情報

《スタッフ》

非常勤医:2名

外来診療のみですが、女性特有の症状について
はすべて診療いたします。

分娩や入院・手術に対応できませんので、妊娠が確
認された場合、手術が必要な場合、高度の不妊治療
が必要な場合は、ご希望の医療機関へのご紹介を
します。

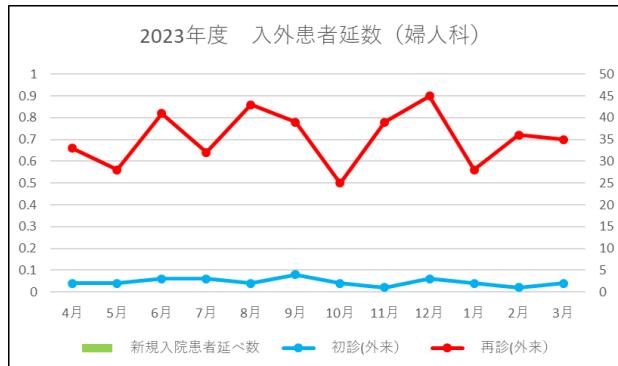
また、細胞診による子宮頸癌・体癌の検診、超音
波検査などによる子宮筋腫や卵巣腫瘍の診断や経
過観察も行っています。

《主な疾患》

- 子宮筋腫
- 卵巣腫瘍
- 子宮癌
- 卵巣癌
- 性感染症
- 更年期障害
- 月経の異常
- 子宮下垂
- 不妊の相談

2 実績

2023年度の入外患者数



婦人科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
初診(外来)	2	2	3	3	2	4	2	1	3	2	1	2	27
再診(外来)	33	28	41	32	43	39	25	39	45	28	36	35	424

2023年度院内コンサルタント件数

コンサル元診療科	件数
消化器内科	9
血液内科	6
総合診療科	6
糖尿病・内分泌内科	5
乳腺外科	5
救急科	2
呼吸器内科	2
循環器内科	2
脳神経内科	2
泌尿器科	2
消化器外科	1
整形外科	1
皮膚科	1
総計	44

麻酔科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医: 4名

当院の手術室は 2023 年の病院移転に伴い手術室は 4 室から 7 室に増加し、全身麻酔器やモニター機器等も最新の機器となっています。

主に手術を行う診療科は消化器外科・内科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、腎臓内科があり、新病院となった現在は呼吸器外科、歯科口腔外科、眼科、耳鼻咽喉科が加わり手術件数も増加しています。昨年度の手術実績は 2,117 例で、麻酔科が管理した手術は 1,700 例でした。

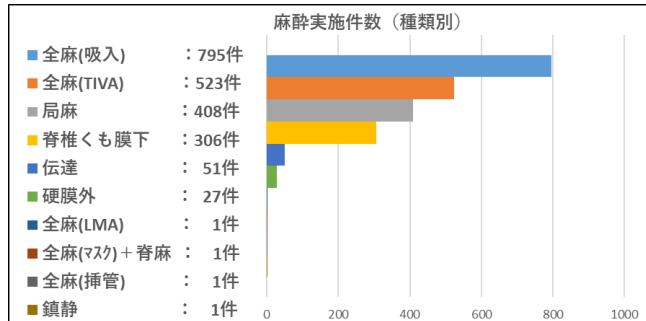
麻酔管理は全身麻酔を中心としています。また痛みが少なく快適な術後が過ごせるように、硬膜外麻酔を用いて患者さん自身で痛みのコントロールができる方法や、超音波診断装置を用いての様々な神経ブロックなどを積極的に取り入れ行っています。

手術室では 3 名の麻酔科医(うち麻酔科学会専門医 2 名)が常勤し様々な手術の麻酔管理を行っており、24 時間体制で緊急手術にも対応しています。また緩和ケアチームにも参加し、痛みのコントロールを行っています。

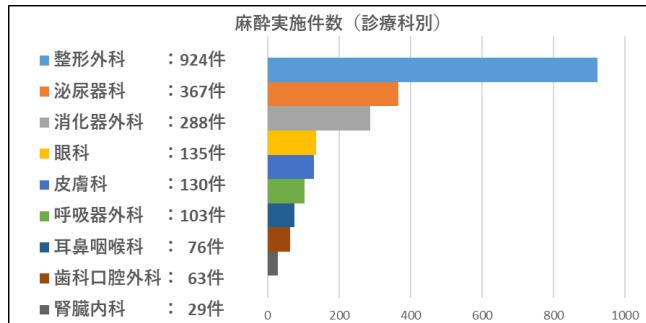
私たち麻酔科及び手術室スタッフは、患者さんが術前から術後まで安全・安心・快適に手術が受けられるよう努めています。

2 実績

2023 年度の手術実施件数



2023 年度診療科別手術実施件数



放射線科

1 基本情報

«スタッフ»

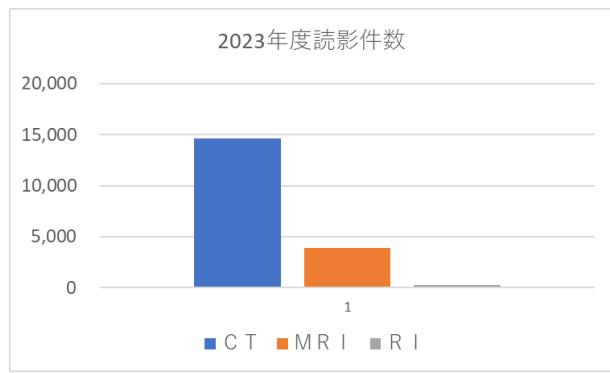
常勤医:2名

放射線科は患者さんにはなじみが薄い診療科と思いますが、コンピューター断層画像(CT)、核磁気共鳴画像(MRI)、核医学(RI)など高度医療に欠かすことのできない画像を解析して、診断レポートを作成しています。当院では放射線診断専門医2名が全ての画像診断を行い、各診療科の先生に速やかにレポートを報告し、病気の診断や治療方針の決定に役立っています。当院では320列CTと3.0Tと1.5TのMRI、SPECT対応型ガンマカメラを使用して高精度画像診断を行っています。

院外からの検査依頼も対応しています。検査には紹介状が必要となりますので、開業医の先生方を通じてお電話、またはFAXで医療福祉連携室(TEL:0968-73-5000/FAX:0968-73-5300)までご予約ください。

2 実績

2023年度モダリティ別読影件数



2023年度読影依頼元別件数

依頼元	CT	MRI	RI
救急科	5,890	501	1
呼吸器内科	1,922	114	2
消化器内科	1,240	819	2
泌尿器科	1,155	194	117
整形外科	738	432	0
放射線科	659	828	21
総合診療科	659	181	1
消化器外科	426	34	0
循環器内科	298	28	71
腫瘍内科	286	36	0
歯科口腔外科	207	49	0
血液内科	206	20	3
呼吸器外科	173	6	0
皮膚科	137	88	0
糖尿病・内分泌科	132	39	3
腎臓内科	106	12	0
透析	79	1	0
耳鼻咽喉科	71	48	0
脳神経内科	66	252	57
乳腺外科	63	34	3
外科	42	0	0
小児科	23	99	0
眼科	9	16	0
麻酔科	6	3	0
婦人科	3	15	0
リウマチ科	3	0	0
脳神経外科	0	7	0
総計	14,599	3,856	281

病理診断科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:1名

病理組織診断と細胞診断、病理解剖を担当する診療科です。内視鏡検査や針生検で採取された組織や喀痰・子宮頸部粘液から染色標本を作製し、顕微鏡観察によってがんの有無や病気の成り立ちを調べます。適確な病理診断を臨床医に報告することにより患者さんにとって最適な治療が可能となります。また、外科手術に際してはがんなどの病変の広がりを調べるとともに、治療効果の判定(がんの残存があるかどうか)を行って手術後の治療方針を決定します。さらに最新のがん治療である分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の適応判定を行うための特殊検査導入に向けて準備を進めています。

不幸にして患者さんが亡くなられた場合は病理解剖を行って病気の状態と治療内容の検証を行うとともにその結果を臨床医とご遺族に説明し、解剖によって得られた医学的知識を将来の医療に役立てます。

なお、当科は熊本大学病理診断科と連携して病理診断を行っており、県北地域の病理診断の一翼を担っています。

外来は行っていませんが、患者さんからのご要望があれば専門医の立場から病理診断結果を直接ご説明致します。

《対応する主な疾患》

全診療科の全ての疾患に対応致します。

- 呼吸器疾患：肺炎、肺真菌症、間質性肺炎/肺線維症、肺癌、胸膜炎、悪性中皮腫など
- 消化器疾患：食道癌、胃炎、胃癌、大腸炎、大腸癌、肝炎、肝細胞癌、胆嚢癌、膵癌など
- 循環器疾患：心筋症、心筋炎、心膜炎、弁膜症、動脈硬化症、血管炎など
- 血液疾患：骨髓異形成症候群、急性白血病、慢性白血病、骨髓線維症、悪性リンパ腫など
- 泌尿器疾患：前立腺肥大症、前立腺癌、膀胱炎、膀胱癌、尿管癌、腎癌など
- 婦人科疾患：子宮頸癌、子宮内膜増殖症、子宮内膜ポリープ、子宮体癌、卵巣腫瘍など
- 内分泌疾患：乳腺症、葉状腫瘍、乳癌、橋本病、濾胞性腫瘍、甲状腺癌など
- 皮膚疾患：皮膚炎(湿疹)、乾癬、天疱瘡、膠原病、扁平上皮癌、付属器腫瘍など
- 整形外科疾患：滑膜炎、リウマチ、脂肪腫/脂肪肉腫、骨軟骨腫瘍、骨肉腫など
- 脳神経外科：アミロイド血管症、脳腫瘍(膠芽腫、髄膜腫、上衣細胞腫、胚細胞腫)など
- 耳鼻科疾患：鼻ポリープ、アレルギー性鼻炎、真珠腫、上咽頭癌、悪性リンパ腫など
- 歯科口腔外科疾患：歯根囊胞/歯原性腫瘍、唾液腺腫瘍/癌、舌/歯肉癌など
- 眼科疾患：霰粒腫、麦粒腫、基底細胞癌、脂腺癌、網膜芽細胞腫、悪性リンパ腫など

2 実績

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
病理組織診断	1,470 件	2,022 件	2,004件	2,102件
細胞診診断	2,172 件	2,082 件	2,279件	2,105件
病理解剖	1 件	1 件	1件	2件

緩和ケア内科・外科

1 基本情報

《スタッフ》

常勤医:1名

くまもと県北病院には「緩和ケア病棟」はありませんが、緩和ケア患者さんの入院診療は現在地域包括ケア病棟と急性期病棟で行っています。同時に緩和ケアチームでの回診や ADL 維持改善目標でがんリハビリなども行っています。精神科の非常勤医師が入院患者さんのケアも行っています。

また自宅や施設で過ごしている方々の疼痛緩和を外来で診る緩和ケア外来を開始いたしました。

がん難民を作らないことを目標にしています。

《主な対象》

がんと診断された日から緩和ケアが始まることが理想です。

他の病院や当院で化学療法などのがん治療を受けている方、がん治療ができなくなった方、疼痛コントロールを必要とする方、疼痛はなくとも、かかりつけ医もなく、定期的に外来を希望される方々が対象です。

《診療体制》

診療日時 火曜日・木曜日 13:00～15:30(予約制)
但し、本人、ご家族の都合次第では、月・水の午後も診療可能です。

外来診療で緩和ケアを行います。症状次第で入院も可能です。入院後は緩和ケアチームでも診させていただきます。

同時にADLの維持改善を目標にがんリハビリも行います。

退院後は外来通院が可能です。自宅への訪問診療体制も整っています。

予約受付 平日 8:30～17:00

TEL:0968-73-5000(代表)

※主治医は交代しません。

※緩和ケア外来は、身体症状など苦痛緩和目的の外来です。セカンドオピニオンを目的とした外来ではありません。

◆緩和ケアチーム◆

緩和ケアは、がんの診断期からあらゆる時期において、患者さんの身体的、心理社会的、スピリチュアルな苦痛を緩和し、患者さんご家族の生活の質(QOL)を向上させる医療です。

がんの治療、療養中の様々なつらさを緩和し、安心して治療や療養に取り組めるように、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、社会福祉士など多職種からなる緩和ケアチームが、主治医、担当看護師などと協働して支援を行っています。

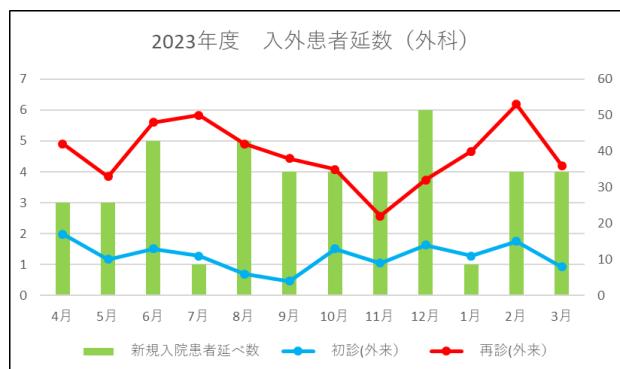
◆緩和ケア看護外来◆

がん患者さんやご家族の苦痛や療養上の不安に対して、安心して治療や療養をすることができるよう、専門の看護師が一緒に考えます。そして、自分らしく生活し、治療や療養へ取り組めるように、多職種と連携しサポートを行っています。対象は患者さんとそのご家族です。

◆がん相談支援センター◆

がんに関する相談窓口で、がんのことや、がんの治療を受ける上で不安や悩み、今後の療養や生活についての心配事など様々な質問や相談をすることができます。がんについて詳しい看護師や生活全般の相談ができる医療ソーシャルワーカーなどが、がん専門相談員としてご相談をお受けします。

2 実績



外科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者延べ数	3	3	5	1	5	4	4	6	1	4	4	44	
初診(外来)	17	10	13	11	6	4	13	9	14	11	15	8	131
再診(外来)	42	33	48	50	42	38	35	22	32	40	53	36	471

2023 年度の疾患別件数

外科	コード	件数
術後イレウス	K913	3
幽門部前庭部癌	C163	3
膵頭部癌	C250	3
肝細胞癌	C220	2
膵尾部癌	C252	2
上行結腸癌	C182	2
虫垂癌	C181	2
直腸癌	C20	1
食道胃接合部癌	C158	1
浸潤性乳管癌	C509	1

救急科

1 基本情報

《基本方針》

- 地域の救急拠点病院として、救急医療体制に貢献します
- 一次及び二次救急として患者さんの治療にあたります
- 各診療科や三次医療機関と連携し、適切に対応いたします

《運営方針》

1. トリアージ基準に沿って診察します

診察前に看護師が問診を行い、トリアージ基準に沿って診察をいたします。重症患者さんの処置などで時間を要する場合もあります。

2. 当番医による診察です

当番体制のため、まず当番医が診察します。

3. 入院の要否は医師の判断によります

入院は医師の判断により決めさせていただきます。対応が困難な疾患の場合は他院へ紹介させていただくこともあります。

4. 後日、各科の外来を受診していただきます

救急センターは当番医による診察のため、必要と判断された場合は後日各専門外来を受診していただくこともあります。したがって、投薬期間は次の診察日までとなります。救急センターでは診断書の発行はできません。

患者さんへのお願い

救急センターの特殊性をご理解いただき、ご協力をお願い致します。



救急センターの時間外診療体制

曜日	時間帯	当番医	備考
平日 (月～金)	午後 5 時～	2 名	まず当番医が診察を行い、必要に応じて専門の診療科の医師を呼び出します。
	午後 11 時	1 名	
	午後 11 時～ 翌朝 9 時		
土・日・祝 日	午前 9 時～	2 名	
	午後 11 時	1 名	
	午後 11 時～ 翌朝 9 時		

※小児科に関しては、オンコール体制による 24 時間対応にしております。

救急医療を円滑に行うために、下記に該当する患者さんの診察をお断りする場合があります。

- 暴力行為をする方(警察へ通報します)
- 大声を出す等、他の患者さんが不快に感じる行為をする方
- その他、診察に支障を来たす行為をする方

外来化学療法室

1 基本情報

《スタッフ》

専任医師 : 1名

専任薬剤師 : 1名(がん薬物療法認定薬剤師)

専任看護師 : 3名

(がん化学療法看護認定看護師を含む)

外来化学療法室は、がん治療の点滴とリウマチなど自己免疫疾患の点滴を行う外来患者専用の部屋です。がん薬物療法の副作用対策、生活の困りごとなどの相談業務も行っています。

多職種と協働し、安心・安全な薬物投与を行うことで、患者さんが自分らしい生活を送れることができるよう支援を行っています。

《施設》

●電動リクライニングチェア 10台

●電動ベッド 2床

大きな窓から見える“のどかな風景”、ゆったりした環境の治療室となっています。がん薬物療法に関する冊子と副作用の対処方法に関するパンフレットの準備、ウィッグや帽子の展示を行っています。ぜひ活用ください。

《調製室》

昨今、がん化学療法は個々に多様性に富んだ治療が行われており、最良の治療効果を上げるために正確な抗がん剤の調製が不可欠とされています。当院外来化学療法では、薬剤師が高い技術と最新の知識をもって正確な抗がん剤調製を行っています。また、その調製者や投与者に対しても、細胞毒性のある抗がん剤に曝露されないような対策(手袋、ガウン、マスクを着用し、安全キャビネットという装置やCSTDといった器具を用いた調製・投与など)を講じています。

2 実績

診療科	外来件数 (2023年度)
呼吸器内科	294
腫瘍内科	267
血液内科	145
乳腺外科	137
消化器内科	217
泌尿器科	257
消化器外科	95
外来合計	1412

診療科	入院件数 (2023年度)
呼吸器内科	87
腫瘍内科	53
血液内科	315
消化器内科	24
乳腺外科	0
泌尿器科	103
消化器外科	10
入院合計	592



事務部

1 基本情報

《スタッフ》

事務部長	: 1名
事務次長	: 1名
総務課	: 24名
経営企画課	: 9名
診療支援課	: 44名

- 総務課 : 職員採用、人事、給与、福利厚生、庶務、調達、施設管理など
- 経営企画課 : 会計経理、予算、決算、電算、経営分析、施設基準など
- 診療支援課 : 診療報酬請求、患者負担金徴収、医師事務補助など

2 実績

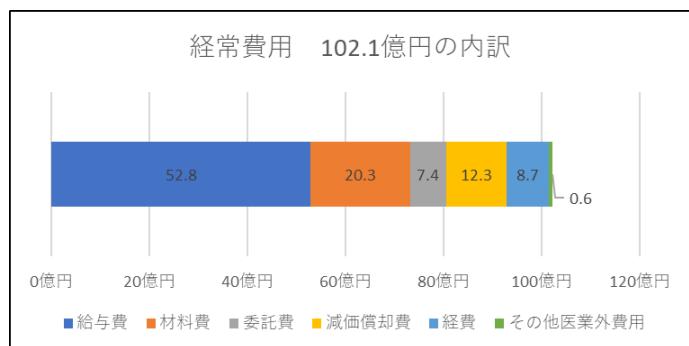
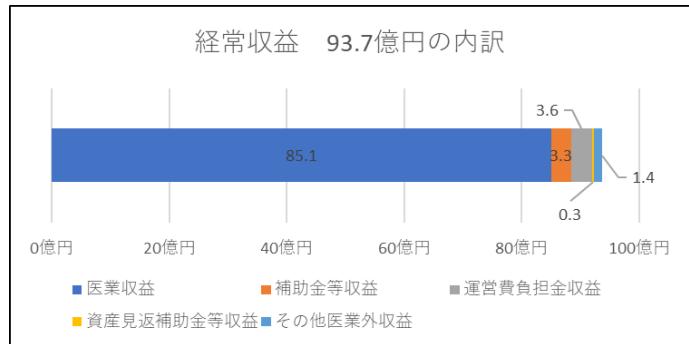
【2023年度新規施設基準届出一覧】

受理届出名称	算定開始年月日
夜間100対1急性期看護補助体制加算	令和5年6月1日
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	令和5年6月1日
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	令和5年7月1日
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	令和5年8月1日
腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	令和5年8月1日
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和5年8月1日
悪性腫瘍病理組織標本加算	令和5年11月1日
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	令和6年1月1日
急性期看護補助体制加算25対1（看護補助者5割以上）（夜間看護体制加算）（看護補助体制充実加算）	令和6年2月1日
医師事務作業補助体制加算1（15：1）	令和6年3月1日

【当院の経営状況】

	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	対前年度増減
経常収益（千円）	11,233,732	11,047,715	9,374,150	▲1,673,565
経常費用（千円）	9,181,765	9,766,181	10,212,136	445,955
経常收支差（千円）	2,051,967	1,281,534	-837,986	▲2,119,520
経常収支率（%）	122.3%	113.1%	91.8%	▲21.3
人件費率（%）	43.9%	46.0%	56.4%	10.4
委託費率（%）	4.9%	6.2%	7.9%	1.6
材料費率（%）	15.0%	16.9%	21.7%	4.9

【R5年度の決算の概要】



【前年度との比較】

<経常収益>	
対前年度	▲16.7億円
内訳(主なもの)	
●医業収益	対前年度 6.3億円
平均在院日数短縮による入院単価増加と、外来患者の単価増加、健診受診者の増加によるもの	
●運営費負担金	対前年度 1億円
病床稼働増加に伴い、運営費負担金総額が増加したため	
●補助金等収益	対前年度 ▲23.6億円
コロナ収束に伴い、コロナ関係補助金がなくなったため	

<経常費用>	
対前年度	+4.5億円
内訳(主なもの)	
●給与費	対前年度 2億円
人員の増加と、国の雇用保険率増加に伴うもの	
●材料費	対前年度 1.7億円
薬品・診療材料費の高騰によるもの	
●委託費	対前年度 0.5億円
医療機器の保守費用の増加によるもの	

当院が中期計画に掲げた事業に関する主な実績は次のとおりです。

【小児医療の充実】

小児科の 24 時間診療体制を維持し、夜間小児診療を含む小児救急ニーズに対応した小児医療の提供を継続しました。

2023 年度の救急外来小児患者受入数は 2022 年度の 2,646 人から 2,346 人に減少しました。原因としては新型コロナ感染症関連小児患者が前年度 540 人から今年度 59 人と減少したことが考えられます。深夜帯での救急外来小児科患者受入数については、333 人から 349 人と増加しました。

【予防医療の充実】

健康管理センターにおいては、有明医療圏内を中心とする住民の健康増進を目的とする予防医学推進の観点から自治体・都市医師会等の関係機関と連携し、人間ドック、生活習慣病予防健診、がん検診、学校健診、各種健康診断を実施しました。実績として、人間ドックは、玉名市・玉東町の住民、共済組合員を中心に実施し、1,900 件を実施し、住民健診は、自治体、関係機関と連携し、がん検診を含め例年同等 12,928 件実施しました。

【地域医療連携の推進】

地域の医療機関から 839 人(2022 年度 775 人)の入院依頼に対応しました。たまな在宅ネットワーク定例会において、当院から自宅に退院され在宅医療を受けておられる方の症例検討に地域連携課スタッフが参加しました。(月 1 回 計 12 回)

地域の医療福祉関係者との入院患者退院時のカンファレンスを年間 210 件実施しました。(2022 年度 202 件)また、地域のかかりつけ医と当院医師が参加しての入院患者退院時カンファレンスも年間 14 件実施しました。(2022 年度 12 件)

地域医療支援病院として紹介患者の積極的な受け入れとかかりつけ医との役割分担のために、外来

予約センターを設置しました。年間 5,713 人の紹介予約の手配を行い、外来予約センターで一括して予約をとる仕組みになったことで、依頼を受けて予約が完了するまでの時間短縮もできました。

3 今後の課題と展望

2023 年度の収支について、外来収益、入院収益は 2022 年度に対し約 6 億円増加しましたが、黒字化には不十分でした。コロナ関連の補助金が令和 4 年度は約 26 億円に対し、2023 年度は約 3 億円と約 23 億円減少しました。しばらくは損益計算上赤字が続き、厳しい状況となることが想定されます。早急に病院全体で収益増加、経費削減に取り組む必要があります。2024 年度実施の診療報酬改定に早急に対応できるよう、行政や関係機関と協力しながら、当院の理念である「地域の皆様に安心と信頼を提供する県北の中核病院」としての役割を果たしていきます。

健康管理センター

1 基本情報

《スタッフ》

医師 : 3名
保健師 : 2名
看護師 : 11名
管理栄養士 : 1名
言語聴覚士 : 1名
事務職員 : 20名
診療放射線技師・臨床検査技師は診療技術部所属

《資格取得者数》

・人間ドック認定医 : 2名
・健診マンモグラフィ読影医師 : 2名
・日本消化器がん検診学会認定医 : 1名
・肺がん検診読影医師、肺がん一次検診
　　総合判定医師、乳がん検診従事医師 : 2名
・放射線診断専門医 : 1名
・日本医師会認定産業医 : 1名
・人間ドック健診情報管理指導士 : 2名

医師、看護師、保健師、診療技術部門、事務職員の多職種で協力し、施設外の住民検診・巡回健診、施設内の各種健診業務や保健指導を実施しました。

2 実績

健康管理センターは、有明医療圏内を中心とする住民の健康増進を目的に、自治体、都市医師会及び保険者等の関係機関と連携して各種健診事業を実施しました。

《主要事業》

●施設内健診
・人間ドック

・生活習慣病予防健診

・労働安全衛生法健診

・特定健康診査

・特定保健指導

・各種健康診断

●巡回健診

・集団検診(玉名市・玉東町)
・結核、肺がん検診
・医師会学校保健事業(心臓検診・腎臓検診)
・学校健診
・企業健診
・福祉施設健診

●2023年度実績

健診種類	件数
人間ドック	1,900
生活習慣病予防健診	5,869
住民検診	12,928
事業所健診	7,956
学校健診	3,220
その他の健診	1,151
オプション	428
合計	33,452
保健指導	595

3 今後の課題と展望

2023年度は、従来の公立玉名中央病院附属健診センターと玉名地域保健医療センター健診部門の2部門で行っていた健診事業を引継ぎ、健康管理センターでの新体制の整備を計り、継続してより良い健診を提供することを目標とし、12月までは順調に実施できましたが、1月以降は健康管理センター医師の減員の影響を受けて、通年では前年比で健診収入実績100.2%、健診件数実績100.1%の実績となりました。

課題として、従来より検討していた新しい健診項目のうち、肺がん CT 健診は 2024 年度から開始できる準備ができました。今後は大腸内視鏡健診について開始できるよう取り込み中です。健康管理センター医師の充実を計り、早期に地域の皆様にご利用できるようにいたします。展望として、地元自治体(玉名市・玉東町)や観光事業者と協力して、将来的に観光資源と健診を組み合わせた医療ツーリズムの構築を図っていく予定です。

医療福祉連携部

1 基本情報

《スタッフ》

連携部長 田宮 貞宏 病院長

連携副部長 佐藤 彰洋 (総合診療科)

課長(社会福祉士) : 1名

社会福祉士 : 9名

看護師 : 2名

事務スタッフ : 2名

《資格取得者数》

精神保健福祉士 : 2名

介護支援専門員 : 5名

介護福祉士 : 2名

保育士 : 2名

・地域連携の会開催 8/26

(玉名・荒尾医師会より 54 名参加)

・がん相談支援センター

相談件数 98 件

がんサロン 開催 4 回 対面にて実施(のべ参加
者 18 名)

2 実績

《関係する施設基準》

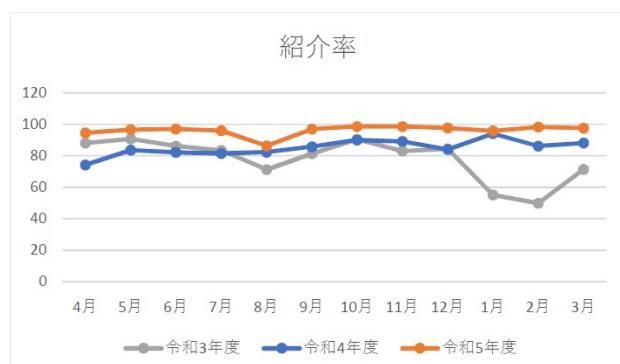
- ・認知症ケア加算
- ・入退院支援加算 1
- ・患者サポート体制充実加算
- ・がん相談支援センター
- ・認知症初期集中支援事業
- ・療養支援体制加算
- ・がん相談支援センター

《活動実績》

- ・患者相談サポートセンター相談実績 3,078 件/年間
- ・苦情要望 101 件
- ・外来予約対応 6,617 件/年間
- ・介護支援連携指導 202 件/年間
- ・入退院支援加算 2,596 件/年間
- ・虐待対応 24 件/年間
- ・新型コロナウイルス感染症自宅療養者調 1,139 件
- ・ケアマネジャー連携シート 138 件
- ・地域医療支援病院運営委員会開催 4 回

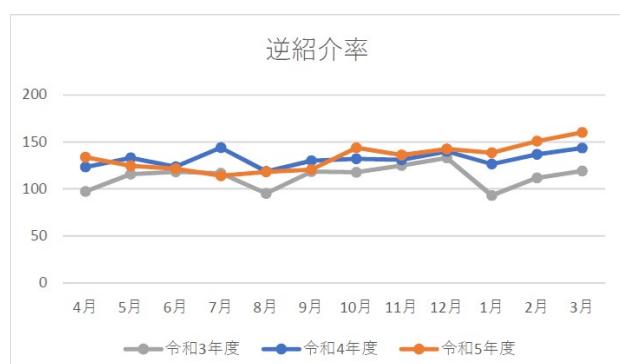
【紹介率 月別数移】 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
2023年度	94.6	96.7	97	96	86.3	97	98.6	98.6	97.7	95.9	98.2	97.5	96.2
2022年度	74.2	83.6	82.2	81.5	82.3	85.8	90	89.1	84	94.1	86.1	88.2	85.1
2021年度	88.2	90.7	86.2	83.4	71.2	81.3	90.4	83	84.4	55.1	49.8	71.3	77.9



【逆紹介率 月別数移】 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
2023年度	97.3	115.8	118.1	116.6	95.1	118.4	117.7	125	133	93	111.6	119	113.4
2022年度	123.3	133	123.5	143.9	118.5	129.9	132.2	130.9	140	126.5	136.9	143.5	131.8
2021年度	133.8	124.6	121.5	113.9	118.2	120.5	143.6	136.1	142.5	138.4	150.8	160.2	133.7

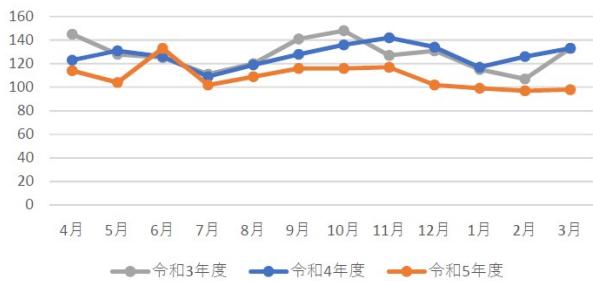


【医療機器共同利用】

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
2023年度	114	104	133	102	109	116	116	117	102	99	97	98	108.9
2022年度	123	131	126	109	119	128	136	142	134	117	126	133	127.6
2021年度	145	128	125	111	120	141	148	127	131	116	107	133	127.6

共同利用

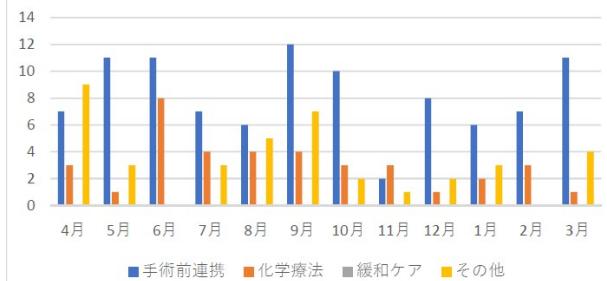


【医科歯科連携】

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
手術前連携	7	11	11	7	6	12	10	2	8	6	7	11	8.2
化学療法	3	1	8	4	4	4	3	3	1	2	3	1	3.1
緩和ケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	9	3	0	3	5	7	2	1	2	3	0	4	3.3

医科歯科連携



【手術室共同利用 月別推移】

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
2023年度	0	2	1	3	1	1	2	0	1	3	1	0	1.3
2022年度	1	3	2	5	4	1	3	1	3	2	1	6	2.7
2021年度	1	0	2	4	3	1	3	2	4	3	1	2	2.2

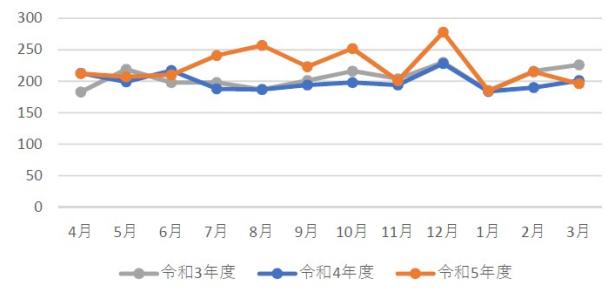
手術室共同利用



【入退院支援加算】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
2023年度	212	207	210	241	257	223	252	201	278	185	215	196	223.1
2022年度	213	199	217	188	187	194	198	194	228	184	190	201	199.4
2021年度	183	219	198	198	187	201	216	204	230	184	216	226	205.2

入退院支援加算



【私のカルテ 月別推移】

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
2023年度	3	1	2	3	1	6	4	4	3	4	1	4	3.0
2022年度	0	0	1	4	1	5	5	3	5	3	1	2	2.5

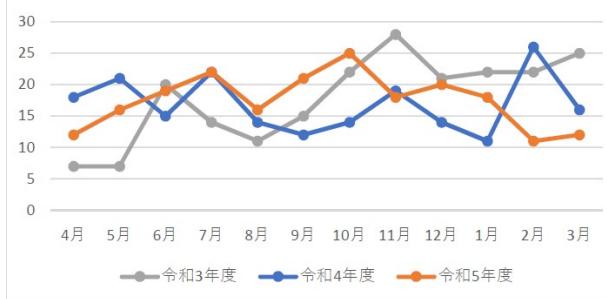
私のカルテ



【退院支援カンファレンス】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
2023年度	12	16	19	22	16	21	25	18	20	18	11	12	17.5
2022年度	18	21	15	22	14	12	14	19	14	11	26	16	16.8
2021年度	7	7	20	14	11	15	22	28	21	22	25	25	17.8

退院支援カンファレンス



3 今後の課題と展望

くまもとメディカルネットワーク利用促進

在宅療養支援

外来予約センター設置

看護部

1 基本情報

2023 年度の看護部の重点目標は「看護の質を向上させ、患者満足の向上に努める」とし、以下の 3 点を取り組みの課題に掲げました。

1. 多職種を含めたワンフロア・ワンチームの考え方を浸透させ、風通しの良い職場環境をつくる
2. 患者・家族の思いに寄り添った看護を提供する
3. 看護の仕事にやりがいを持ち、自己キャリア開発に取り組む

看護職の就業継続が可能な働きかけとしては、介護福祉士、救急救命士の採用や、夜間業務を補助する看護補助者の採用など様々な取り組みを行っています。そして、患者にとって安心して療養できる環境を提供するために、職員教育にも力を入れています。特定行為研修を終了した看護師は 3 名に増え、活動の場を広げていく基盤を作っているところです。

2024 年度は診療報酬のトリプル改訂があり、看護部でも国の動向を見極めて、適切に対応していく必要があると考えています。

看護部職員総数 : 472 名

常勤 : 343 名(看護師 330 名 準看護師 13 名)

非常勤 : 56 名(看護師 50 名 準看護師 6 名)

介護福祉士 : 10 名 救急救命士 6 名

看護補助者 : 49 名(夜間委託 12 名)

クラーク 8 名 2024 年 3 月 31 日

《看護部の理念》

私たちはひとを大切にし、あたたかい心と確かな技術を持った看護をいたします

~看護部の目指すもの(基本方針)~

1. 安心安全な看護を目指します
2. 優しさと思いやりのある看護を目指します
3. 他職種と連携した切れ目のない看護を目指します
4. 常に問題意識を持ち、看護の質の向上を目指します
5. 安心して働ける職場環境を目指します



2 実績

～資格取得者・研修終了者～ 2024 年 3 月 31 日

● 認定看護師

認定看護管理者	: 1 名
緩和ケア	: 2 名
がん化学療法看護	: 1 名
感染管理	: 2 名
救急看護	: 2 名
皮膚・排泄ケア	: 1 名
認知症看護	: 1 名
摂食・嚥下障害	: 2 名

● 特定行為分野

栄養及び水分管理に係る薬剤投与管理	: 2 名
創傷管理関連	: 1 名
術中麻酔管理領域パッケージ	: 1 名

● 認定看護管理者研修

ファーストレベル	: 30 名
セカンドレベル	: 14 名
サードレベル	: 2 名

● 熊本県新人看護職員研修責任者等研修

研修責任者	: 8 名
教育担当者	: 10 名
実地指導者	: 9 名(1 日コース 21 名)

● 看護補助体制に関する研修

看護補助者活用のための看護管理者研修 : 30 名
看護補助体制指導者養成研修 : 17 名

2. 「喘息患者への吸入指導の振り返り」

～吸入手技習得のための薬剤師との連携～
4C 病棟 : 村木 美香

● 重症度、医療・看護必要度評価者研修

院内指導者研修 : 13 名
ステップアップ研修 : 3 名

3. 「回復期リハビリ病棟での低栄養患者 A 氏へ取り組んだ退院支援の一例」

5D 病棟 : 宮本 紘里

● 認知症に関する研修

認知症ケア指導管理士 : 1 名
認知症高齢者の看護実践に必要な知識 : 22 名
くまもとオレンジナース : 2 名
認知症看護・看護協会支部共催研修 : 5 名

4. 「人工呼吸器患者の苦痛軽減への取り組み」 ～HCU 中堅看護師の暗黙知の明確化

H C U : 松本 幸城

5. 「新たな術後訪問の検討」

～術後訪問の定着化をめざして～

O P 室 : 稲田 棱奈

● 医療安全に関する研修

医療安全上級管理者 : 1 名
医療安全管理者養成コース : 10 名
医療安全リスクマネジャー認定実務講座 : 1 名
医療安全教育者 : 1 名

熊本県看護研究発表会(2024年2月17日)

(熊本城ホール シビックホール)

糖尿病教育入院患者の実態調査

～支援体制強化に向けて～

発表者 : 高松 美里

● 実習指導者講習会 修了者

: 34 名

熊本県 CKD 看護研究会(2023年7月2日)

(熊本城ホール)

下肢切断後、再発した足壊死の看護

透析室 : 池端 春美

● 2023年度 若葉会院内研修会

・2023年4月28日(金)

「緩和ケア認定看護師教育課程を修了して」

4C 病棟 : 本里 翔

「臨地実習指導者講習会に参加して」

5D 病棟 : 宮本 紘里

・2024年3月1日(金)

「皮膚・排泄ケア認定看護師

教育課程(A過程)を受講して」

4A 病棟 : 城戸 香織

「特定行為研修を終えて ～術中麻酔管理領域～」

O P 室 : 黒田 歩

● 2022年度研修会参加状況

若葉会より参加費用の補助を受けて
研修に参加した人数 年間 : 301 名

● 研究発表

2023年度若葉会看護研究発表会

2024年4月20日(土)

(くまもと県北病院 たまきなホール)

- 「コロナに罹患し終末期を迎えた患者と家族への看護」

4B 病棟 : 内田 彩花

● 研修会講師派遣 看護協会関係

2023年7月1日(土)くまもと県北病院

看護協会有明支部第1回研修会

「認知症看護について」

認知症看護認定看護師：簞 薫

・2023年8月26日(土)くまもと県北病院

看護協会支部共催研修

「摂食・嚥下障害看護」

摂食・嚥下障害看護認定看護師：川野 陽子

2023年11月1日(水)(くまもと県北病院)

看護協会地区別看護管理者会

「就業継続可能な看護職の働き方への取り組み」

看護部長：津田 恵美

・2024年2月15日(木)

「看護職のためのパソコン基礎講座」

看護次長：水本 トシ子

● 研修講師派遣 その他

・5月17日(水)(老人ホーム ビハーラふじの香)

「介護施設における感染対策」等

感染管理認定看護師：前竹 明美

・5月27日(土)(嘉島町民会館)

熊本県市町村保健師協議会第1回研修会

「災害時の看護活動の実際」

看護次長：松崎 とよ子

・6月28日(水)(和水町立病院)

「褥瘡 DESIGN-R2020について」

皮膚・排泄ケア認定看護師：日田 さやか

・7月13日(木)

BLS研修～急変対応を理解して急変に強くなろう～

救急看護認定看護師：角 順子・東海林 美貴

・9月5日(火)(玉名病院)

薬剤耐性菌感染対策について

感染管理認定看護師：上土井 麻紀

・9月13日(水)(和水町立病院)

災害時に自分たちがとるべき行動

～災害支援ナースの活動～

災害支援ナース・看護部次長：松崎 とよ子

・9月20日(水)(和水町立病院)

院内検出菌に対する感染対策

感染管理認定看護師：上土井 麻紀

・10月24日(水)(和水町立病院)

「他職種連携と倫理」

緩和ケア認定看護師：神田 尚代

・12月4日(月)(多機能型事業所もんくうる)

「感染症対策について」

感染管理認定看護師：前竹 明美

・12月6日(火)(玉名病院)

「褥瘡予防とスキンケアについて」

皮膚排泄ケア認定看護師：日田 さやか

3 2023年度看護実習生受け入れ状況(延人数)

・玉名女子高等学校看護科 : 1,422名

・玉名女子高看護専攻科 : 1,216名

・九州看護福祉大学 : 935名

・九州中央リハビリテーション学院 : 736名

・麻生看護大学校 : 18名

・熊本保健科学大学認知症認定看護過程 : 18名

・認定看護管理者セカンドレベル演習 : 1名

・認定看護管理者サードレベル演習 : 1名

年間合計 : 4,347名

・「若駒キャリア塾(職業講話)」

7月11日(火)玉名高等学校・附属中学校

4A病棟：徳永 葵

・看護の日「進路指導ガイダンス」出前授業

7月14日(火)私立慶誠高等学校

H C U : 古賀 茜

4D病棟：竹下 真登

・高校生の1日看護体験 7月28日(金)

県内の高校生10名参加(くまもと県北病院)

4 ボランティア活動 2023 年度

- ・いきいきふれあい活動講師(各 3 名)
- 「AED の使い方」「緊急時の対応の仕方」
- 4 月 19 日 横島町十番担い手センター
- 5 月 24 日 玉名市中島公民館
- 6 月 26 日 玉名市河崎公民館
- 9 月 21 日 玉名市川部田公民館
- 11 月 16 日 玉名市青木公民館

- ・2023 年度みかんの里通学合宿に伴う看護師派遣
9 月 3 日(日)～9 月 4 日(月)

4A 病棟 : 田中 朱美

- ・第 58 回 玉名市子ども会リーダーキャンプ救護
7 月 28 日(金)～7 月 30 日(日)
国立夜須高原青少年自然の家
(HCU : 松本 幸城 救急病棟 : 平瀬 令奈)

- ・第 45 回玉名市陸上競技選手権大会救護
8 月 5 日(土) 桃田運動公園
看護部長室(津田恵美・水本トシ子)
- ・令和 5 年度横島支館球技大会救護
10 月 9 日(祝) 横島町体育館及びグラウンド
救急病棟 : 土山 幸子
- ・第 46 回玉名市マラソン大会
11 月 26 日(日) 横島公民館
外来(宮尾 忍・佐々木 洋子)

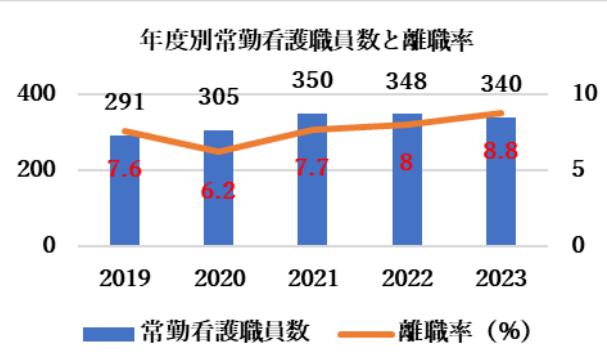
- ・2023 年くまもと森都心プラザ図書館出張がん相談
12 月 9 日(土) くまもと森都心プラザ
がん相談支援センター : 神田 尚代

- ・第 2 回 玉名いだてんマラソン 2024
- 第 44 横島いちごマラソン大会 救護
2 月 25 日(日) 看護師 12 名派遣
- ・第 52 回金栗駅伝大会 救護
3 月 10 日(日) 看護師 2 名派遣
(古賀 淳子 ・ 松本 和代)

5 看護職員データ

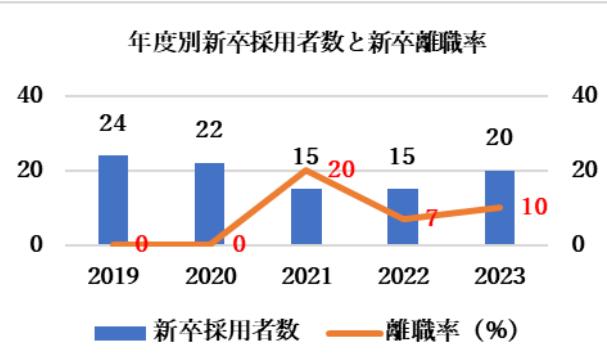
年度別常勤看護職員数と離職率

	常勤看護職員数(人)	離職率(%)
2019	291	7.6
2020	305	6.2
2021	350	7.7
2022	348	8.0
2023	340	8.8



年度別新卒採用者数と新卒者離職率

	新卒採用者数(人)	離職率(%)
2019	24	0
2020	22	0
2021	15	20
2022	15	7
2023	20	10



6 今後の課題と展望

働きやすい職場環境を目指して、看護職員の安定的な雇用と定着を目指します。また、地域に必要とされる人材の育成を図るため、職員教育に力を入れていきます。

薬剤部

1 基本情報

『スタッフ』				
薬剤師:常勤 17名・非常勤 1名		・麻薬教育認定薬剤師	:1名	
事務 :4名		・感染制御専門薬剤師	:1名	
『資格取得者数』		・抗菌化学療法認定薬剤師	:2名	
・日本病院薬剤師会薬学認定薬剤師	:5名	・災害医療認定薬剤師	:1名	
・日本薬剤師会研修認定薬剤師	:3名	・災害薬事 PhDLs インストラクター	:1名	
・がん薬物療法認定薬剤師	:1名	・日本糖尿病療養指導士	:2名	
・外来がん治療認定薬剤師	:1名	・熊本地域糖尿病療養指導士	:1名	
・緩和医療暫定指導薬剤師	:1名	・医療環境管理士	:2名	
・緩和薬物療法認定薬剤師	:1名	・診療情報管理士	:1名	
		・認定実務実習指導薬剤師	:5名	

【院内採用医薬品目】

内服外用注射品目数 2,188(内服 1,078、外用 369、注射 741)、内、後発品採用品目数:598(内服 353、外用 92、注射 153)

※ 院外専用薬は除外・臨時採用含む・規格違いは別算定

2 実績

2023 年度		月平均	年間合計
注射処方箋数(枚)	入院	4,168.8	50,026
	外来	950.2	11,402
処方箋枚数(枚)	入院	5,439.8	65,278
	入院麻薬	79.2	950
	外来(院内)	225.6	2,707
	外来麻薬(院内)	3.7	44
	外来(院外)	3,762.8	45,153
	外来麻薬(院外)	40.9	491
	院外発行率	94.4	1,132.7
無菌製剤処理料件数(180 点)	閉鎖式使用	159.5	1,914
無菌製剤処理料件数(45 点)		28.4	341
プレアボイド・PMDA 報告	正式報告	0.2	2
後発薬品使用割合(%)	93.0		
学会発表(件)	0.7	8	
疑義紹介(件)	58.3	699	
麻薬管理指導加算(50 点)(回)	16.8	201	
退院時薬剤情報管理指導料(90 点)(回)	102.8	1,234	
薬剤管理指導料 1(380 点)(回)	147.9	1775	
薬剤管理指導料 2(325 点)(回)	330.8	3,970	

- 処方介入(疑義照会を含む): 2021年10月より、医師、看護師支援業務を図り、薬剤師が処方介入した事例を集計し、医療安全対策委員会、医局会で報告することとしました(件数)。

年月	情報提供	処方介入	その他
2023年4月	20	65	8
2023年5月	17	84	9
2023年6月	31	64	6
2023年7月	27	48	8
2023年8月	19	56	11
2023年9月	24	41	8
2023年10月	26	51	14
2023年11月	29	44	9
2023年12月	38	62	29
2024年1月	34	60	14
2024年2月	34	56	17
2024年3月	31	42	5

- 年間実務実習受入人数: 2名(崇城大学薬学部)

3 今後の課題と展望

【基本目標】連携・協調・相互支援

【個別目標】

医薬品流通が困難な状況下においても継続して医薬品の安定確保と適切な情報提供を通じ、医師、看護師、その他の医療関係者、都市薬剤師会との連携を推進し、患者中心の安全で質の高い医療提供を継続していきたいです。

- ◆ 病棟薬剤業務実施加算再取得に向けた準備
- ◆ 薬剤管理指導取得件数増(目標値は別途薬剤部内で検討)
- ◆ 連携充実加算継続・調整、総合評価・退院時指導(加算取得)
- ◆ 地域包括・回復期リハビリテーション病棟の薬剤師積極的関与
- ◆ 周術期に薬剤師配置(チーム参画)
- ◆ 配薬カート対象病棟の維持
- ◆ インシデントの減とヒヤリハット報告の増
- ◆ 2023年度診療報酬改定に伴う薬剤関連の学習と遅滞ない実行
- ◆ 経費節減(限りある資源の有効活用・SGDsの実行)
- ◆ 後発医薬品使用体制加算1(カットオフ50%以上かつ後発品使用率の割合90%以上)継続

放射線科

1 基本情報

«スタッフ»

診療放射線技師長	: 1名
診療放射線副技師長	: 1名
診療放射線主任技師	: 1名
診療放射線副主任技師	: 1名
診療放射線技師	: 16名
事務職員	: 2名

«資格取得者数»

第1種放射線取扱主任者(未講習者含む)	: 4名
アドバンス診療放射線技師	: 1名
放射線管理士	: 1名
X線 CT 認定技師	: 3名
検診マンモグラフィ撮影認定	
診療放射線技師	: 5名
臨床実習施設指導者	: 2名

2 診療実績

主な業務は、画像診断における「臨床画像提供」と「放射線診療に用いる機器の管理」、「放射線診療領域における安全管理」です。

「臨床画像提供」

- 一般撮影装置を用いたX線撮影
- X線透視装置を用いたX線透視と撮影
- 骨密度測定装置を用いた骨塩定量検査
- 移動型X線撮影装置を用いたX線撮影
- CT装置を用いた断層撮影
- MRI装置を用いた断層撮影
- SPECT-CT装置を用いた核医学検査
- バイプレーン血管造影装置を用いた心臓カテーテル検査
- 移動型透視装置を用いた腹部血管造影
- 超音波撮影装置を用いた超音波撮影

- 画像診断ワークステーションによる画像処理

「放射線診療に用いる機器の管理」

- 一般撮影装置 : 5台
- 乳房用X線撮影装置 : 1台
- 移動型X線撮影装置 : 3台
- X線透視装置 : 4台
- 骨密度測定装置 : 1台
- CT装置 : 2台
- MRI装置 : 2台
- SPECT-CT装置 : 1台
- バイプレーン血管造影装置 : 1台
- 移動型透視装置 : 6台
- 画像診断ワークステーション : 3種
- 線量管理システム : 1種

「放射線診療領域における安全管理」

- 放射線診療に関わる職員の教育訓練
- 放射線業務従事者の線量管理
- 線量管理システムを用いた患者被ばく管理
- 放射線管理区域の作業環境管理
- DRLsを活用した検査条件の最適化
- 臨床MRI安全管理

「2023 年度検査実績数」

モダリティー	合計件数	月平均件数
一般撮影	28,783	2,399
CT	14,599	1,217
MRI	3,856	321
ポータブル	3,364	280
手術ポータブル	1,344	112
透視検査	1,066	89
骨密度	597	50
心臓カテーテル	239	20
RI	281	23
血管造影	153	13
検査総数	54,282	4,524

3 今後の課題と展望

放射線機器の進歩は目覚ましく、新病院開設時に導入した最新鋭の装置を駆使し日々診断精度向上のため全力で取り組んでいます。

救急検査や各診療科の要望に迅速に対応できるよう精進し、検査の一つ一つが患者それぞれにとって重要な検査だと認識し、地域の皆様に安全で質の高い検査を提供するよう努めていきたいと思います。

臨床検査科

1 基本情報

«スタッフ»

臨床検査技師:32名(パート2名)事務職員1名

«資格取得者数»

- ・細胞検査士(国際細胞検査士:2名) : 5名
- ・消化器領域超音波検査士 : 5名
- ・体表領域超音波検査士 : 1名
- ・循環器領域超音波検査士 : 1名
- ・認定血液検査技師 : 1名
- ・2級病理士(血液) : 1名
- ・緊急臨床検査士 : 1名
- ・日本糖尿病療養指導士 : 1名
- ・有機溶剤作業主任者 : 1名
- ・特定化学物質四アルキル鉛作業主任者 : 1名

2 実績

● 検体検査

血液・体腔液・尿が主な検体で肝機能・腎機能等やホルモン、腫瘍マーカー等を分析し診療に必要な検査情報を提供しています。2023年度は全自動糖分分析装置、自動グリコヘモグロビン分析装置、血中アンモニア測定器を更新しました。

● 病理・細胞診検査

血液・体腔液・尿が主な検体で肝機能・腎機能等やホルモン、腫瘍マーカー等を分析し診療に必要な検査情報を提供しています。

● 微生物検査

質量分析装置を用いた微生物のより精度の高い同定検査が可能となりました。迅速に菌名が判明する事により、過去の原因菌に対する抗菌薬感受性率を「アンチバイオグラム」を活用してもらい、平均在院日数の短縮に貢献できる様取り組んでいます。

2023年度は新型コロナウイルス検出検査が減少しましたが、一定数の検査は持続的に実施しています。

新型コロナウイルス検出検査

検査法	抗原定性	抗原定量	IDNOW	LAMP	RT-PCR
合計	45	1,390	9,650	4,537	1,367

● 生理検査

臓器別の超音波検査士を中心に、教育・指導を行い技師間の精度の差をなくす事を努力目標に、質の高い検査を目指しています。2023年度は循環器領域の超音波検査士が1名増え、今後も超音波検査の習得技師を増やし検査予約枠をできる限り増やせるよう取り組み中です。

● 健診業務

人間ドックや事業所健診に加え、地域全部の学童検診、住民健診を実施しています。2023年度は新たに1台超音波診断装置を増設しました。

2023年度検査実績数

検査項目	合計件数	検査項目	合計件数
生化学検査	1,270,813	肺機能検査	4,132
血液・凝固検査	174,577	心・血管エコー	4,271
輸血検査	5,763	腹部・表在エコー	7,144
一般検査	77,493	脳波検査	98
微生物検査	27,319	神経伝導検査	99
病理・細胞診検査	6,309	眼底カメラ	4,616
安静心電図	28,248	睡眠時無呼吸検査	25
負荷・ホルター心電図	59	血圧脈波検査	214

«学会発表»

- ・第55回熊本県医学検査学会発表

微生物部門:

「炭酸ガス培養における溶血環の確認によって

分離し得た *Clostridium Perfringens* の一例」

血液部門:

「無顆粒球症の精査にてB-ALLと診断された一例」

・タスクシフト実技講習修了者

: 23名

3 今後の課題と展望

2023 年度はコロナウイルスの流行も落ち着き、学術活動にも参加する機会が増えました。認定資格の受験や学会発表などの積極的な取り組みができました。

また、検査数も増加しましたが外来採血業務を繁忙時間帯に検査技師が参入しました。次年度は午前中 2 名の技師を採血業務に担当させる予定で採血技術の向上に取り組んでいます。

臨床工学科

1 基本情報

《スタッフ》

臨床工学科は、2023年度に臨床工学技士4名が入職し、14名在籍しています。

医療機器管理室を拠点に、医療機器管理業務、血液浄化業務、循環器業務、手術室業務、内視鏡業務に従事しています。

2 活動実績

《医療機器管理業務》

院内医療機器 約800台を管理し、機器保守点検の他、使用中安全点検ラウンド、スタッフへの安全使用研修、RST活動などを行っています。

《手術室業務》

麻酔器をはじめ、電気メスや周辺機器の保守点検などを行っています。また2023年2月より始まったロボット支援下手術のロボットの保守管理、術前準備、術中の映像・記録管理や機器トラブルに対応し手術が円滑に行えるよう努めています。

点検実施件数	2021年度	2022年度	2023年度
医療機器点検	5,067件	6,527件	7,825件
OPE室機器点検		1,387件	2,946件

《内視鏡業務》

2023年11月より、内視鏡ファイバー点検、洗浄、セッティング、及び周辺機器の点検業務を開始しました。

《循環器業務》

各種造影検査や血管内治療では、清潔野にて医師の直接介助、植え込み型心臓電気デバイスの不整脈治療では、デバイスの定期チェックや検査・手術時に必要となる設定変更などを行っています。

循環器業務件数	2021年度	2022年度	2023年度
心血管カテーテル検査・治療	268件	217件	221件
CIEDs関連	372件	372件	348件

《血液浄化業務》

透析センターは、ベッド数29床から31床へ増床となり月水金2クール、火木土1クールにて外来維持透析、入院透析、各種アフェレーシスに対応しています。

患者監視装置の保守点検をはじめ、透析液の水質管理、エコーア下穿刺、透析効率の評価やPTA介助を行っています。

血液浄化業務実施件数	2021年度	2022年度	2023年度
血液浄化療法(HD/Online-HDF/HDF-I+HDF)	9,323件	10,329件	10,790件
血液吸着療法 PMX	1件	3件	0件
血球成分(顆粒球・単球)除去療法 GCAP	0件	0件	1件
復水濾過濃縮再静注法 CART	4件	3件	0件
経皮的血管形成術介助 PTA	44件	53件	49件
Covid-19出張透析・個室管理	26件	126件	88件

3 今後の課題と展望

私たち臨床工学技士は、医療機器がいつでも安心して使用できるよう安全性の確保と有効性を維持し、高い技術を提供するため日々研鑽に努めています。

業務範囲追加による業務拡大、タスクシフト、他職種編成チームへの参加等、変化に柔軟に対応し、様々な業務を行えるスタッフの育成を目指します。

リハビリテーション技術科

1 基本情報

《スタッフ》

理学療法士	: 29名(うち、非常勤1名)
作業療法士	: 12名
言語聴覚士	: 5名
視能訓練士	: 1名
歯科衛生士	: 4名
助手	: 1名

《資格取得者数》

・3学会合同呼吸療法認定士	: 1名
・認定理学療法士 運動器	: 1名
・熊本地域糖尿病療養指導士	: 1名
・がんのリハビリテーション	: 16名
・DMAT	: 1名
・SW-Test 受講修了者	: 1名
・ICLS	: 1名
・認定視能訓練士	: 1名
・有病者歯科認定歯科衛生士	: 1名
・口腔ケア4級	: 2名

《組織概要》

ニーズの増えている排痰などの呼吸介助や、嚥下評価などの摂食機能療法に対応するため、言語療法士を中心に増員を行いました。あわせて、九州看護福祉大学にご協力いただき、呼吸リハビリテーションの向上に取り組んでいます。

循環器では、熊本大学と連携し、地域の状況に対応するため、心筋梗塞や心不全でご入院された方の再発予防を目的とした心大血管疾患の外来リハビリテーションを開設しました。

歯科衛生士の増員も行ない、外来対応を充実するとともに、感染予防にも繋がる入院患者の口腔ケアにも携わっています。

その他、医師、臨床工学技士、薬剤師、栄養士などの他職種、あるいは人工関節などの取り扱い業者や製薬会社へリハビリテーション技術科職員に向けた講習を依頼し、より地域の特性にあった

加療に取り組める人材育成を行なっています。

2 実績

2023年度実績

	延べ実施患者数	平均単位数
脳血管疾患	146	3.67
運動器疾患	963	2.76
呼吸器疾患	380	1.88
心大血管疾患	253	2.72
廃用症候群	322	2.13
がん	191	1.90
摂食機能療法	4	-

退院後生活のご支援として、従来の訪問家屋調査に加え、脳梗塞等でご入院された方の運転再開に伴う基礎評価を開始しました。

診断の補助を目的とした麻痺や発達レベルなどの身体機能測定も担っています。

隣接する健康管理センターのバリウム誤嚥(胃透視検査時)に関しては、呼吸リハビリテーションの特性を活かした排出手技にて、より安全な実施を支援しています。

3 今後の課題と展望

2024年度中に予定するHCUの早期離床リハビリテーション基準取得、地域包括医療病棟の開設を視野に入れ、病院全体の在宅復帰率や在院日数短縮に繋がる取組みを充実します。あわせて、より他職種との連携を強め、患者さんのご希望にあった退院支援が行える病院作りを目指します。そのために、治療技術や病理学などの知識に加えて、倫理や生活機能分類評価等にも精通する職員育成を計画しています。

他、地域へ向けた講習会や、当院及び医師会の訪問看護と相互支援連携も検討しています。

栄養管理科

1 基本情報

栄養部門の位置付け:診療技術部

《スタッフ》

・病院側

管理栄養士	: 8 名
委託側(派遣含む)	
管理栄養士	: 3 名
栄養士	: 4 名
調理師	: 13 名
調理員・洗浄(パート含む)	: 20 名
計:41 名(2024.3 月現在)	

2 実績

●給食管理業務全般は全面委託を行い、献立作成は病院管理栄養士が作成しています。年2回の嗜好調査を実施し、患者さんのご意見を反映した献立の作成に努め、食材の納入は地産地消を考慮し、食材を選定しています。調理済食品の使用は行わず、食素材から手作りで心のこもった料理を提供できるよう、委託側と協力して安全な食事提供に努めています。また、月1回の弁当献立、季節の行事食、週3回の選択食を行い、食欲不振の方へ個別対応食を提供しています。入院中の患者さんに楽しみにしてもらえる食事の提供を心がけています。

行事食	2023 年度
春(3~5 月)	開院記念、ひなまつり、こどもの日
夏(6~8 月)	七夕、土用丑の日、お盆
秋(9~11 月)	敬老の日、秋分の日、ハロウィン、文化の日
冬(12~2 月)	クリスマス、年越し、元旦、七草、成人の日、節分、建国記念、バレンタイン

●下処理や調理は当日に行い、室温や冷蔵・冷凍庫は温度管理システムを導入し、食材保管や調理加工時の衛生管理環境を整備し、異常の早期発見に努めています。

●入院後全患者の栄養状態、食事摂取状況を把握し、病棟と連携し食事内容の調整・栄養管理計画の立案を行っています。定期的に病棟カンファレンスやベッドサイド訪問を実施し、患者さんの状態に合わせて食事調整を行い、病状の変化に伴う治療食変更の提案も積極的に行ってています。

●栄養食事指導は、退院後の患者さんの状態に合わせて、糖尿病や心不全などの病態を中心に腎疾患、消化器、小児食物アレルギーなどの栄養指導を医師の指示のもと実施しています。食事準備に関わるご家族に同席していただき、食材の選択や調理方法、調理形態の説明を行っています。

栄養食事指導(件)	2022 年度	2023 年度
入院・個別栄養食事指導	317	239
外来・個別栄養食事指導	90	64
集団栄養食事指導	23	27
糖尿病透析予防指導	6	12

●NST の活動では多職種で介入し、歯科連携の下、口腔嚥下機能評価(簡易テスト, VE,VF)を行い、食事内容の調整及び安全な食形態の検討を行っています。

	2022 年度	2023 年度
NST介入数(件)	202	172

●その他、院内勉強会や院外向け勉強会を実施しています。(糖尿病、嚥下食、緩和、クリニックルパス大会等)

【行事食】 ひな祭り



クリスマス



【嚥下調整食 5: 学会分類コード 4 きざみあんかけ】



【弁当献立】



= 嚥下調整食 一例 =

【嚥下調整食 3: 学会分類コード 2-2 相当 とろみ】



【嚥下調整食 4: 学会分類コード 3 相当 ソフト】



3 今後の課題と展望

●入院患者さんの栄養状態の維持・改善

入院中は病状や食欲の低下などにより体重減少、低栄養リスクを抱える方が多くおられます。入院時に全患者の栄養状態を把握し、低栄養のリスクのある方や嚥下状態に問題のある方に対し、早期に管理栄養士が介入することにより、病状の回復に向けて、体重の低下防止やADLの低下防止、安全な栄養摂取ができるよう、多職種と協力しながら栄養管理を行っていきたいと思います。

●入院中の食事の満足度向上

入院中の患者さんが食事をおいしく召し上がっていただくことは、栄養状態の安定、楽しみや満足感につながり、治療を支える上で重要な役割を担っています。病院管理栄養士が献立作成に携わり、患者さんの食事に対する要望や献立の工夫を行いながら、今後も喫食率の向上を目指していきます。また、委託側と協力し、食材料の廃棄、残菜を減らすよう取り組んでまいります。

●適切な栄養食事指導の実施

退院後の療養生活において、それぞれの生活状況に合わせた栄養食事指導を行い、不安無く生活ができるよう支援を行っています。より具体的で理解しやすい情報提供の方法や栄養指導の媒体、資料の工夫を検討していきます。退院先でも安全に栄養補給ができ、栄養状態の維持ができるよう、関係機関との連携や情報共有を行っていきたいと思います。

医療安全管理部

1 基本情報

《医療安全とは》

医療安全とは、医療事故や医療過誤のような医療トラブルを未然に防止し、安心安全な医療サービスを提供できる状態を作る取り組みを指します。安心・安全で質の高い医療を提供することが病院の使命であるため、医療安全には全職員で取り組む必要があります。

《医療安全管理体制について》

地方独立行政法人くまもと県北病院は、組織的な医療事故防止活動を積極的に実施しています。また、医療安全管理体制の見直しを行いながら患者さんに安心して質の高い医療を受けていただけるよう取り組んでいます。

《医療安全危機管理活動》

- (1)ヒヤリハット・医療事故報告に対する対応
- (2)定期的な職場の巡回、点検、マニュアル厳守状況の確認
- (3)医療事故防止策の評価し、医療事故防止マニュアルの改定や提言を行う
- (4)医療事故・医療事故防止に関する情報を職員へ提供
- (5)医療安全のための教育研修の企画・運営
- (6)医療安全管理委員会(1回/月)の運営
- (7)医療安全対策カンファレンス(1回/週)の運営
- (8)医療安全に係る患者相談業務の実施

2 実績

2023年度医療安全研修実施内容

- ① 医療安全研修会(前期)2023年7/25～8/18
対象:全職員
形式:対面研修または動画視聴
受講率:100%

- ② 医療安全研修会(後期)2024年1/25～3/4

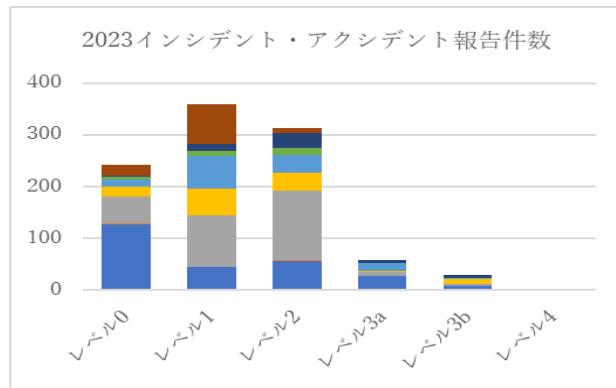
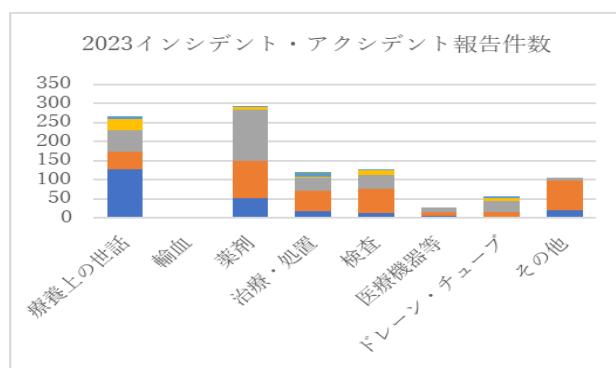
対象:全職員

形式:対面研修または動画視聴

受講率:100%

3 今後の課題と展望

医療安全の透明性を確保するには、インシデント・アクシデント報告件数は、病床数の5倍、そのうち1割は医師からの報告が占めが必要とされています。これに当てはめると、当院では、総数2,000件うち200件は医師からの報告が必要になります。2023年6月からヒヤリハット報告の収集を開始したところ、989件の報告があり、インシデント・アクシデント報告1,002件と合わせて1,991件の報告数となりました。総数は概ね目標を達成しましたが、医師報告数は47件にとどまり、いまだ十分な件数がありません。全職員へ報告を呼びかけるとともに、特に医師にはその重要性を認識してもらえるような、積極的な活動を展開していきます。



感染対策室

1 基本情報

《感染対策室とは》

感染対策チーム(ICT: インフェクションコントロールチーム)は院内で起こる様々な感染症から患者さんや職員、病院内に関わる全ての人の安全を守るために活動を行う組織です。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など様々な職種が集まり、横断的に病院全体の感染対策活動に従事しています。

当院は感染対策向上加算 1、指導強化加算を取得しており、地域での感染対策にも積極的に取り組んでいます。

2 実績

- 院内感染症のサーベイランスと評価
- 院内ラウンド(感染症患者や環境パトロール)
- 抗菌薬適正使用の啓発
 - ・抗菌薬使用状況の把握
 - ・抗菌薬届出制の徹底
- アウトブレイクへの対処
- 針刺し事象などの職業感染予防
- 感染対策マニュアルの整備
- 病院職員への感染管理教育
 - ・院内研修会の開催
 - ・院外地域医療施設職員参加型の研修会開催
(奇数月 第1木曜日 18:00~19:00)
- 広報活動
 - ・感染対策ニュース発行(毎月)
 - ・ホームページ など
- 地域活動
 - ・近隣の施設や特別介護老人ホーム等、保健所と連携を取りながら地域の感染対策向上を図る。

《抗菌薬適正使用支援チーム》

(AST: Antimicrobial Stewardship Team)の主な活動

抗菌薬適正治療の推進と耐性菌を作らせない事を目的とするチームで医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師・事務で構成されております。

《抗菌薬適正使用支援チームの活動内容》

- ・週1回の定期的なカンファレンスを行い、特定抗菌薬使用についての評価を行う。
- ・抗菌薬使用量の把握と定期的な発信。
- ・抗菌薬治療のコンサルテーション。
- ・職員へ抗菌治療に関する知識の啓発活動。
- ・抗菌薬使用マニュアルの作成。

2023年度感染対策研修実施内容

	年月日	テーマ
地域院と内の感染対策勉強会	2023年7月6日	「結核疑い発生！病棟での対応」 ・「新型コロナにおける診療支援課の取り組み」
	2023年9月7日	・「BCRってな～に？」 ～誰でも分かるバイオクリーンルーム～
		・「口腔ケアについて(誤嚥性肺炎予防)」
	2023年11月2日	・「抗菌薬供給不足における当院ASTの取り組み」
	2024年3月7日	・小児の感染症 ・SSI(手術部位感染)について
	2023年8月10日～31日	新型コロナウイルス感染症対策講座 ・「COVID-19のこれまでとこれから ～喉元を過ぎても熱さを忘れないために～」
		・COVID-19の診断・治療・感染管理の流れ ～Wuhan株からXBB株への変遷、 かわるものかわからないもの～
	2023年12月15～28日	・HIVの基礎と熊本の現状 ・コロナ禍の後に流行している感染症
	2023年11月2日	・「抗菌薬供給不足における当院ASTの取り組み」
	2024年3月14日～29日	・「血液培養のベストプラクティス」
用薬支援研修会	2023年4月3日	・感染対策について
	2023年10月2日	・感染対策について (感染対策の基本と当院のルールについて)
	2023年4月5日6日	・感染対策の基本的な知識、技術について等 ・感染経路別予防策の理解と 個人防護具の安全な着脱等 (演習あり)別紙参照
	2023年6月6日	・研修医が知っておくべき 感染対策の基本と当院のルール
	2023年7月6日	・針刺し切創・血液体液曝露事象
	2023年7月27日	・2023年認定看護師勉強会 「その手袋は必要ですか？PPEを適切に使用する」
	2023年9月7日	・感染性胃腸炎と吐物処理
	2023年10月12、19、20日	・感染対策について

初期臨床研修医報告

1. 2023 年度 計 13 名の初期臨床研修医(当院基幹型 1 年次研修医 4 名、2 年次研修医 8 名、熊本医療センタープライマリコース研修医 1 名)を受け入れました。

2. 毎週火曜日モーニングレクチャーの開催 計 57 回開催(年間)

院内の各診療科医師、認定看護師、その他メディカルスタッフに加え、玉名都市医師会の先生方も持ち回りで初期研修医を対象に講義を行っています。当院は 32 の診療科を有しております、全ての診療科を 2 年間の初期研修でローテートすることは難しいですが、講義を通じ全ての診療科に関わっていただいています。モーニングレクチャーの講義は、診療科だけが担当するのではなく、様々な部署で受け持っています。それは研修医を「病院及び地域全体で教育する」という考えに立っています。

2023 年度研修医講義

毎週火曜日 朝 8:00~8:30 3 階第一会議室

	日程	診療科	担当者	講義内容
1	4月4日	オリエンテーション	田宮 Dr.	Tamana Morning Lecture Series
2	4月11日	オリエンテーション	坂下 Dr.	症例プレゼンテーションについて
3	4月18日	総合診療科	佐藤彰 Dr.	終末期の症候
4	4月25日	MSW(地域医療連携 課)	徳永 MSW	退院支援について
5	5月2日		大潮 Dr.	医師 5 年目を迎え、当院での初期研修を 経て今思うこと。
6	5月9日	在宅医療・病診連携	安成 Dr.	在宅医療・多職種連携 1
7	5月16日	在宅医療・病診連携	安成 Dr.	在宅医療・多職種連携 2 ワークショップ
8	5月18日	医療安全管理室	宮本 Ns	医療安全について
9	5月24日	認定看護師講座 (救急看護)	角 Ns 東海林 Ns	当院の救急システム
10	5月30日	認定看護師講座 (緩和ケア)	神田 Ns	緩和ケアとがん相談支援センター
11	6月6日	認定看護師講座 (感染管理)	上土井 Ns	研修医が知っておくべき感染対策の基本と 当院ルール
12	6月13日	放射線科	浪本 Dr.	CT による急性腹症診断
13	6月20日	麻酔科	上原 Dr.	CV & CVCI
14	6月22日	麻酔科	上原 Dr.	『君たちはどういきるか』・『嫁と姑 麻酔と がん』
15	6月27日	放射線科	浪本 Dr.	胸部 X 線写真の基本
16	7月4日	呼吸器内科	牛島 Dr.	結核の臨床～まだまだ少くない結核～
17	7月13日	呼吸器外科	大場 Dr	呼吸器外科の紹介と気胸診療
18	7月18日	呼吸器内科	津守 Dr.	人工呼吸器管理について
19	7月25日	呼吸器内科	池田 Dr.	呼吸器エマージェンシー
20	7月27日	腎臓内科	こう Dr.	全 3 回(血ガス・電解質異常、輸液につい て、腎不全・腎障害)

21	8月1日	糖尿病・内分泌科	松田 Dr.	内分泌疾患のエマージェンシー
22	8月3日	腎臓内科	こう Dr.	全3回(血ガス・電解質異常、輸液について、腎不全・腎障害)
23	8月8日	糖尿病・内分泌科	松田 Dr.	内分泌疾患のエマージェンシー
24	8月10日	認定看護師講座 (がん化学療法看護)	廣川 玲奈	
25	8月15日	循環器内科	松川 Dr.	救急外来対応+α～これだけは押さえろ～
26	8月17日	腎臓内科	こう Dr.	全3回(血ガス・電解質異常、輸液について、腎不全・腎障害)
27	8月22日	循環器内科	時津 Dr.	急性心不全に対する初期対応～クリニカルシナリオの考え方～
28	8月29日	病理診断科	坂下 Dr.	病理検査に関して気をつけていただきたいこと(組織診)
29	9月5日	病理診断科	坂下 Dr.	病理検査に関して気をつけていただきたいこと(細胞診)
30	9月12日	健康管理センター	佐藤 Dr.	健康管理センターの紹介
31	9月19日	健康管理センター	佐藤 Dr.	行動変容を目指した保健指導
32	9月26日	神経内科	山口 Dr.	救急病院でよく診る脳梗塞について総論
33	10月4日	消化器内科	松下 Dr.	急性腹症
34	10月11日	消化器内科	福林 Dr.	急性胆管炎、急性胆のう炎
35	10月18日	外科	石川 Dr.	がんのおはなし
36	10月25日	外科	赤星 Dr.	腹腔鏡下手術～胆のう炎を中心に～
37	11月1日	腫瘍内科	牛島 Dr.	肺癌と化学療法について
38	11月7日	腫瘍内科	牛島 Dr.	肺癌と化学療法について
39	11月14日	小児科	宮城 Dr.	君にもできる、かも!?～小児救急・CPA 対応～
40	11月21日	小児科	岡田 Dr.	小児のけいれんについて(熱性痙攣)
41	11月28日	リハビリテーション科	竹下 PT	リハビリテーションと理学療法、作業療法、言語療法
42	11月30日	認定看護師講座 (摂食・嚥下障害看護)	川野 Ns 浦野 Ns	接触・嚥下障害と当院の取組みについて
43	12月5日	整形外科	安岡 Dr.	たかが骨されど骨
44	12月12日	整形外科	安岡 Dr.	シーネ固定の実技練習
45	12月19日	皮膚科	大沼 Dr.	縫合について(別途手技練習も交えて)
46	12月26日	皮膚科	大潮 Dr.	蜂窩織炎と壊死性筋膜炎
47	1月9日	泌尿器科	山口 Dr.	ER 泌尿器科疾患
48	1月16日	泌尿器科	山口 Dr.	膀胱留置カテーテル手技練習
49	2月6日	耳鼻咽喉科	高野 Dr.	めまいの診かた
50	2月13日	耳鼻咽喉科	高野 Dr.	鼻出血の止血手技実習
51	2月15日	薬剤部	村本薬局長	医薬品副作用被害救済制度について
52	2月20日	認定看護師講座 (皮膚・排泄ケア)	日田 Ns	皮膚・排泄ケアについて

53	2月27日	歯科口腔外科	福間 Dr.	救急外来で多いと思われる歯科口腔外科疾患について
54	3月5日	歯科口腔外科	福間 Dr.	薬剤関連顎骨壊死について
55	3月12日	血液内科	今金 Dr.	リンパ節腫脹の診断を考える
56	3月19日	血液内科	村田 Dr.	貧血の鑑別
57	3月26日	認定看護師講座 (認知症看護)	篁 Ns	認知症の対応

3. 研修医プレゼンテーション

「人前で簡潔になるべくわかりやすく伝える」ことを目的に研修医プレゼンテーションの系統的教育を隔週金曜日に開催しています。

2023年度は計24回開催しました。

会場とZOOMオンライン配信のハイブリッドで開催しています。玉名都市医師会の先生方へも配信を行い、多数の医師会員の先生、医療従事者の皆さんに参加いただいています。

演者	演題	日時
くまもと県北病院 2年次研修医 石松 康英	気管支鏡検査で診断に至った肺結核の一例	2023年4月14日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 上野 慎吾	〇〇〇でよく熱を出す子	2023年4月28日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 川崎 陽平	高血糖で救急搬送された一例	2023年5月12日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 黒澤 凜	ビタミンB12欠乏により汎血球減少を来たした1例	2023年5月26日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 小山田 侑生	化学療法中に発熱性好中球減少症をきたした症例	2023年6月9日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 福永 有里	閉塞性動脈硬化症による足壊疽の一例	2023年6月23日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 光山 敏史	肉眼的血尿に対しTUC施行した一例	2023年7月7日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 鶴田 恵里	呼吸困難を主訴に来院し、HIV PCPの診断に至った症例	2023年7月21日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 1年次研修医 石坂 浩貴	ライターによるIII度熱傷の一例	2023年8月4日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 1年次研修医 水野 航佑	追加治療を必要とした川崎病の不応例	2023年9月15日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 1年次研修医 渡邊 光紗	めまい、胸苦しさ、嘔気で救急搬送された37歳女性の1例	2023年9月22日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 1年次研修医 釜 健志	外傷性皮下血腫に対し血腫除去術を施行した1例	2023年9月29日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 清水 優斗	直腸静脈瘤で紹介となった一例	2023年11月10日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 小山田 侑生	コーラ溶解療法が奏功した柿胃石による小腸閉塞の1例	2023年12月8日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 黒澤 凜	腹痛が紫斑に先行したIgA血管炎疑いの一例	2023年12月15日(金) AM8:00~8:30

くまもと県北病院 2年次研修医 清水 優斗	A型肝炎のため入院加療となった一例	2024年1月12日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 石松 康英	精巣破裂で緊急手術となった一例	2024年1月19日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 光山 敏史	指尖部切断に対し Graft on flap で加療した一例	2024年1月26日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 上野 慎吾	全身麻酔導入中のアナフィラキシーショック疑いでプリックテストを行った1例	2024年2月2日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 1年次研修医 石坂 浩貴	遷延する発熱と皮疹の経過中に刺し口の発見により日本紅斑熱の診断に至った一例	2024年2月16日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 1年次研修医 釜 健志	異食症を契機としたオムツ誤食の1例	2024年3月1日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 1年次研修医 水野 航佑	除草剤内服を救急外来で対処した症例	2024年3月15日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 1年次研修医 渡邊 光紗	抗菌薬セフェピムによる脳症の1例	2024年3月22日(金) AM8:00~8:30
くまもと県北病院 2年次研修医 福永 有里	リンパ腫脹型 ATL の一例～リンパ節腫脹の鑑別～	2024年3月29日(金) AM8:00~8:30

4. 臨床研修管理委員会の開催実績

臨床研修管理委員会 2024年3月15日(金)18時30分～19時00分

研修医が安心して滞りなく臨床研修を行うため、以下の項目などを行っています。

- 1.研修プログラムの作成
- 2.研修プログラムの周知徹底
- 3.研修プログラムにおける指導体制の整備、調整
- 4.到達目標の達成度についての評価

5. 病院見学

当院での臨床研修を検討している医学生に、実際当院での診療現場を体感してもらっています。併せて、プログラム責任者による研修プログラムの説明だけでなく、現役研修医との交流を通じて、職場環境面も含めた実際をお伝えしています。2023年度は計30名の医学生が来院しました。

6. 指導医引き継ぎ会開催の実績

研修ローテーションの区切りごとに個別に開催しています。教育部門の指導医や当該期間の指導医はもちろん、引継ぎ先の指導医も一堂に会してのフィードバック機会としています。

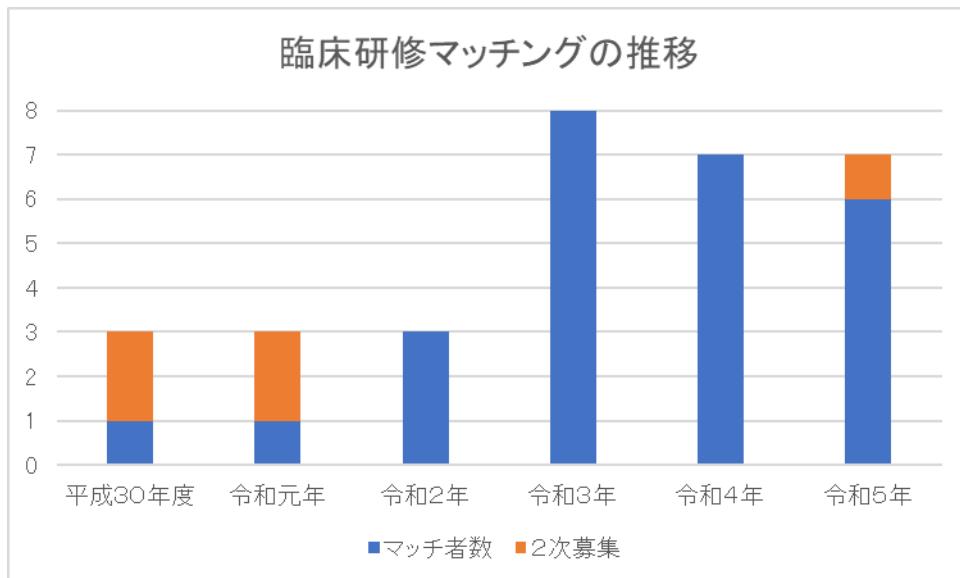
研修医は当該ローテーションでの「できたこと」、「できなかったこと」、「学びになったこと」、「自分自身の課題」、「感情面での動き」等を話し、指導医との対話、助言を得て今後の課題設定や次のローテーションに向けた目標設定を行っています。

臨床研修の到達目標に向けた評価だけに留まらず「悩みや不安を話す場」としても位置づけ、研修医が気軽に相談し、キャリアカウンセリングやメンタルサポートの上でも重要な機会と考えています。

7. 研修医採用試験

8月7日、8月28日の二日間に分けて開催。定員8名に対して計15名の応募がありました。

8. マッチング状況



市民公開講座

1 活動目的

この講座は、地域住民の方を対象に健康づくりを支援するため 2021 年 12 月より毎月第 2 土曜日に開催しています。会場の参加制限(上限 100 名)があるため、オンラインでの同時開催を行っています。

また、当院は 2023 年 12 月 3 日付で『熊本県指定がん診療連携拠点病院』に指定されましたので、年に 1 回は「がん」をテーマにした市民公開講座を必ず行うことになっております。

2 活動実績

	開催日	演者	演題
第 17 回	4 月 8 日	糖尿病内分泌科 部長 松田 浩史	ご存じですか? あなたの血糖
第 18 回	5 月 13 日	歯科口腔外科 部長 福間 大喜	口腔外科ってなに? 気をつけるべき 2 つの病気とは?
第 19 回	6 月 24 日	放射線科 部長 浪本 智弘	放射線科は何をしているの?
第 20 回	7 月 8 日	病理診断科 部長 坂下 直美	がんはなぜ悪性なのか?
第 21 回	8 月 5 日	リハビリテーション技術科 理学療法士 古庄 寛行	60 歳からの転倒予防 ～今からでも間に合う転ばぬ先の × × ×
第 22 回	9 月 30 日	病院長 田宮 貞宏	我が故郷、我が病院
第 22 回	9 月 30 日	麻酔科 上原 友輝	嫁と姑、麻酔とがん
第 23 回	11 月 4 日	皮膚・排泄ケア特定認定看護師 日田 さやか	自宅でできるスキンケア ～健康な皮膚を保つために～
第 24 回	12 月 16 日	3 階中央手術部	手術室見学ツアー ～来て、見て、触ってケンホクのオペ室～
第 25 回	1 月 13 日	薬剤部 薬局長 村本 慎悟	サプリメントと薬の正しい知識 ～正しい知識で健康長寿～
第 26 回	2 月 17 日	麻酔科 上原 友輝	小指の墓標
第 27 回	3 月 9 日	がん相談支援センター 緩和ケア認定看護師 神田 尚代 社会福祉士 永田 恵里香	もしもの時のための人生会議 ～あなたが大切にしているもの～

第17回 くまもと県北病院 市民公開講座

ご存じですか?
あなたの血糖

講演者
くまもと県北病院
副院長
糖尿病内分泌科
松田 浩史

令和5年4月8日(土)

くまもと県北病院

2階 たまきなホール 10:00～11:00 (9:30開場)

入場無料 事前申し込み不要 当日直接会場へお越しください。

Zoomによるオンライン同時開催



【ミーティングID】 754 923 1084
【パスコード】 735000

※先着100名を超えた場合、視聴できませんのでご了承頂きますようお願いいたします。
※新型コロナ感染症の状況次第では、ZOOMのみの開催となる場合があります。

[お問い合わせ先]
くまもと県北病院 総務課 電話: 0968-79-7323

感染予防のため、マスク着用や咳工チケット、アルコール消毒へのご協力をお願いします。

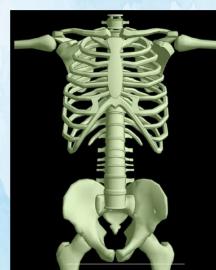
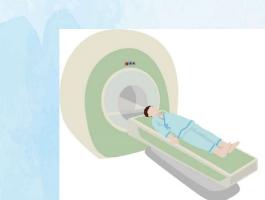
第19回 くまもと県北病院 市民公開講座

放射線科は何をしているの？

講師

くまもと県北病院

放射線科部長 なみもと 浪本 ともひろ 智弘



令和5年6月24日(土) 10:00～11:00 (9:30開場)

くまもと県北病院 2階 たまきなホール

入場無料 事前申し込み不要 当日直接会場へお越しください。

ZOOMによるオンライン同時開催



【ミーティングID】 754 923 1084
【パスコード】 735000

※先着100名を超えた場合、視聴できませんのでご了承頂きますようお願いいたします。
※新型コロナ感染症の状況次第では、ZOOMのみの開催となる場合があります。

[お問い合わせ先]
くまもと県北病院 総務課 電話: 0968-79-7323

感染予防のため、マスク着用や咳工チケット、アルコール消毒へのご協力をお願いします。

第18回 くまもと県北病院 市民公開講座

口腔外科ってなに? 気をつけるべき2つの病気とは?

日時

令和5年5月13日(土)
10:00～11:00 (9:30開場)

場所

くまもと県北病院
2階 たまきなホール

講演者

くまもと県北病院
歯科口腔外科部長

福間 大喜

ZOOM Zoomによるオンライン同時開催

[ID] 754 923 1084
[パスコード] 735000

※先着100名を超えた場合、視聴できませんのでご了承頂きますようお願いいたします。
※新型コロナ感染症の状況次第では、Zoomのみの開催となる場合があります。

入場無料 事前申し込み不要 [お問い合わせ先]くまもと県北病院 総務課 電話: 0968-73-5000

感染予防のため、マスク着用や咳工チケット、アルコール消毒へのご協力をお願いします。



第20回 くまもと県北病院 市民公開講座



くまもと県北病院
病理診断科部長

坂下 直実

令和5年7月8日(土)
10:00～11:00 (9:30開場)

くまもと県北病院
2階 たまきなホール

入場無料 事前申し込み不要

ZOOMによるオンライン同時開催

【ミーティングID】 754 923 1084
【パスコード】 735000

[お問い合わせ先]くまもと県北病院 総務課 電話: 0968-79-7323

※先着100名を超えた場合、視聴できませんのでご了承頂きますようお願いいたします。
※新型コロナ感染症の状況次第では、ZOOMのみの開催となる場合があります。

感染予防のため、マスク着用や咳工チケット、アルコール消毒へのご協力をお願いします。

 第21回くまもと県北病院市民公開講座

60歳からの転倒予防

～今からでも間に合う
転ばぬ先の××～

くまもと県北病院 リハビリテーション技術科
理学療法士 古庄 寛行

令和5年8月5日(土)
くまもと県北病院 2階 たまきなホール
10:00~11:00(9:20開場)

9時20分から50分までは、リハビリ室をご見学頂けます。
簡易転倒リスク検査も準備しておりますので、ご希望の方は職員までお声かけください。

入場無料 事前申し込み不要 当日直接会場へお越しください。

ZOOMによるオンライン同時開催
【ミーティングID】 754 923 1084
【パスコード】 735000

※先着100名を超えた場合、視聴できませんのでご了承頂きますようお願いいたします。
※新型コロナ感染症の状況次第では、ZOOMのみの開催となる場合があります。
【お問い合わせ先】
くまもと県北病院 総務課 電話：0968-79-7323

感染予防のため、マスク着用や咳エチケット、アルコール消毒へのご協力をお願いします。

第23回くまもと県北病院市民公開講座

自宅でできるスキンケア ～健康な皮膚を保つために～

くまもと県北病院
皮膚・排泄ケア特定認定看護師
日田 さやか




令和5年11月4日(土)
10時00分~11時00分(9時30分開場)
くまもと県北病院 2階たまきなホール
入場無料 事前申し込み不要 当日直接会場へお越しください。

ZOOMによるオンライン同時開催
【ミーティングID】 754 923 1084
【パスコード】 735000

※オンラインは最大100名まで入室可能。
※感染症流行の状況によっては、オンライン開催のみとなる場合あり。
【お問い合わせ先】
くまもと県北病院 総務課 電話：0968-79-7323

感染予防のため、マスク着用とアルコール消毒へのご協力をお願いします。

第24回くまもと県北病院市民公開講座

手術室見学ツアー アンコール開催決定！！

～来て、見て、触ってケンホクのオペ室～

令和5年12月16日(土)
10時00分~11時30分(開場 9時30分)
くまもと県北病院 3階中央手術部
入場無料 定員50名 事前申込み制
お申込みは下記までご連絡ください！
病院総務課 電話：0968-79-7323

感染予防のため、マスク着用とアルコール消毒へのご協力をお願いします。

第25回くまもと県北病院市民公開講座

#ペニメントと 薬の正しい知識 ～HAPPYに知識と健康長寿～

くまもと県北病院 薬剤部 薬局長
村本 慎悟

令和6年1月13日(土)
10:00~11:00
(9:30開場)
くまもと県北病院
2階 たまきなホール



入場無料 当日直接会場へお越しください

ZOOMによるオンライン同時開催
【ミーティングID】 754 923 1084
【パスコード】 735000

【お問い合わせ先】
くまもと県北病院 総務課 電話：0968-79-7323

※先着100名を超えた場合、視聴できませんのでご了承頂きますようお願いいたします。
※新型コロナ感染症の状況次第では、ZOOMのみの開催となる場合があります。

感染予防のため、マスク着用や咳エチケット、アルコール消毒へのご協力をお願いします。



第27回くまもと県北病院市民公開講座

もしもの時のための人生会議

～あなたが大切にしているもの～



もしもの時、
自分がどう在りたいか。
カードゲームを通じて、
そんな難しいお話を楽しく
語り合いましょう。

くまもと県北病院 がん相談支援センター
緩和ケア認定看護師 神田 尚代
社会福祉士 永田 恵里香
令和6年3月9日(土)

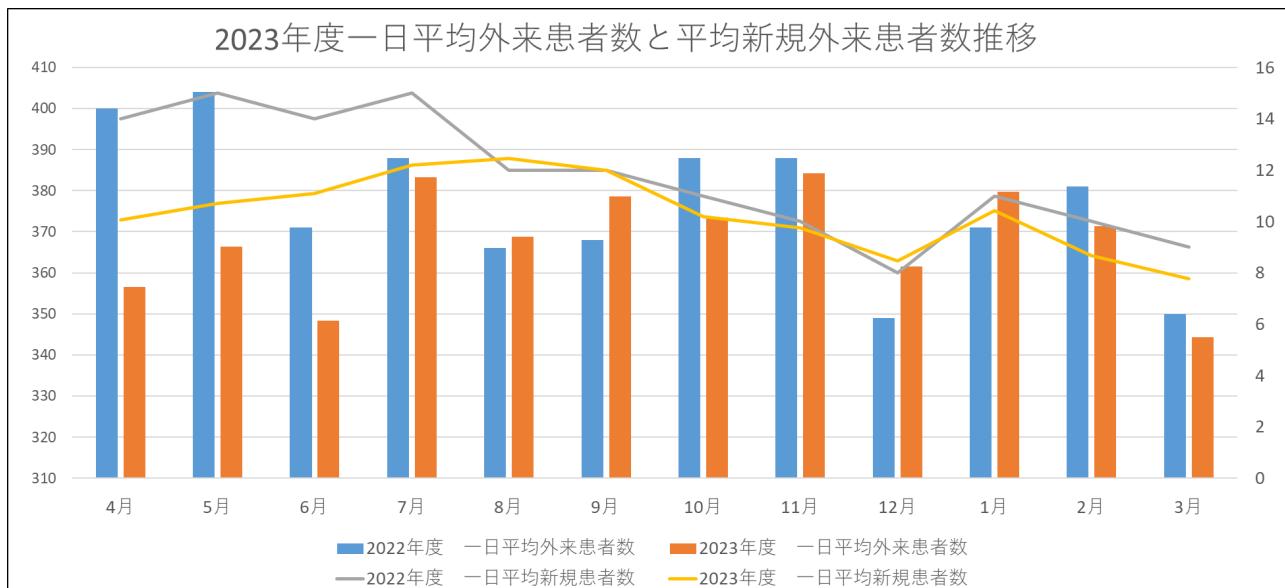
くまもと県北病院
2階 たまきなホール 10:00～11:00(9:30開場)
今回は会場のみ、Zoom開催はありません。入場無料

事前にお申し込みをお願い致します。
お申し込み先：くまもと県北病院 総務課
電話 0968-79-7323

【お問い合わせ先】
くまもと県北病院 総務課 電話：0968-79-7323

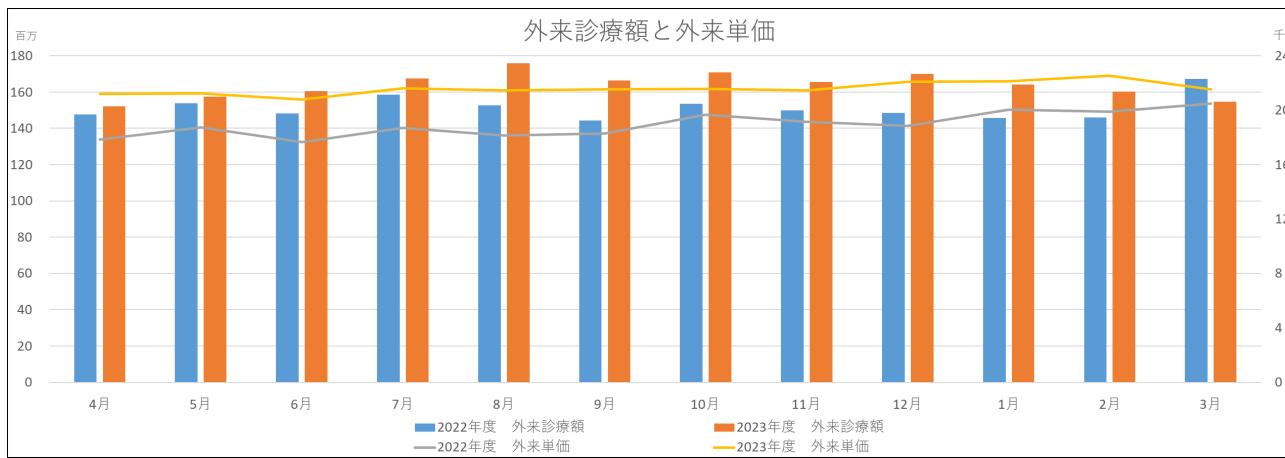
感染予防のため、マスク着用や咳エチケット、アルコール消毒へのご協力をお願いします。

【各種統計】



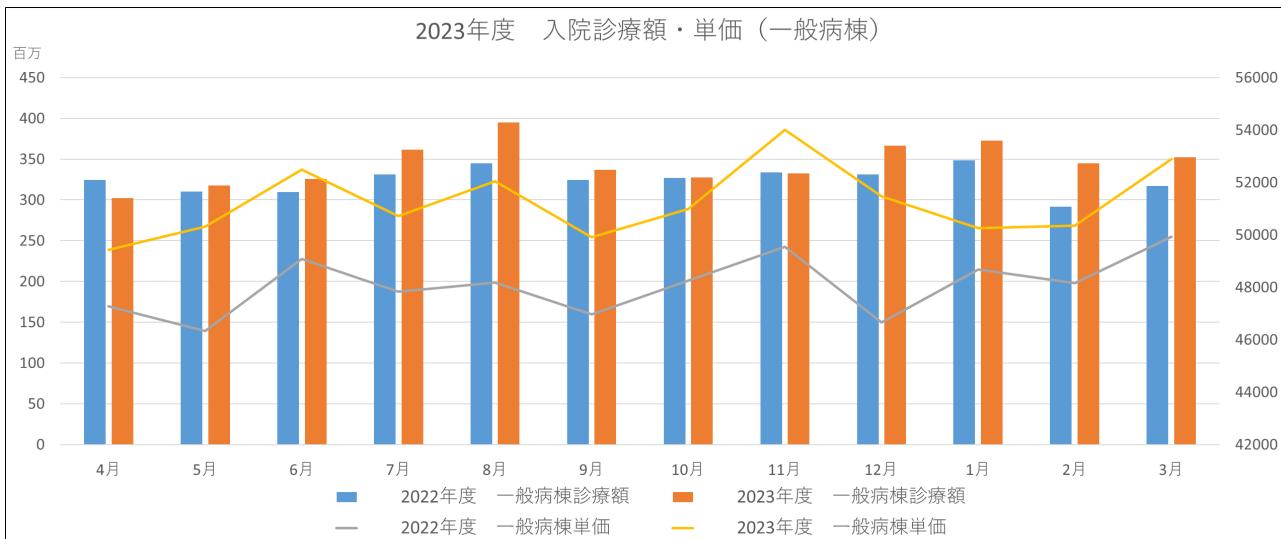
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 一日平均外来患者数	357	366	348	383	369	379	373	384	361	380	371	344	368
2022年度 一日平均外来患者数	400	404	371	388	366	368	388	388	349	371	381	350	377
2023年度 一日平均新規患者数	10	11	11	12	12	12	10	10	8	10	9	8	10
2022年度 一日平均新規患者数	14	15	14	15	12	12	11	10	8	11	10	9	12



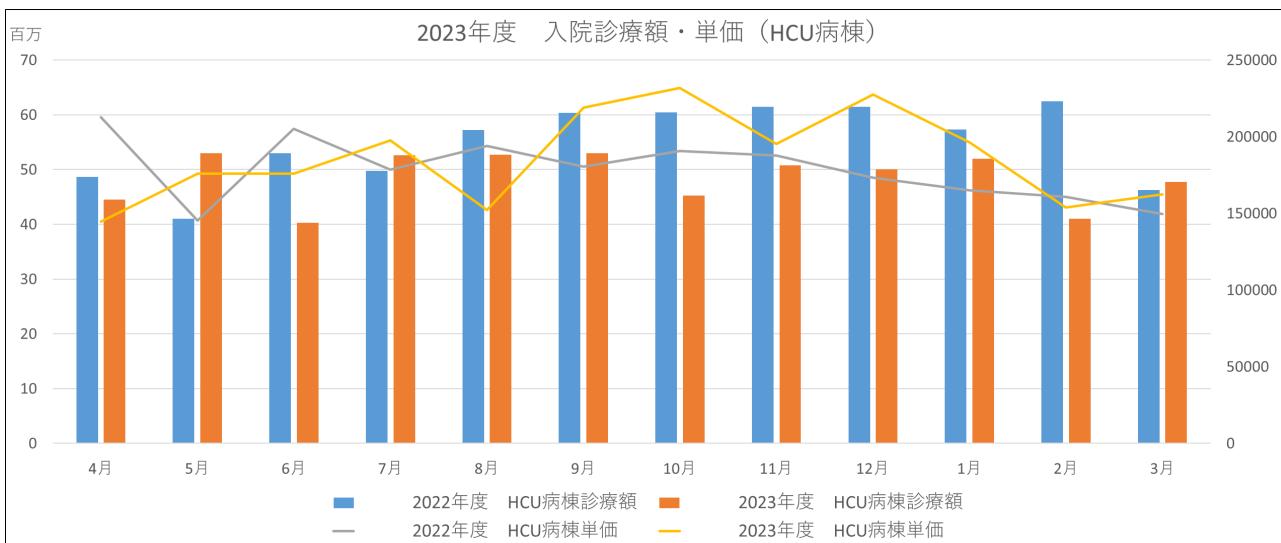
単位：円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 外来診療額	152,018,640	157,336,480	160,582,750	167,378,360	175,830,530	166,263,910	170,745,030	165,555,650	170,113,390	164,092,880	160,111,530	154,553,920	163,715,256
2022年度 外来診療額	147,812,280	153,848,740	148,360,940	158,571,440	152,833,570	144,272,840	153,532,890	149,910,470	148,561,650	145,593,380	145,932,250	167,105,000	151,361,288
2023年度 外来単価	21,202	21,224	20,793	21,606	21,451	21,551	21,553	21,451	22,090	22,139	22,557	21,523	21,595
2022年度 外来単価	17,832	18,735	17,662	18,686	18,151	18,290	19,664	19,168	18,839	20,057	19,879	20,479	18,954



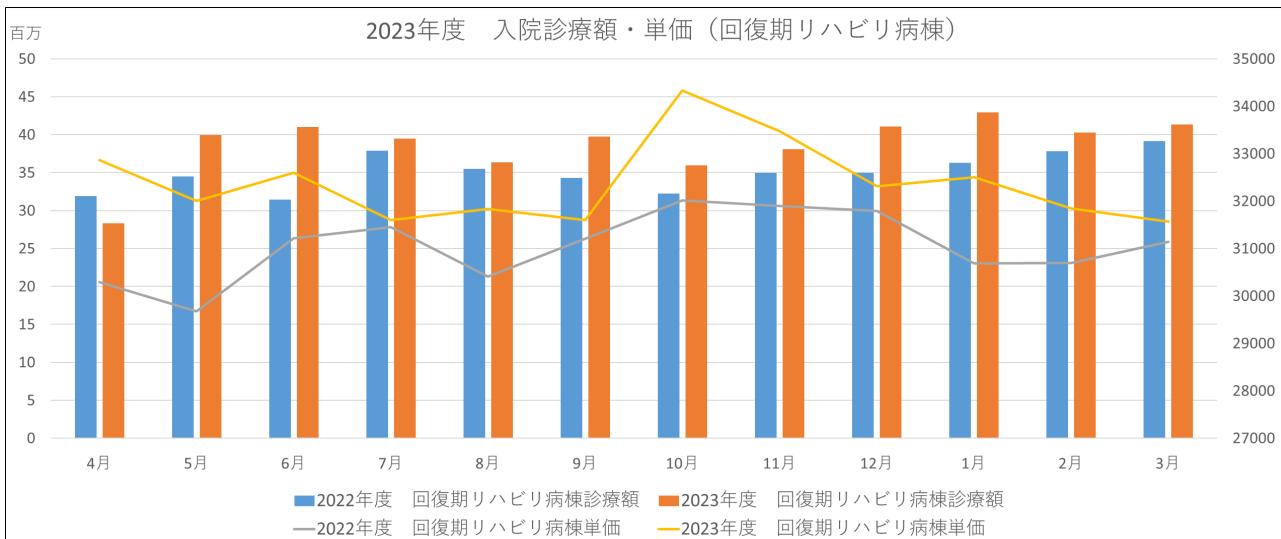
単位：円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 一般病棟診療額	302,312,805	317,369,896	325,922,864	361,207,998	394,833,533	336,995,427	327,347,444	332,226,825	366,242,664	372,923,901	344,932,319	352,206,199	344,543,490
2022年度 一般病棟診療額	324,668,115	309,900,746	309,630,064	331,317,966	345,020,112	324,256,439	326,865,280	333,676,290	331,338,529	348,794,800	291,452,160	317,233,743	324,512,854
2023年度 一般病棟単価	49,430	50,312	52,492	50,724	52,048	49,910	50,981	54,003	51,475	50,259	50,348	52,884	51,239
2022年度 一般病棟単価	47,279	46,330	49,085	47,837	48,174	46,973	48,260	49,536	46,654	48,674	48,158	49,927	48,074



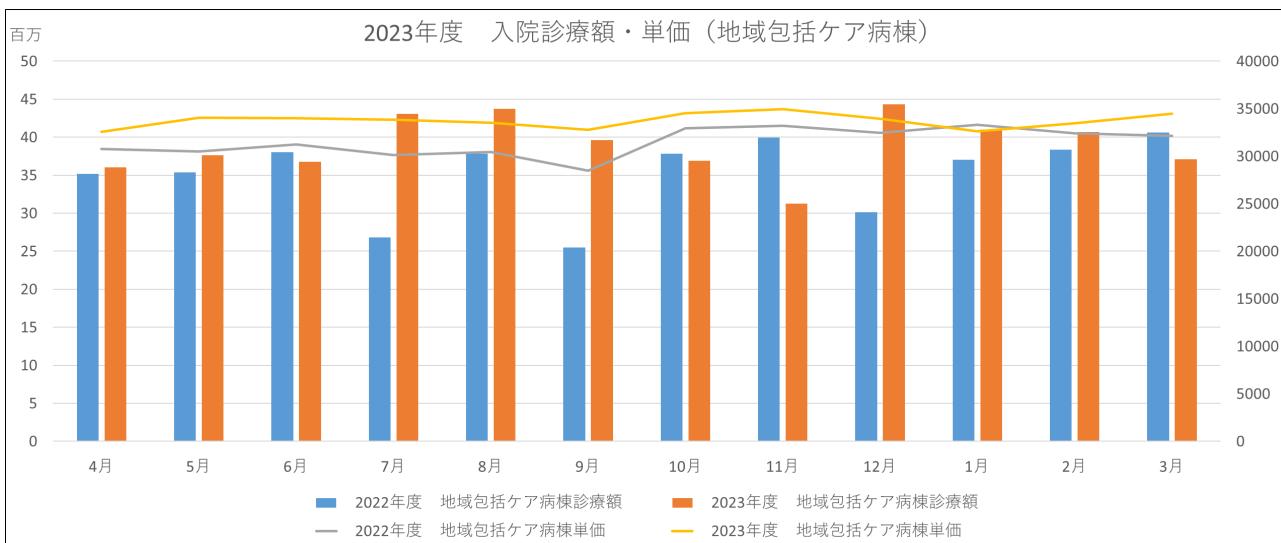
単位：円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 HCU病棟診療額	44,541,168	52,969,944	40,253,722	52,587,052	52,709,139	52,994,205	45,222,094	50,785,915	50,046,033	52,014,249	41,043,414	47,765,869	48,577,734
2022年度 HCU病棟診療額	48,694,673	41,009,441	52,959,324	49,772,856	57,236,025	60,316,508	60,472,653	61,418,357	57,311,141	62,443,965	46,281,993	54,944,608	
2023年度 HCU病棟単価	144,614	175,980	175,780	197,696	152,339	218,984	231,908	195,330	227,482	196,280	153,721	162,469	186,049
2022年度 HCU病棟単価	212,640	145,424	205,269	178,397	194,020	180,588	190,765	187,824	173,145	165,196	160,701	149,521	178,624



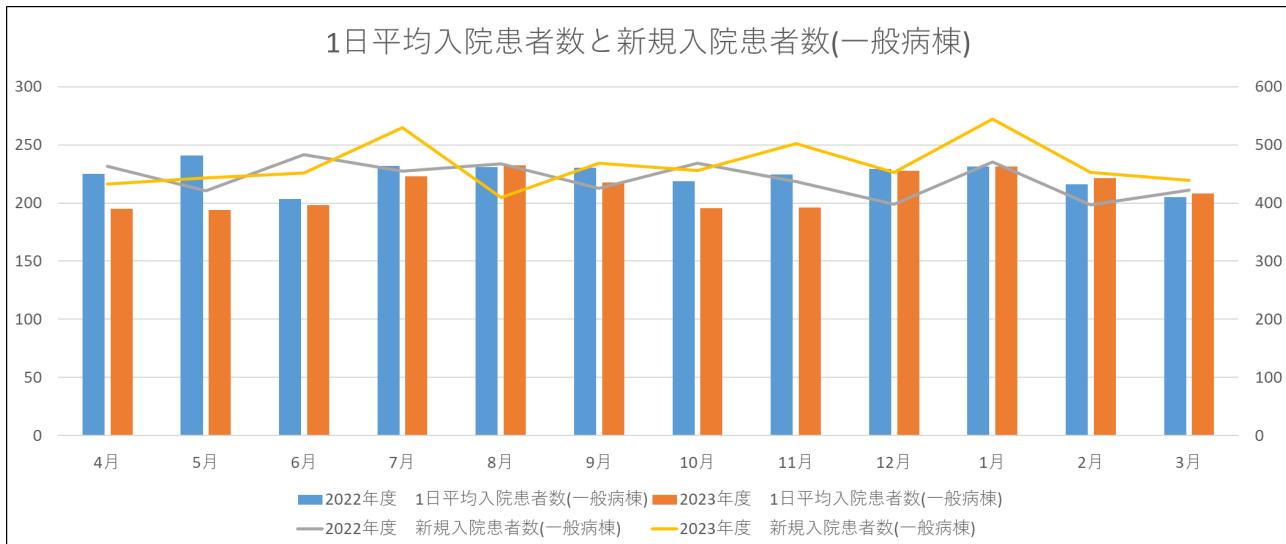
単位：円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 回復期リハビリ病棟診療額	28,333,110	39,969,924	40,976,416	39,463,336	36,350,386	39,722,031	35,983,644	38,056,946	41,074,104	42,941,614	40,253,506	41,360,296	38,707,109
2022年度 回復期リハビリ病棟診療額	31,872,802	34,507,044	31,470,696	37,860,786	35,517,118	34,327,966	32,211,042	34,930,568	34,970,690	36,269,154	37,817,798	39,176,524	35,077,682
2023年度 回復期リハビリ病棟単価	32,869	32,002	32,599	31,596	31,830	31,601	34,336	33,471	32,316	32,507	31,846	31,573	32,379
2022年度 回復期リハビリ病棟単価	30,297	29,671	31,221	31,446	30,408	31,207	32,019	31,900	31,792	30,685	30,696	31,142	31,040



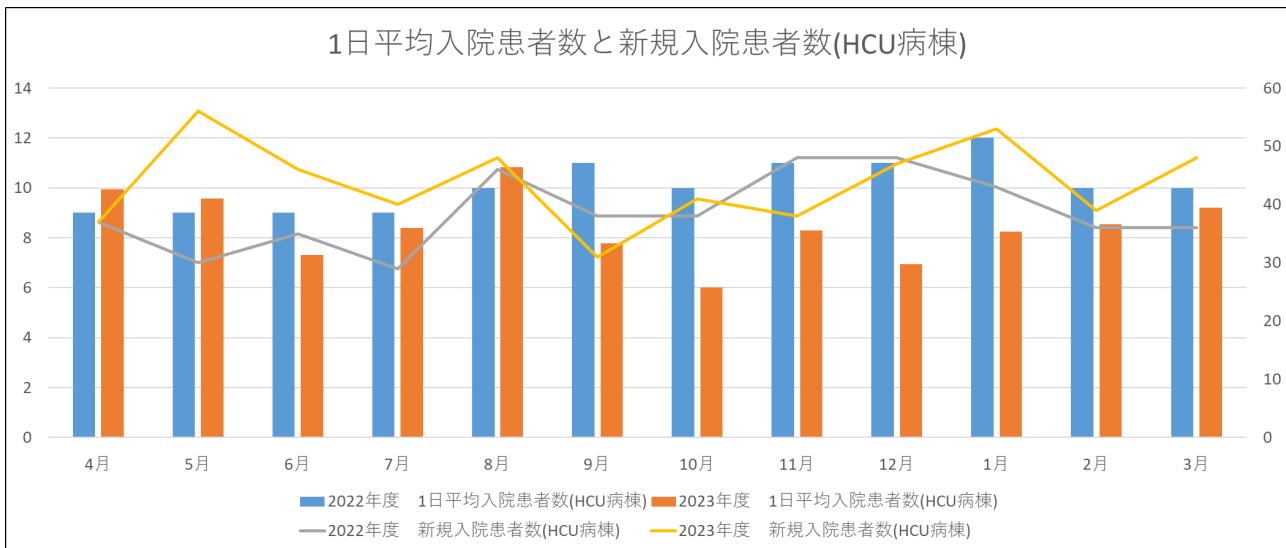
単位：円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 地域包括ケア病棟診療額	36,040,727	37,652,092	36,760,369	43,037,733	43,707,417	39,592,257	36,896,027	31,259,475	44,322,543	41,012,487	40,675,290	37,133,361	39,007,482
2022年度 地域包括ケア病棟診療額	35,206,612	35,344,829	38,041,514	26,802,947	37,849,920	25,511,823	37,853,490	39,930,982	30,142,206	37,024,418	38,386,918	40,624,517	35,226,681
2023年度 地域包括ケア病棟単価	32,557	34,043	34,006	33,835	33,518	32,775	34,515	34,966	33,938	32,601	33,478	34,479	33,726
2022年度 地域包括ケア病棟単価	30,775	30,496	31,233	30,116	30,475	28,505	32,945	33,220	32,481	33,325	32,421	32,140	31,511



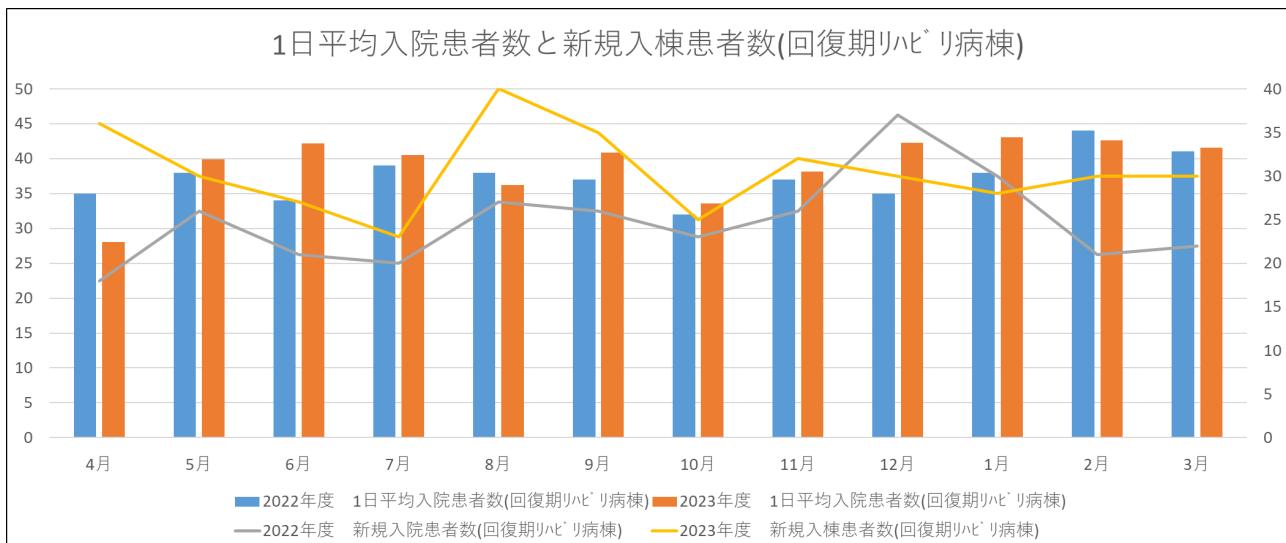
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 1日平均入院患者数(一般病棟)	195	194	198	223	233	218	196	196	228	232	221	208	212
2022年度 1日平均入院患者数(一般病棟)	225	241	204	232	231	230	218	225	229	231	216	205	224
2023年度 新規入院患者数(一般病棟)	433	443	452	530	409	468	456	502	453	544	453	439	465
2022年度 新規入院患者数(一般病棟)	463	421	483	455	467	425	469	437	398	471	397	422	442



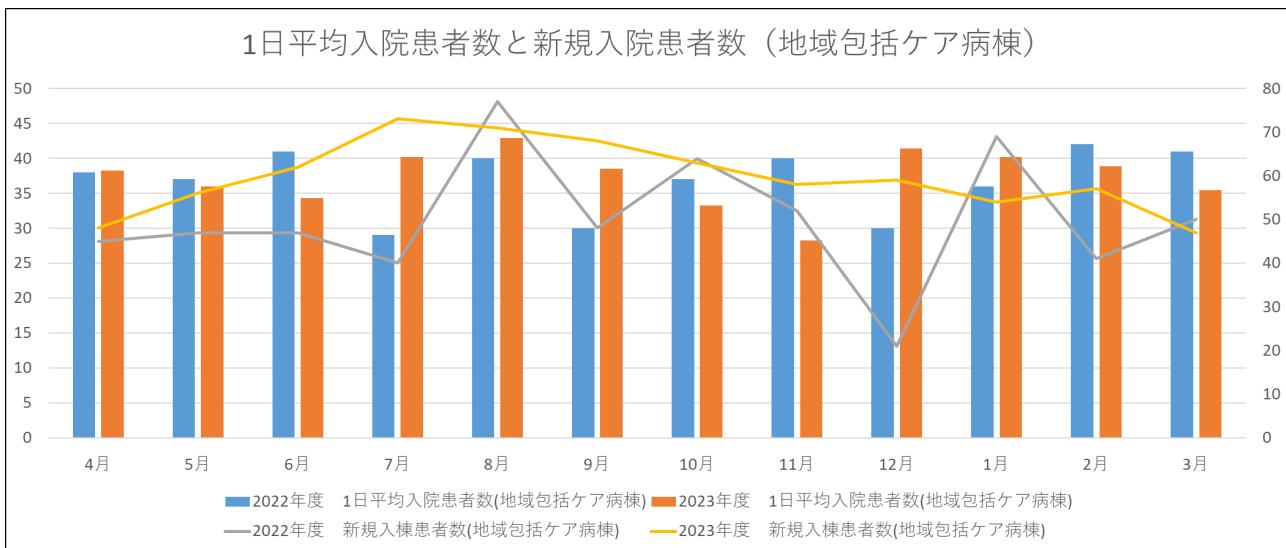
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 1日平均入院患者数(HCU病棟)	10	10	7	8	11	8	6	8	7	8	9	9	8
2022年度 1日平均入院患者数(HCU病棟)	9	9	9	9	10	11	10	11	11	12	10	10	10
2023年度 新規入院患者数(HCU病棟)	37	56	46	40	48	31	41	38	47	53	39	48	44
2022年度 新規入院患者数(HCU病棟)	37	30	35	29	46	38	38	48	48	43	36	36	39



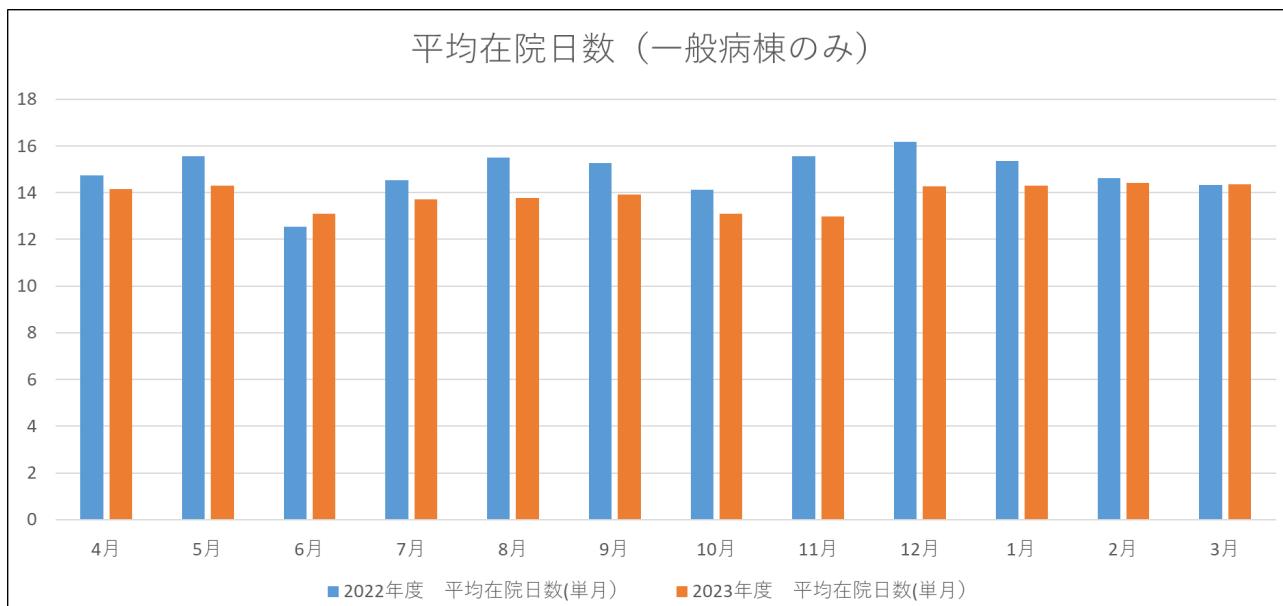
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 1日平均入院患者数(回復期リハビリ病棟)	28	40	42	41	36	41	34	38	42	43	43	42	39
2022年度 1日平均入院患者数(回復期リハビリ病棟)	35	38	34	39	38	37	32	37	35	38	44	41	37
2023年度 新規入棟患者数(回復期リハビリ病棟)	36	30	27	23	40	35	25	32	30	28	30	30	31
2022年度 新規入棟患者数(回復期リハビリ病棟)	18	26	21	20	27	26	23	26	37	30	21	22	25



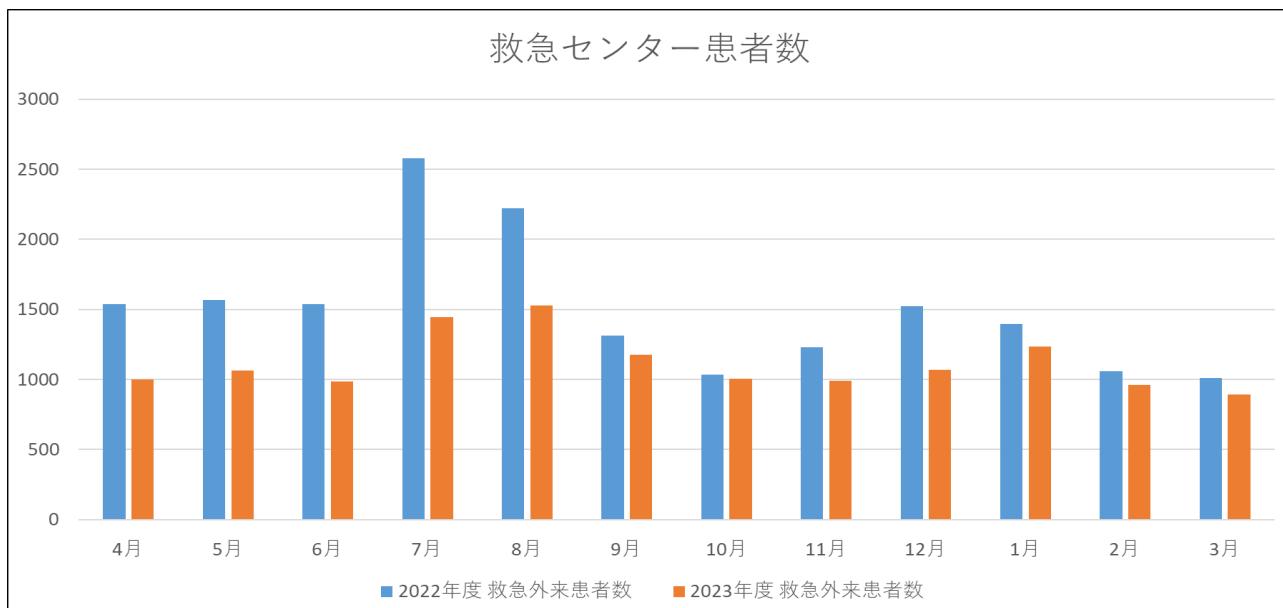
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 1日平均入院患者数(地域包括ケア病棟)	38	36	34	40	43	39	33	28	41	40	39	35	37
2022年度 1日平均入院患者数(地域包括ケア病棟)	38	37	41	29	40	30	37	40	30	36	42	41	37
2023年度 新規入棟患者数(地域包括ケア病棟)	48	56	62	73	71	68	63	58	59	54	57	47	60
2022年度 新規入棟患者数(地域包括ケア病棟)	45	47	47	40	77	48	64	52	21	69	41	50	50



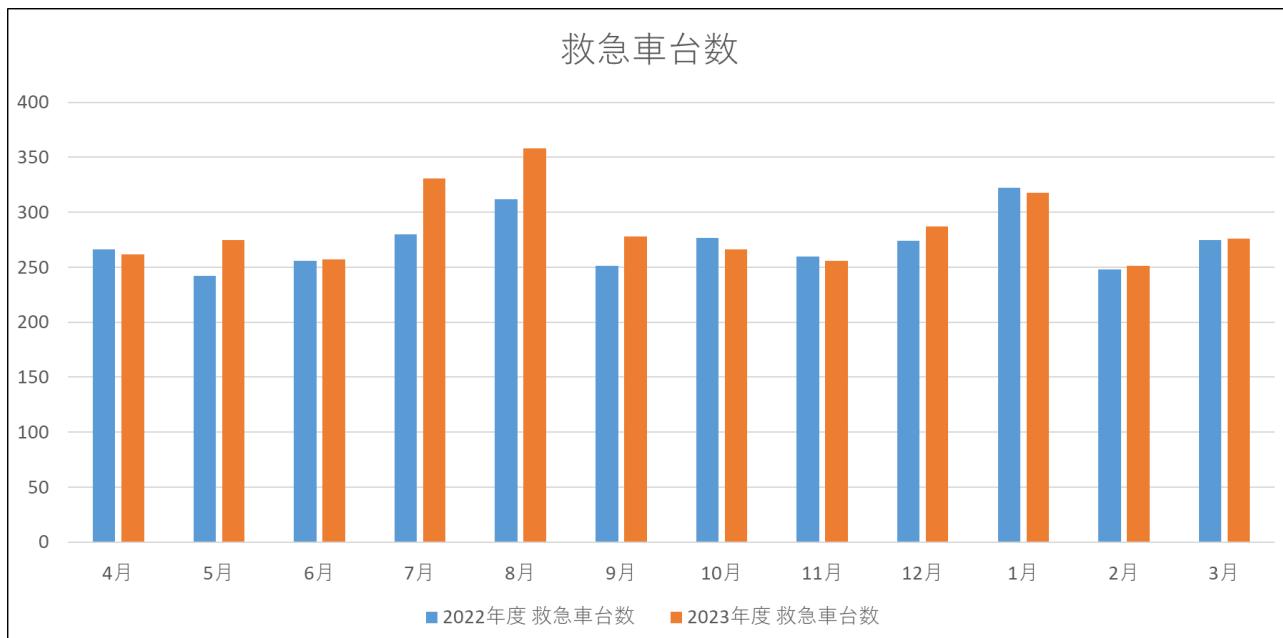
単位：日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度 平均在院日数(単月)	14.1	14.3	13.1	13.7	13.8	13.9	13.1	13.0	14.3	14.3	14.4	14.4	13.9
2022年度 平均在院日数(単月)	14.7	15.6	12.5	14.5	15.5	15.3	14.1	15.6	16.2	15.3	14.6	14.3	14.9



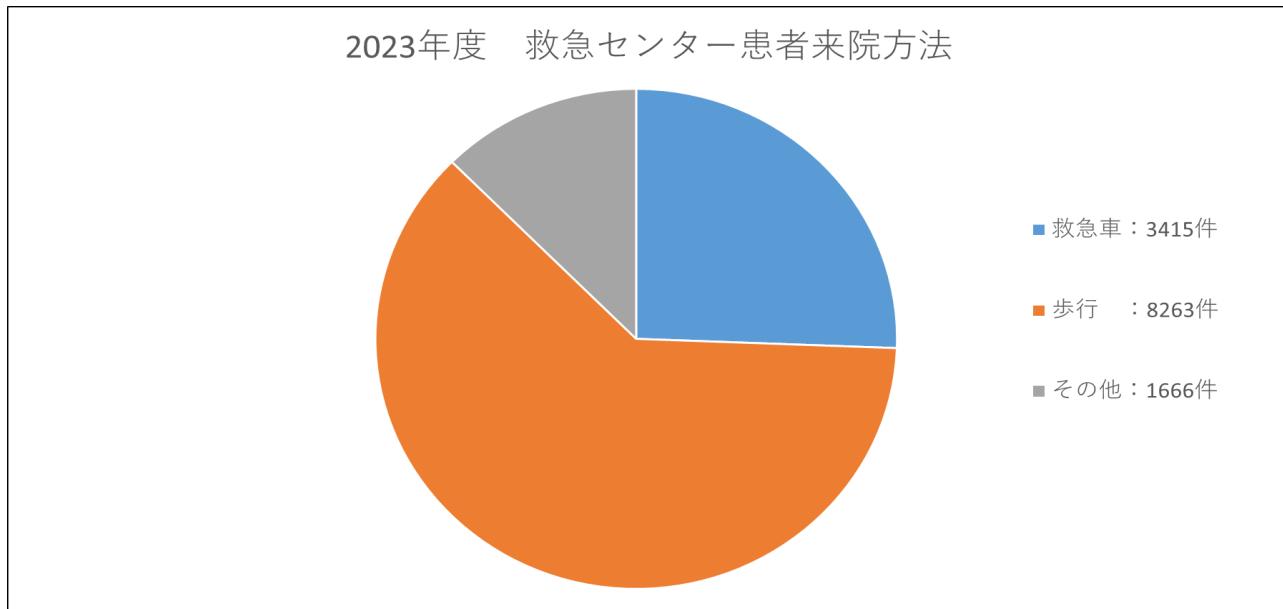
単位：人

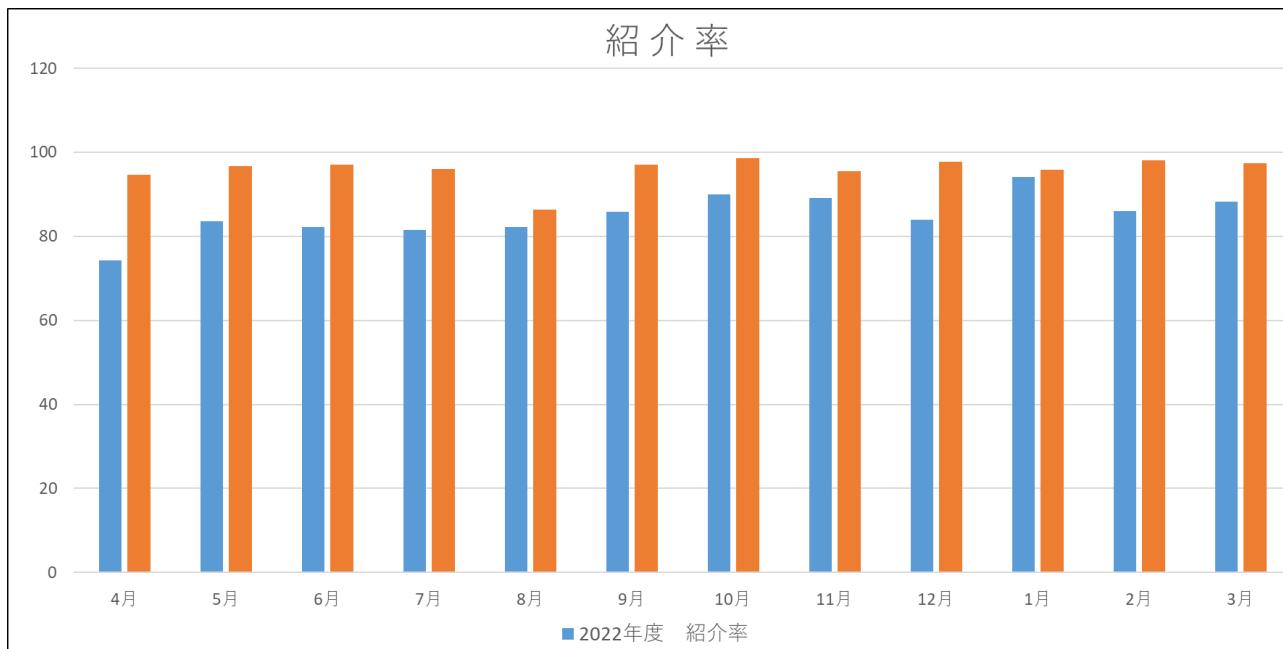
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年度 救急外来患者数	998	1,063	984	1,444	1,529	1,174	1,004	991	1,069	1,237	959	892	13,344
2022年度 救急外来患者数	1,539	1,566	1,537	2,577	2,221	1,315	1,033	1,230	1,525	1,397	1,060	1,008	18,008



単位：件

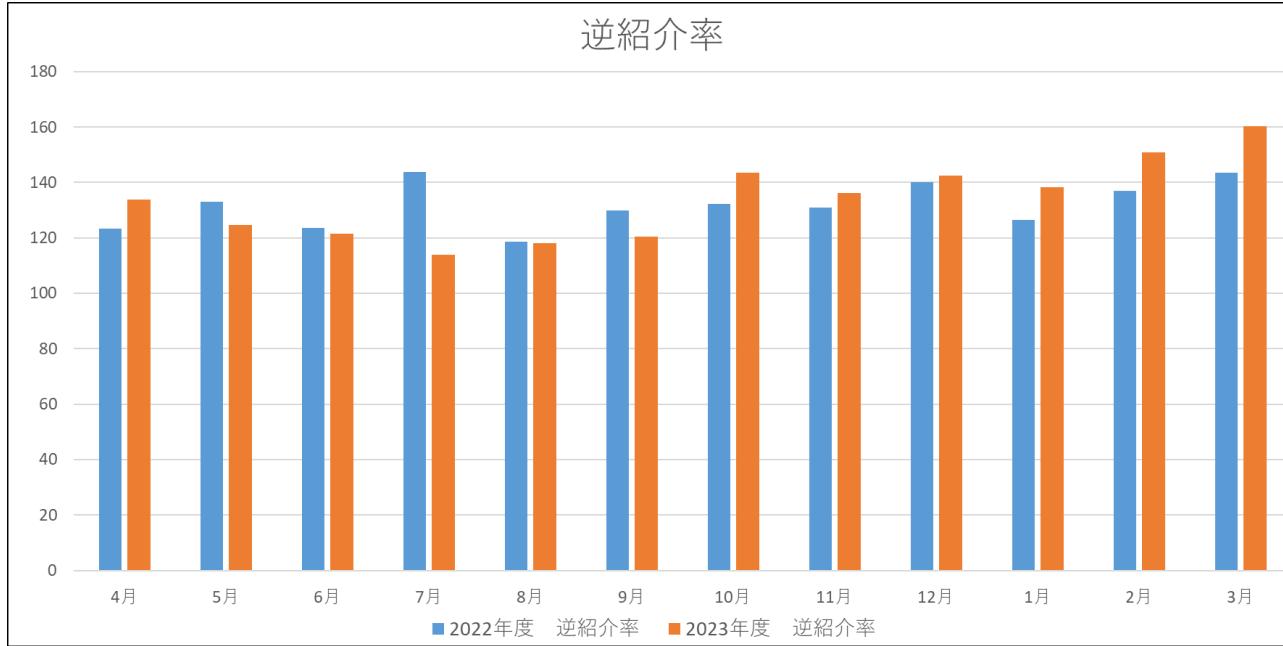
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年度 救急車台数	262	275	257	331	358	278	266	256	287	318	251	276	3,415
2022年度 救急車台数	266	242	256	280	312	251	277	260	274	322	248	275	3,263





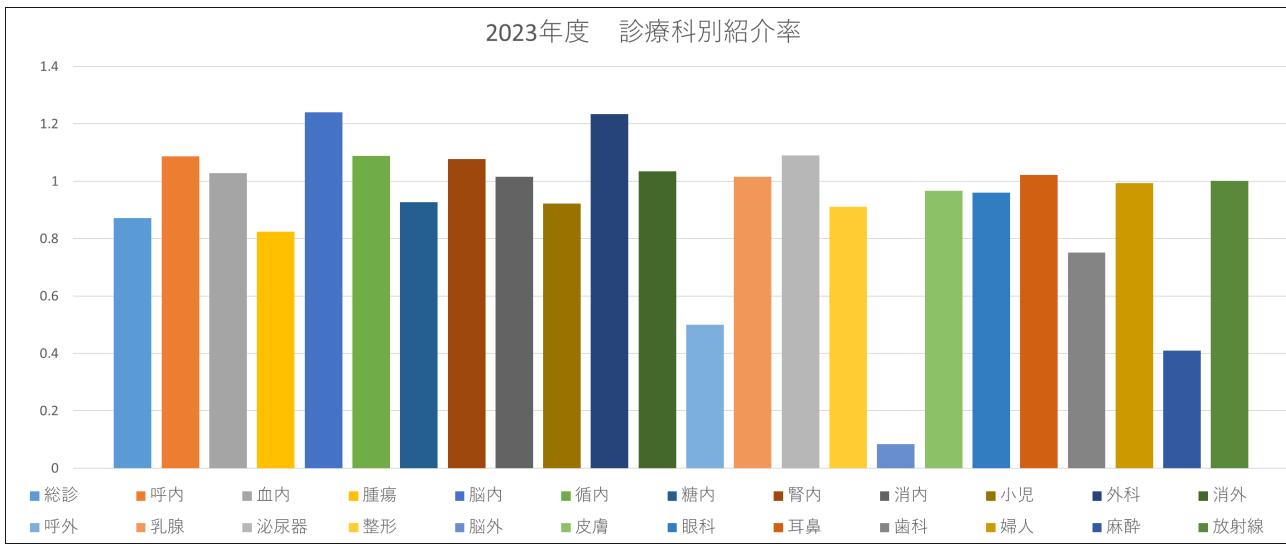
単位：%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度 紹介率	94.6	96.7	97	96	86.3	97	98.6	95.6	97.7	95.9	98.2	97.5
2022年度 紹介率	74.2	83.6	82.2	81.5	82.3	85.8	90	89.1	84	94.1	86.1	88.2



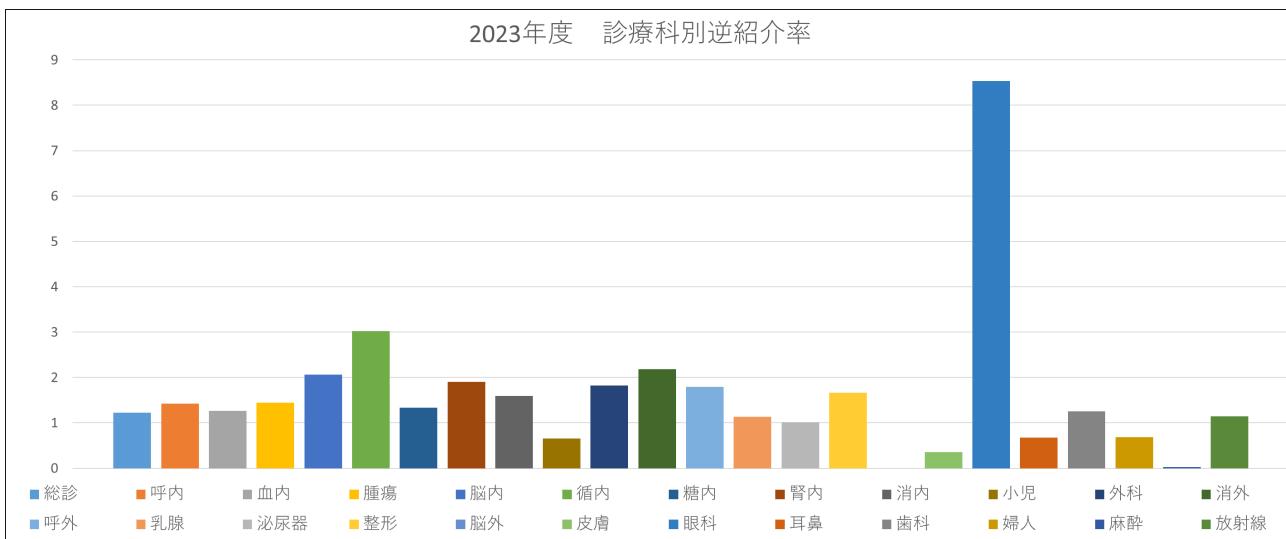
単位：%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度 逆紹介率	133.8	124.6	121.5	113.9	118.2	120.5	143.6	136.1	142.5	138.4	150.8	160.2
2022年度 逆紹介率	123.3	133	123.5	143.9	118.5	129.9	132.2	130.9	140	126.5	136.9	143.5



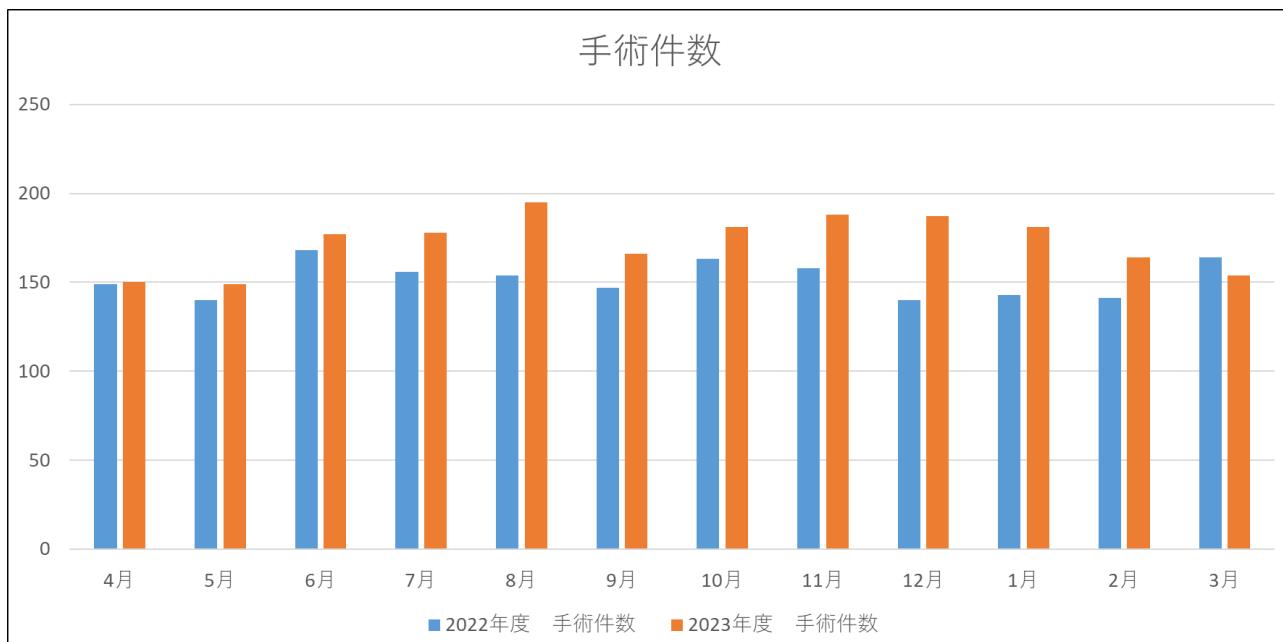
単位：%

	総診	呼内	血内	腫瘍	脳内	循内	糖内	腎内	消内	小兒	外科	乳腺	泌尿器	整形	脳外	皮膚	眼科	耳鼻	歯科	婦人	麻酔	放射線		
2023年度 診療科別紹介率	87%	109%	103%	82%	124%	109%	93%	108%	101%	92%	123%	103%	50%	109%	8%	91%	8%	97%	96%	102%	75%	99%	41%	100%



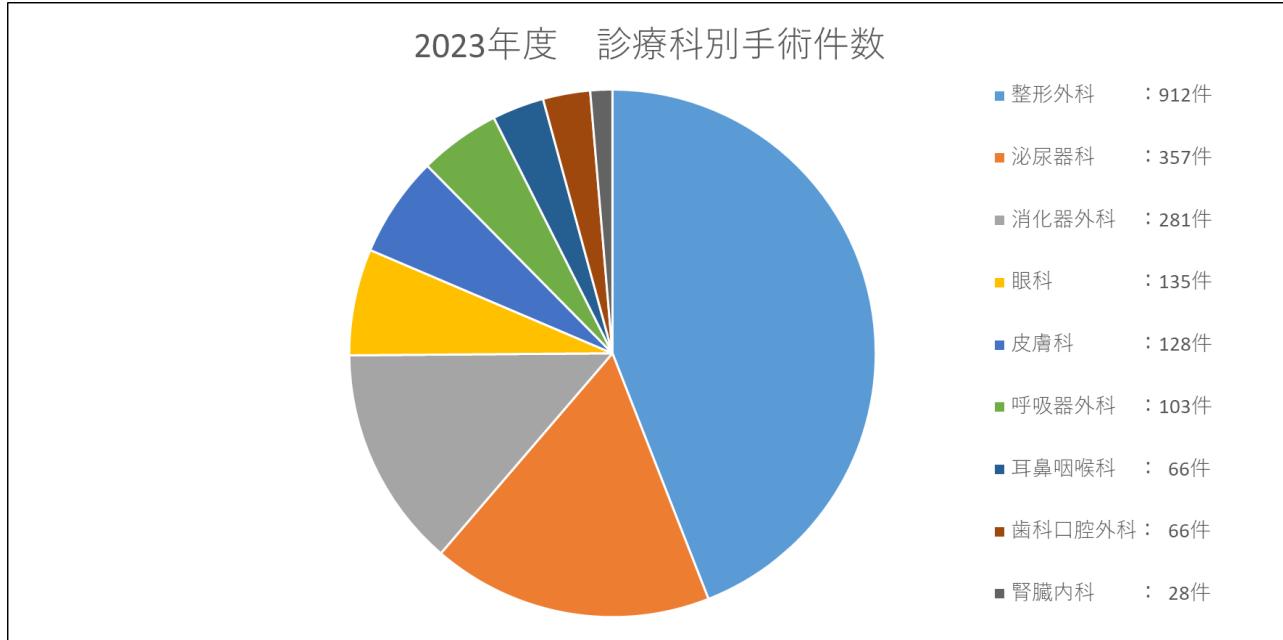
単位：%

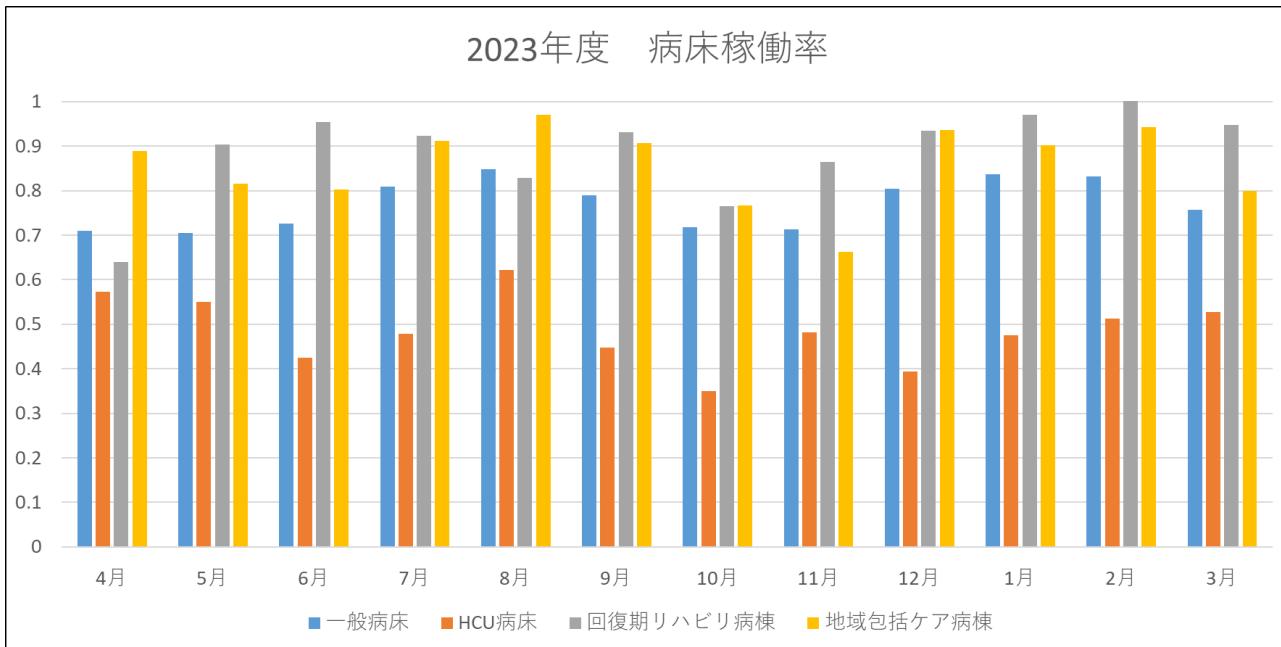
	総診	呼内	血内	腫瘍	脳内	循内	糖内	腎内	消内	小兒	外科	乳腺	泌尿器	整形	脳外	皮膚	眼科	耳鼻	歯科	婦人	麻酔	放射線	
2023年度 診療科別逆紹介率	122%	143%	126%	144%	206%	302%	134%	190%	160%	65%	182%	218%	179%	113%	101%	166%	0%	36%	853%	68%	126%	3%	115%



単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年度 手術件数	150	149	177	178	195	166	181	188	187	181	164	154	2,070
2022年度 手術件数	149	140	168	156	154	147	163	158	140	143	141	164	1,823





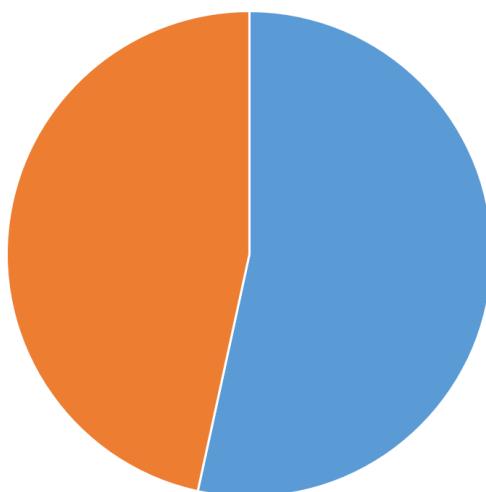
単位：%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
一般病床	70.9%	70.4%	72.5%	80.9%	84.8%	79.0%	71.7%	71.3%	80.4%	83.6%	83.2%	75.7%	77.0%
HCU病床	57.2%	55.0%	42.4%	47.8%	62.2%	44.8%	34.9%	48.1%	39.4%	47.5%	51.3%	52.7%	48.6%
回復期リハビリ病棟	63.9%	90.4%	95.3%	92.3%	82.8%	93.1%	76.6%	86.4%	93.4%	97.1%	100.1%	94.7%	88.8%
地域包括ケア病棟	88.9%	81.5%	80.2%	91.1%	97.1%	90.6%	76.6%	66.2%	93.6%	90.2%	94.3%	79.9%	85.9%

◆2023年度 院内がん登録件数

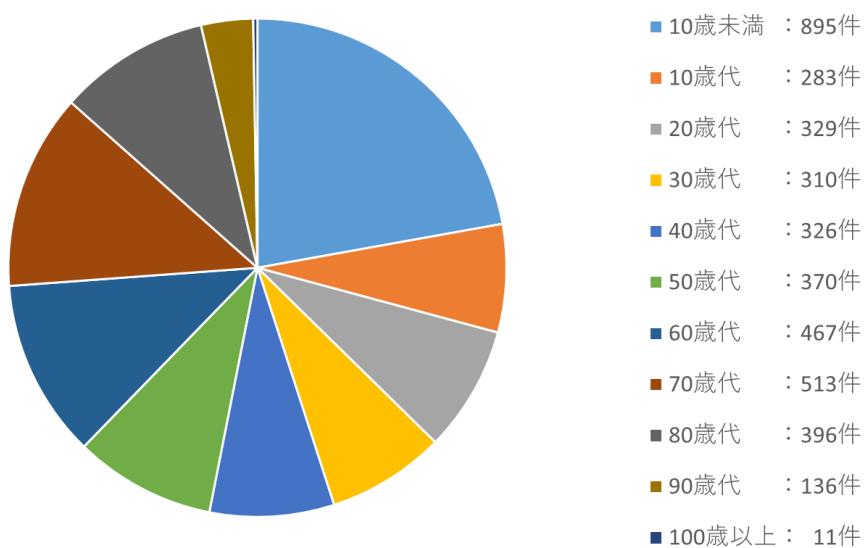
院内がん登録件数	801
前立腺	138
気管支および肺	111
膀胱	77
大腸	72
乳腺	62
皮膚	55
白血病	42
胃	35
膵	26
肝（肝内胆管含む）	21
頭頸部	20
悪性リンパ腫	20
腎	18
腎孟・尿管	16
咽頭喉頭	14
食道	9
胆嚢	9
甲状腺	8
肝外胆管	8
脳	6
胸腺	6
子宮頸部	3
小腸	2
悪性軟部腫瘍	2
卵巣	2
精巣	2
骨	2
眼	2
ファーテー乳頭部	1
胸膜中皮腫	1
外陰	1
子宮体部	1
原発不明	9

2023年度 新規患者性別数

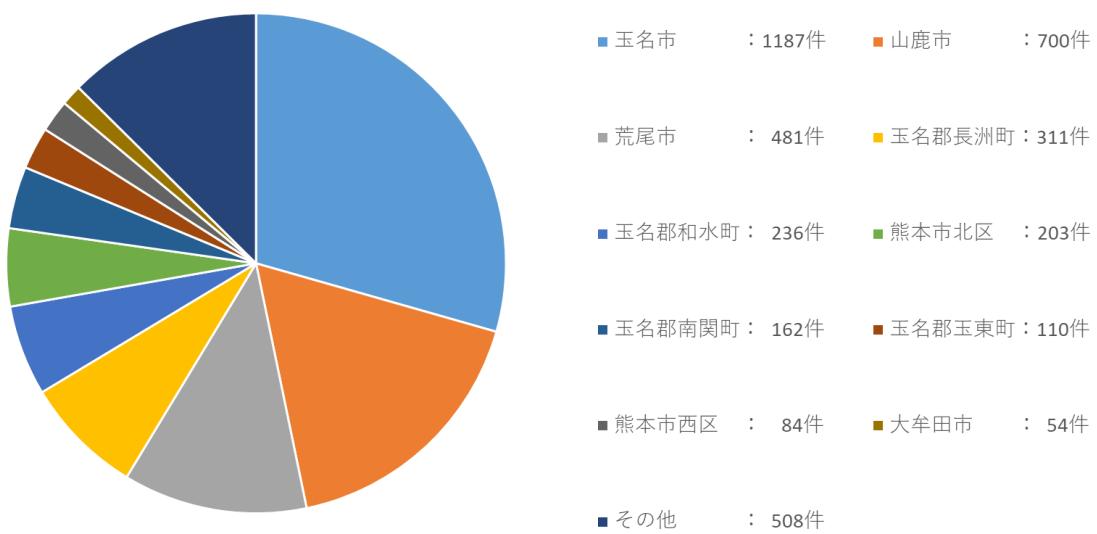


(参考:2022 年度 男性:2,294 女性:2,168 合計:4,462)

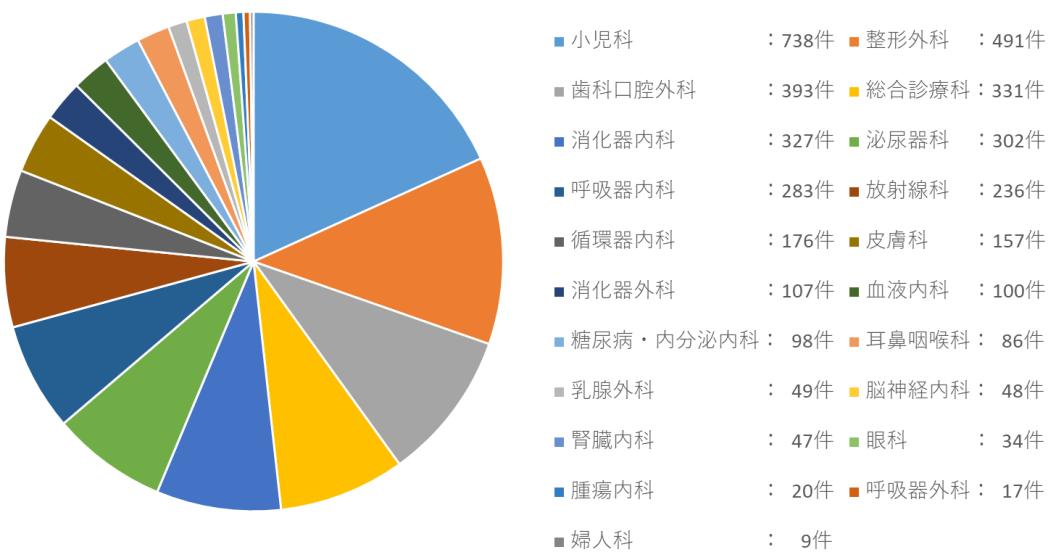
2023年度 新規患者年齢層別登録件数



2023年度 新規患者地域別登録件数（上位10地域）



2023年度 新規患者診療科別登録数

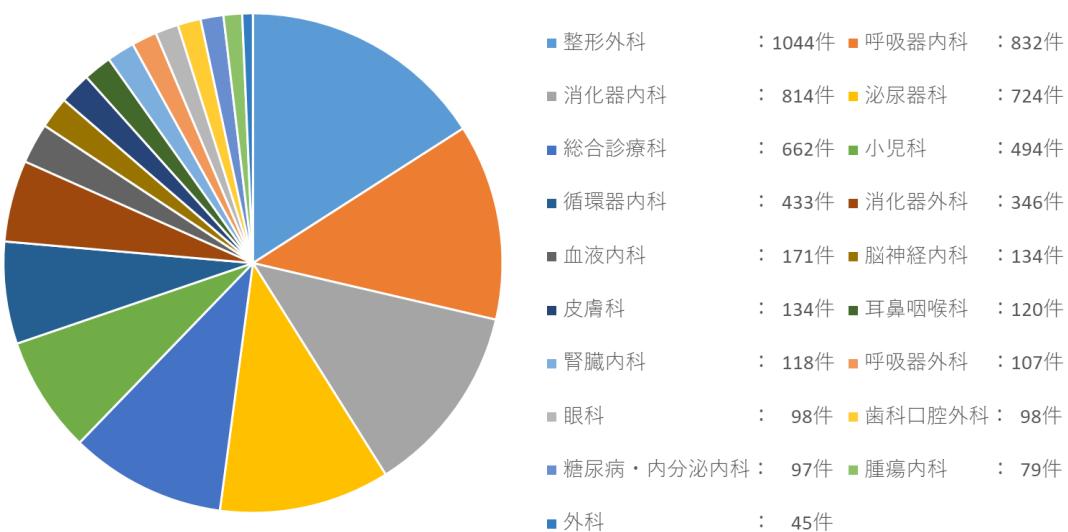


◆2023年度 退院患者 ICD分類別疾患統計

消化器外科	件数	眼科	件数
片側単径ヘルニア	74	核性白内障	41
胆石性胆のう炎	23	加齢性白内障	36
術後癒着性イレウス	21	間欠性外斜視	6
急性虫垂炎	16	成熟白内障	5
慢性胆のう炎	14	眼瞼内反症	3
絞扼性イレウス	11	翼状片	2
胃体部癌	10	2型糖尿病性白内障	1
直腸癌	10	眼瞼皮膚弛緩症	1
虫垂周囲膿瘍	10	術後虹彩後癒着	1
上行結腸癌	7	内斜視	1
整形外科	件数	消化器内科	件数
大腿骨頸部骨折	114	大腸憩室	69
大腿骨転子部骨折	112	総胆管結石	59
腰椎椎体骨折	62	大腸ポリープ	45
橈骨遠位端関節内骨折	62	総胆管結石性胆管炎	35
胸椎椎体骨折	27	急性虚血性腸炎	24
鎖骨骨折	27	膵頭部癌	22
腰椎及び骨盤多発骨折	26	胆石性胆のう炎	22
腰部脊柱管狭窄症	25	急性胆管炎	19
上腕骨近位端骨折	21	胆のう癌	18
膝蓋骨骨折	21	直腸癌	17
泌尿器科	件数	呼吸器内科	件数
前立腺癌	162	誤嚥性肺炎	182
尿管結石症	56	COVID-19	144
膀胱側壁部膀胱癌	49	細菌性肺炎	120
急性腎盂腎炎	37	上葉肺癌	59
感染性結石性腎盂腎炎	36	下葉肺癌	41
前立腺肥大症	36	特発性間質性肺炎	36
膀胱後壁部膀胱癌	32	気管支喘息発作	16
尿管癌	21	睡眠時無呼吸症候群	15
腎細胞癌	17	慢性閉塞性肺疾患の急性増悪	12
膀胱良性腫瘍	16	続発性気胸	10
血液内科	件数	循環器内科	件数
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	46	うつ血性心不全	110
多発性骨髓腫	22	急性下壁心筋梗塞	30
急性骨髓性白血病	18	急性前壁心筋梗塞	26
血管免疫芽球性T細胞リンパ腫	8	労作性狭心症	24
低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫	7	陳旧性心筋梗塞	20
特発性再生不良性貧血	6	心アミロイドーシス	15
特発性血小板減少性紫斑病	5	急性後壁心筋梗塞	13
骨髓異形成関連変化を伴う急性骨髓性白血病	5	洞不全症候群	9
骨髓異形成症候群	2	心臓電子器具の機械的合併症	9
成人T細胞白血病リンパ腫・リンパ腫型	2	急性大動脈解離	9
耳鼻咽喉科	件数		
慢性扁桃炎	29		
アデノイド肥大を伴う扁桃肥大	14		
睡眠時無呼吸症候群	10		
扁桃周囲膿瘍	6		
扁桃肥大	6		
良性発作性頭位めまい症	4		
鼻出血症	2		
喉頭蓋のう胞	2		
突発性難聴	2		
中咽頭側壁癌	2		

脳神経内科	件数	腎臓内科	件数
アテローム血栓性脳梗塞	35	末期腎不全	59
ラクナ梗塞	20	IgA腎症	13
心原性脳塞栓症	20	うつ血性心不全	6
内耳性めまい	6	急性腎前性腎不全	4
特発性末梢性顔面神経麻痺	6	慢性腎臓病ステージG4	4
症候性てんかん	4	細菌性肺炎	4
パーキンソン病	4	良性発作性頭位めまい症	3
熱中症	3	誤嚥性肺炎	3
良性発作性頭位めまい症	3	心臓急死	3
脳幹部アテローム血栓性脳梗塞	3	透析シャント閉塞	2
腫瘍内科	件数	皮膚科	件数
上葉肺腺癌	25	蜂窩織炎	18
下葉肺腺癌	20	顔面皮膚癌	15
誤嚥性肺炎	8	粉瘤	14
細菌性肺炎	8	体幹の脂肪腫	5
慢性閉塞性肺疾患の急性増悪	3	頭部皮膚癌	4
急性薬物誘発性間質性肺障害	2	心臓急死	4
右中葉肺癌	2	頭部・顔面の脂肪腫	4
特発性間質性肺炎	1	下肢の第3度熱傷	3
悪性胸膜中皮腫	1	マムシ咬傷	3
石綿肺	1	汎発性脱毛症	3
総合診療科	件数	呼吸器外科	件数
誤嚥性肺炎	55	下葉肺腺癌	20
細菌性肺炎	26	上葉肺腺癌	16
全身性廐用症候群	25	膿胸	13
うつ血性心不全	23	自然気胸	7
急性腎盂腎炎	22	肺良性腫瘍	4
COVID-19	20	続発性気胸	4
全身性横紋筋融解症	18	転移性肺腫瘍	3
心臓急死	18	右中葉肺腺癌	3
敗血症性ショック	17	肺上皮内癌	2
尿路感染症	12	悪性胸膜中皮腫	2
糖尿病・内分泌内科	件数	小児科	件数
2型糖尿病・腎合併症あり	15	食物アレルギー	34
2型糖尿病・糖尿病性合併症なし	11	インフルエンザ	30
2型糖尿病・多発糖尿病性合併症あり	8	細菌性肺炎	26
2型糖尿病性ケトアシドーシス	6	急性気管支炎	25
2型糖尿病・糖尿病性合併症あり	6	COVID-19	23
1型糖尿病性ケトアシドーシス	4	急性上気道炎	22
細菌性肺炎	4	RSウイルス細気管支炎	20
誤嚥性肺炎	4	熱性痙攣	18
2型糖尿病・神経学的合併症あり	3	気管支喘息発作	16
2型糖尿病性低血糖性昏睡	2	川崎病	16

2023年度 ICD分類別診療科別疾患数



2023年度 ICD分類別年齢層別退院患者数

